

第29回全国高等学校総合学科教育研究大会 高知大会 第6回四国地区高等学校総合学科教育研究大会 実施報告書

2024



会期 令和6年10月31日(木)～11月1日(金)

会場 高知県民文化ホール・高知会館
高知県立高知東高等学校
高知県立春野高等学校





会場



全体会



大会記念品



杉マウスパッド
〈デザイン〉 高知県立高知東高等学校美術部生徒
〈製作協力〉 高知県立高知農業高等学校森林総合科

参加人数

内 訳			参加人数
地区	北海道・東北	北海道 青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島	22
	関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 山梨 東京 神奈川	27
	北信越	新潟 富山 石川 福井 長野	15
	東海	静岡 愛知 岐阜 三重	21
	近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	22
	中国	鳥取 島根 岡山 広島 山口	39
	四国	徳島 香川 愛媛 高知	63
	九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄	18
講師 2 来賓 4 サポートスタッフ 18 生徒 15			39
合計			266

1 日目

公開授業	参観者	バス利用	バス台数
高知県立高知東高等学校	119	102	3
高知県立春野高等学校	44	41	1
合計	163	143	4

弁当注文 178個

全体会 227名

情報交換会 142名

2 日目

分科会	参加人数
1 「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」の指導について	63
2 教育課程編成及び展開上の諸課題について	31
3 「キャリア教育」・「進路指導」のあり方について	28
4 総合学科としての特徴的な取組・特色ある取組について	35
5 総合学科の成果と課題について	22
合計	179

1 挨拶

全国総合学科高等学校長協会 理事長 東京都立晴海総合高等学校長	佐藤 信孝	6
------------------------------------	-------	---

第29回全国高等学校総合学科教育研究大会高知大会 大会実行委員長 高知県立高知東高等学校長	山田 憲昭	7
--	-------	---

2 来賓祝辞

高知県教育長 長岡 幹泰	8
--------------	---

3 講話 「『探究』の重要性について ―なぜ、今、『探究』なのか―」

文部科学省初等中等教育局視学官 藤枝 秀樹	9
-----------------------	---

4 全体発表

高知県立室戸高等学校 「世界的な視野を持って、地域で活躍できる人材の育成」	17
高知県立春野高等学校 「果樹農業の未来を救う」	23
高知県立宿毛高等学校 「宿毛市を旅の通過点にしないために」	28
太平洋学園高等学校 「防災イノベーション!! ―フラットな関係を強みに―」	33

5 記念講演 「逃げなければ道は開ける」

日興アセットマネジメント株式会社 池 透暢	38
-----------------------	----

6 分科会

第1分科会 「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」の指導について	43
発表者 ①長野県丸子修学館高等学校 教諭 中野 篤男	44
②香川県立三木高等学校 教諭 廣林 研史	57
指導・助言者 岩手県立岩谷堂高等学校 校長 山影 稔男	69

第2分科会 教育課程編成及び展開上の諸課題について	71
発表者 ①茨城県立高萩清松高等学校 教諭 揚石 俊志	72
②宮城県立本庄高等学校 主幹教諭 松浦 啓一郎	76
指導・助言者 東京都立杉並総合高等学校 校長 藤本 晋哉	82

第3分科会 「キャリア教育」・「進路指導」の在り方について	86
発表者 ①福島県立小野高等学校 教諭 渡辺 郁子	87
②鳥取県立青谷高等学校 教諭 奥田 政治	104
指導・助言者 兵庫県立有馬高等学校 校長 小川 秀雄	116

第4分科会 総合学科としての特徴的な取組・特色ある取組について	118
発表者 ①香川県立観音寺総合高等学校 教諭 岩中 妙子	119
②北海道清水高等学校 教諭 餌取 和臣	130
指導・助言者 広島県立高陽東高等学校 校長 土屋 研	134

第5分科会 総合学科の成果と課題について	136
発表者 ①岐阜県立益田清風高等学校 教諭 横井 宏次	137
②兵庫県立和田山高等学校 教諭 黒崎 真理子	149
指導・助言者 長崎県立佐世保東翔高等学校 校長 峰 薫	155

理事長 東京都立晴海総合高等学校長 佐藤 信孝



皆様こんにちは。幕末の志士を輩出した歴史と太平洋に面した大変美しい海岸線を有する名勝の地、この高知県におきまして第29回全国高等学校総合学科教育研究大会が開催されますことを心より御礼申し上げます。高知県をはじめ、四国地区総合学科校長協会、高知県教育委員会のご尽力に熱く御礼申し上げます。また、本日は文部科学省初等中等教育局視学官、藤枝秀樹様よりご講話をいただけますことを心より感謝申し上げます。

さて、今回のスローガン「新時代に向け、新たな価値を創造する総合学科」これに続く副題が「予測困難な社会に対応する教育の実践」となっております。社会の変化に対して先の見通しを立てにくい状況の中で、人としてどのように人生を充実させ、社会に貢献できる人間としての歩みを進めていくべきかは、我々の住む日本のみならず、世界中の教育界にとって、今共通の課題と言っても過言ではありません。人工知能 AI に代表されるこの数年間の情報技術社会の進歩は目を見張るものがあります。私たちはまさに、超スマート社会 Society 5.0を歩んでいるところであります。しかしながら、この新しい社会においても高度な技術革新が多くの人々に恩恵を与えるシステムを構築し、様々な格差や環境問題などの課題解決を通じて持続可能な社会を実現していくのは、最終的には人の役割であります。今という時代は人が的確に判断し、決断していくための英知と勇気がいつの時代にも増して求められているものと考えます。

さて、令和の日本型学校教育を構築するためには個別最適な学びと共同的な学びの両立が強調されております。総合学科においては、それぞれの地域や学校の特性を生かしながら多くの選択科目を備え、学科の中で生徒が自ら学びを決断し、その意欲と志の持続を持って自分の未来を引き寄せることのできる、そういうシステムを備えた学科、それが総合学科でございます。答えのない課題に対して自ら答え

を創造していく力、課題を発見し解決していこうとする力など、このスマート社会において重要な力、こういったものの育成を課題研究など総合学科独自の科目を通じて先行的に実施し、その知見を蓄積してきたところです。こうしてみれば、全国の総合学科高校は令和の日本型教育の推進に大きな役割を果たすことができると私は確信しております。日本の総合学科高校がスタートして30年が経ちました。総合学科で学び、社会へ羽ばたいた生徒が人の親となり、その子弟が総合学科に入学する時代となりました。総合学科の認知に一層の拍車がかかることを期待したいところです。

結びに、この高知大会に全国からご参集いただきました総合学科教育に関わる全ての皆様のますますのご活躍を祈念して挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

大会実行委員長

高知県立東高等学校長 山田憲昭



皆様、ようこそ高知県にお越しくださいました。第29回全国高等学校総合学科教育研究大会を全国各地から多くの関係者の皆さんをお迎えして開催できますことを心から嬉しく思います。本日はご多用の中、文部科学省初等中等教育局視学官 藤枝秀樹様、高知県教育長 長岡幹泰様、高知県高等学校長協会会長 長岡辰治様はじめ、多数のご来賓関係者の皆様にご臨席いただきましたこと、心から感謝御礼申し上げます。また藤枝様にはこの後、『探究』の重要性についてなぜ、今、『探究』なのかーと題してご講話をいただくことになっております。重ねて御礼申し上げます。また、本日の記念講演の方でございますが、去る9月に車椅子ラグビー日本代表チームのキャプテンとしてパリ2024パラリンピックに出場され、見事金メダルを獲得された池透暢様から「逃げなければ道は拓ける」と題してご講演をいただきます。そして本日明日と発表していただきます 実践発表や分科会を担当くださる先生方、そして、各校の生徒の皆さんには本大会のためにお時間をとっていただきましたことをこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

本大会は、ご承知の通り、総合学科高等学校における教育の質を高め、未来を担う生徒たちにより良い学びを提供するための教員の研修の場、学びの場として毎年全国各地で輪番で開催をされています。この度開催権を務めます高知県では、平成9年に県立室戸高等学校が県内初の総合学科高等学校として創設され、現在ではすでにビデオの方でご覧いただいた県立4校、私立1校、合わせて5校が設置され、約1,800名の生徒が学んでいます。5校それぞれ、地域や生徒、保護者のニーズを反映する形で設置・運営されておりまして、1校1校がそれぞれの特色を持ちながら未来の高知県を担う人材の育成に取り組んでいるところであります。また開催地としまして四国地区でございますが公立・私立を含めまして現在18校の総合学科高等学校がございます。毎年4県の総合学科高等学校長が当番県に参集をしまして、情報交換を進めております。

また2年に一度は持ち回りで四国大会を開催し、特

色ある取り組みをご発表いただき、4県それぞれ持ち帰っていただいて学校運営や教員の指導力の向上に生かしているところです。今大会はその四国大会も兼ねております。四国地区におけます総合学科高等学校の今後の指導の改善、そして研究のネットワークが一層強化され、日常的な交流につながっていきますことを、大いに期待をしています。

さて、本大会の「新時代に向け、新たな価値を創造する総合学科～予測困難な社会に対応する教育の実践～」というスローガンがございますが、その中の新時代という言葉、この言葉は令和4年度から年次進行で実施されてまいりました、高等学校学習指導要領が本年度以降は完全実施となる新しい局面に入っていく、そういう意味を含めてございます。学習指導要領で謳われます一人一人の生徒が自分の良さや可能性を認識すると思い、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、多様な様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能社会の作り手となることができるようにするための教育課程が、この3年間を経て1つの節目を迎えることになります。特に高等学校学習指導要領では、総合的な探究の時間が極めて重要な役割を担っていると考えています。単に知識の獲得をするだけではなく、実社会の課題に対して自ら問いを立て、調査分析を行い解決策を見出す。このようなプロセスを通じて思考力や判断力を高める場合として位置付けられていますので、総合的な探究の時間を含め、教育課程全体を検証する絶好のタイミングではないかという風に考えております。そして、そのタイミングで開催をできます本大会が、参加者の皆様にとって有意義な学びの場となり、これまでの実践を振り返り、今後の指導や評価の向上・改善につなげていただくことを心より願っております。

今回、高知に初めてお越しの方もいらっしゃるかもしれません。何度も高知に足を運んでくださってる皆さんもいらっしゃるかもしれませんが、本県の魅力は何と言っても美しい自然と豊かな文化ではないかと私は思います。太平洋に面した壮大な海岸線、日本最後の清流と称される四万十川、坂本龍馬の生誕地。温暖な気候の中で育まれたカツオのタタキやゆず。そういった特産品などは全国でも高く評価されているところです。今はまだ、戻り鰹の季節かと思います。脂が乗っていて身が大きい。濃厚な味を味わえるカツオのタタキをぜひご賞味いただけたらという風に思います。

結びになりますが、本大会の成功、皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げるとともに、本大会の開催に際し、多大なご尽力ご指導を賜りました文部科学省、並びに高知県教育委員会事務局をはじめとする多くの関係者の皆様に心より感謝を申し上げ、大会のご挨拶とさせていただきます。本日より明日までよろしくお願いいたします。

高知県教育委員会教育長 長岡幹泰



高知県教育長の長岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。第29回全国高等学校総合学科教育研究大会が本県において盛大に開催されますことにお祝いを申し上げます。とともに、全国各地からご参加いただいた皆様を高知県を代表して心より歓迎をいたします。高知といえば坂本龍馬を真っ先にイメージされる方も多いのではないかと思います。幕末において批判を恐れず、藩や幕府といった、当時としては日本社会の当たり前の枠組み、価値観に決してとらわれることなく、日本人全体のために行動したのが坂本龍馬でした。今大会のスローガンは「新時代に向け新たな価値を創造する」であります。予測困難な社会において誰も考えなかったようなことを成しえていった坂本龍馬のような人材が現代においては、そしてこれからの社会においては、求められるのかもしれません。本県では本年3月に第4期高知県教育振興基本計画を策定し、郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り開く人材の育成など、3つの基本理念を掲げ、現在の坂本龍馬を、さらに牧野富太郎博士あるいはアンパンマンなど、人々と協力しながら真理を追究し、持続可能な社会の作り手となる人材を育てるべく、様々な取り組みを進めております。

これからの社会においては、人々の価値観はますます多様化し、常識や哲学あるいは生き方そのものが変化することも予想されます。このような時代にあるからこそ、世界中の様々な人々と協働し、多様な価値観を認め合いながら、未知の状況にも粘り強く立ち向かうことができる資質・能力を備えることが必要となります。各高等学校の総合学科では生徒が興味関心や希望する進路に応じて設定した課題に取り組む中で、多様な視点と協働の精神を培い、社会の課題解決に貢献できる人材を育む教育を進めて

おられます。現代社会において、総合学科が果たすべき役割は大変大きいものと考えます。今回、全国の総合学科に関わる皆様一堂に会し、各学校の実践と研究の成果をもとに研究協議や情報交換がなされますことは誠に意義深いことであり、それらの内容が今後の学校運営にあるいは授業実践に生かされることを大いに期待するものであります。本日は本県の総合学会の実践発表があり、明日には5つの分科会において各県の取り組み事例の発表があるものと伺っております。本大会が互いの経験やアイデアを共有し、より良い総合学科教育を築いていくための一助となることを願っております。

最後になりましたが、本大会の開催にご尽力をいただきました関係の皆様にお礼を申し上げますとともに、全国高等学校総合学科の益々のご発展、そして皆様の今後のご活躍を心からお祈りいたしまして開会の挨拶とさせていただきます。

『『探究』の重要性について 一なぜ、今、『探究』なのかー』

文部科学省初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹

皆さん、こんにちは。文部科学省の視学官をしています藤枝と申します。まずは先生方におかれましては、日頃より高等学校の総合学科の学校教育活動に日々ご尽力いただきまして誠にありがとうございます。また、今回このようにお声掛けいただきまして本当にありがとうございます。私は四国の香川県で長く教員生活24年間を過ごしまして、文部科学省に入ってから11年目になるので、まっとうに教員生活をしてれば35年目になります。今日はせっかくお声がけいただきましたので、先生方のために、明日からの授業のために、ちょっとでも参考になるようなお話ができればいいなと思っています。タイトルは『『探究』の重要性について 一なぜ、今、『探究』なのかー』です。高知の実行委員会から探究に焦点を当ててほしいとのお話がありましたので、特に探究に焦点化してお話をさせていただきます。

まず、総合学科の現状について少しお話をさせていただきます。総合学科がいつ作られたのかですけれども、平成3年の4月に中央教育審議会の答申で、「新しい時代に対応する教育の制度の改革について」で出まして、その中に普通科と職業学科に大別されている学科区分を見直し、普通科と職業学科等を統合するような、新たな学科として設置が提言されたんですね。これが一番最初なんです。なので一番最初に総合学科が開設されて今もう既に30年の歴史のある大学科になってるわけですね。ちなみにこれは先生方もご存知の通り、高等学校の学習指導要領においては、「産業社会と人間」という科目等を原則として入学年次に履修させることと、あとは「産業社会と人間」及び専門教科・科目を合わせて25単位以上を開設すること等が定められている。それに基づいて、先生方の学校でいろんな系列があって、学習活動が行われていると思います。こちらは令和5年度の全国の高等学校の数、どれくらいあるかっていうのを示したものなんですけれども、今、高等学校は全日制、定時制、通信制を含めてだいたい5,000校弱あります。5,000校弱あって、そのうち一番多いのは全日制課程なんですけれども、83.6%を占めていて、定時制が11.2%、通信制が5.2%という割合で、今高等学校の数が推移してるという状況です。一番多いのが普通科で、だいたい5割強あって、専門教育を主とする学科、たとえば商業科とか工業科とか農業科とか、それぞれ少ないんですけども、これらを全部合わせるとだいたい4割弱くらいあって、一番肝心の総合学科は令和5年



度では全国で378校あります。378校あって5.8%ということで、多くはないけど少なくともなくて、一定程度の学校が総合学科になってるという状況になっています。

さて、ここからは今の高等学校教育改革の最近の動向ということで、お話しさせていただきます。現場にいますと、中央教育審議会の動きだとか国の動向を先生方が感じたり、考えたり、見たりする機会はなかなかないと思います。今高等教育改革って結構大きなうねりというか、そういう話題であって、中央教育審議会の中に「高等学校教育の在り方ワーキンググループ」、これからの高等学校はどうあるべきなのかを検討するワーキンググループが立ち上がっていて、しばらく議論をしている最中です。

まずは今日、高等学校教育はどうあるべきかということで、特に共通性と多様性、高等学校はそもそも多様性がある、けどもその中であって高校生でやるべきことは何なのか、という共通性も考えながらどうするかってことを検討する。さらに2つ目、高等学校制度の望ましい在り方について、例えば全日制と定時制と通信制の在り方。最近、子どもがどんどん減っているのは先生方もご存じの通り。ところが、高等学校でどんどん生徒の数が増えている課程があります。それは通信制です。通信制の子どもたち、今すごく増えてるんですね。この状況にあって、これからどうするのかってところを検討する。さらに少子化が加速する地域、これは地域間ですごく差があって、特に中山間地域ですね。こういうところはもう子供が本当にいない、どんどん学校が廃校になっていく、閉校になっていく、こういう状況の中で高校の在り方をどうするのかってことも

検討してほしい。さらに、令和3年の1月に令和の日本型学校教育に関する答申が出されて、それぞれの高校は今一度改めて自分の学校の立ち位置、いわゆるスクールミッションをきちんと見直して、それに基づいてスクールポリシーをきちんと作ってくださいということが決められました。これは法律上決められたんですけど、それを体現して社会に開かれた教育課程とか探究的な学びを実現するための校内外の体制について検討してほしい、というのが3つ目です。そして4つ目が、文理横断的な教育、文系か理系かっていう時代じゃない、どちらも大事だという時代にあってどうするのか。また、産業界と一体となった実践的な教育というのもやっぱりやっていけないといけない、こういうことを考えてほしいということで、この委員が中心になって今議論の真っ最中なんです。文部科学省のホームページのアドレスを記載してますので、興味・関心のある方は見ていただきたいと思います。

昨年の8月に「中間まとめ」というのが出されました。この「中間まとめ」で何が言われたかというのを、少し整理をしておきたいと思います。

まずは先ほども申し上げたように、これからの高等学校の在り方に関する基本的な考え方としては、多様性への対応と共通性の確保という2つの大きなポイントがあって、それぞれについて各論点に対する現状、それから課題として3つ大きなものが出されています。

1つ目は「少子化が加速する地域における高等教育の在り方」、2つ目が「全日制・定時制・通信制の望ましい在り方」、3つ目が「社会に開かれた教育課程の実現、探究・文理横断・実践的な学びの推進」。今日お話しするメインテーマであるこの「探究」というのは、まさにここに位置付けられてるんですね。総合学科の学校だけでなく、全ての学校でこれからの高等学校のあるべき姿として、探究が大事なんだというのがここでも打ち出されているわけですね。この資料は昨年の8月に出されたので、高校の現場になかなか浸透しなかったということもあって、2ページ目に掲載させていただきましたが、高等学校の先生も一緒に分かってもらって一緒に歩んでもらわないといけないということで、高等学校の先生用に分かりやすい資料を3月29日に出了しました。これがその「生徒を主語にした高等学校教育の実現に向けた取組」という簡単な冊子です。デジタルの冊子なんですけど、高等学校教育を取り巻く現状と課題ということで、先ほど申し上げた3つの課題について書かれてるわけですね。今日は「探究」に焦点を絞って説明をしていきます。読みますので一緒に見ていただけるとありがたいです。実はですね、高校生の3割が家等で全く勉強しないなど、

学習時間の課題や授業の満足度、理解度に課題があります。また、多くの高校で文理分けがなされ、特定の教科について十分に学習しない傾向もあります。さらに大学においてはデジタルなどの成長分野への学部再編などが進んでいますが、文理選択で理系を選択する生徒が少ないという現状もあります。そのため、生徒の各教科・科目への関心を文理横断的に幅広く高めると同時に、将来の自分の在り方や社会との関わり方を意識しながら学べるようにすることが必要ですということが書かれています。

具体的にはそれぞれ3つの課題に対して、中央教育審議会のワーキンググループではこういう対策案が考えられるということで示しています。

探究に関する対策案はこちらになります。全部で9つの対策案が出されています。例えば「探究的な学びなどの推進」、これはまさに今日のメインテーマになります。それから、「グローバル人材育成に資する拠点校の整備」「産業界等と専門高校の連携・協働の強化」、総合学科の中には関係があるところもあると思います。もちろんグローバルもそうですね。それから「理数系教育の更なる充実」「学校における働き方改革の推進」それから「教師の資質・能力の向上のためのオンライン研修コンテンツの開発支援、探究型の研修の開発・普及」「大学入学者選抜の改善」そして「学校と地域社会との連携・協働の促進」「学校間連携等の促進」ということで、この9つについて具体的にその対策案が出てるんですけども、今日は1番の探究に絞ります。探究的な学びの推進については探究・文理横断・実践的な学びの推進や高校の特色化・魅力化を進めます。そのために学校外の様々な関係機関等との連携・協力体制の整備やその連携・協力体制を支えるコーディネーターを学校に配置できるよう支援します。学校も今まで学校関係者のみに限られていた、いわゆる閉鎖的な環境から学校の外の方に力を借りたり、もちろん今までも十分やっていると思うんですけど、もう一度見直して子どもたちが探究的な学びができるように考えましょうということが言われてるんですね。

今年度から始まった「高等学校DX加速化推進事業」、いわゆるDXハイスクールというもののなのですが、昨年の補正予算で急きょ予算がついたもので、こちらから各都道府県教委に募集を開始したのが年度のかかなり後ろの方で、学校現場はちょうど大学入試と高校入試と重なっている時期でした。高等学校5,000校弱のうち1,000校をDXハイスクールにすることになりました。国の施策で「経済財政運営と改革の基本方針」いわゆる「骨太の方針」と呼ばれるものの中にあります。

一部だけ読みます。DXハイスクール事業の継続的

な実施等による初等中等段階における「探究的・文理横断的・実践的な学びの推進」や「理数系教育の推進」「情報教育の強化・充実」と書いてあるんですね。令和5年度の補正予算が100億円だったんですけど、さらに令和7年度は規模をもっと増やすということになっていて、簡単に言うと現在の1,000校ぐらいいはそのままだと750万になって、さらに新規の採択校をあと250校増やすってことが出たんですね。新規の学校には1,000万出しますよということになっていて、結局DXハイスクールを1,250校にするということは、今までは5校に1校の割合だったのに、今度は1,250/5,000なので4校に1校の割合なんですね。それぐらいの割合でこのDXハイスクールを拡大したいというのが、国の方針で出されています。採択校に求める具体的な取り組み例ということで、例えばこんな形でやってほしいということがそこに書かれてあります。昨年の採択校の決定数なんですけど、各学校年度末のとおてもお忙しい時に募集をかけて1,000校集まるか私達も心配だったのですが、1,097校の申請がありました。さらに採択校が1,010校で内訳はすでに文部科学省のホームページに出ています。総合学科の学校は380校あるうちの70校が今DXハイスクールになっているんですけど、まだDXハイスクールになっていない、まだ検討していない学校はできれば検討していただいてもいいのかな、と思います。

探究的な学び、なぜ今探究なのかという話に戻します。これは、今回の学習指導要領の必修科目を中心にまとめたスライドなんですけど、今回探究という名のついた科目が増えているんですね。今年ちょうど新しい教育課程になって3年目になるんですが、探究と名のついた科目はその前の教育課程では1つもなかったんです。

なのにこれぐらい増えたということはまさに今トレンドなんですね。探究というのがすごく求められているということなんですけど、例えば国語の中で古典探究というのがあります。古典探究はどういう科目かというと、生涯にわたって古典に親しむことができるよう、我が国の伝統的な言語文化への理解を深める科目なんですね。それから地理探究、地理総合の学習を踏まえて、空間的な諸事情を系統地理的地質的に主題を設定して追求した上で、我が国の国土像を探究する科目なんですけど、他にも日本史探究だとか世界史探究だとかっていうのができてます。ただ、これらの科目は基本的にその科目その教科の中で探究するんですね。古典探究だと古典っていう枠の中で探究する、日本史探究だと日本史っていう枠の中で探究をしていくわけなんですけど、どこの学校でも関係があるっていうのはこの「総合的な探究の時間」です。この総合的な探究の時間は教科の枠を

外して、全教科横断的にやることになります。元々総合的な学習の時間でした。けども、中央教育審議会で議論する中で、高校の総合的な学習の時間についていろんな批判や意見が出て、抜本的に総合的な学習の時間を変えなきゃいけないと言われて、まず名前を変えようと、「総合的な探究の時間」という名前に変更しました。結局、小中学校の取り組みの成果の上に立った実践がなかなかうまく展開できてないということがいろんなところで報告された関係もあって、早くした方がいいということで3年前倒しで行われました。だから、総合的な探究の時間は今年6年目なんです。6年目だから全国の高校でこの総合的な探究の時間がうまく回っていないといけないんですが、正直に申し上げてまだまだってところもたくさんあります。先ほど申し上げた、古典探究とか日本史探究とこの総合的な探究の時間、何が違うかと言うとそもそも違う。「自己の在り方生き方を考えながら課題を発見し、探究の過程を一層充実することにより、教科等横断的総合的な学習を通して、各教科等で育成する資質・能力を、相互に関連付け、実社会・実生活と自己との関わりの中で活用できるものとするを重視」ということが学習指導要領解説に書かれてるんですけども、「総合的な学習の時間」と「総合的な探究の時間」は何が違うのかって結構わかりにくい。それで今、総合的な探究の時間の解説には、わかりやすくイメージ図でその違いをまとめてあります。左側が小学校中学校でやってる総合的な学習の時間、右側が高等学校の総合的な探究の時間、何が違うか。それは、小学校中学校は「課題を設定し、解決していくことで、自分の生き方を考えていく」、課題を解決することを通して、自己の生き方を考えていくって、要は課題と自分というのが別々になってる。けども、高校はそれが1セットですよと、課題と自分は一体的で不可分だと。「自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を発見し、解決していく」ということで、小学校中学校の総合的な学習の時間よりもフェーズが一つ上だということが、学習指導要領の解説ではこのようなイメージでまとめられています。

さらに総合的な探究の時間については、その探究の過程をちゃんとやりましょう。まず「課題を設定」して「情報収集」して「整理・分析」して、そして最後に「まとめ・表現」する、という探究の過程をしっかりとやりましょうねということなんです。実はこれはずっと総合学科がやってきたことなんです。この30年間、先行して先生方がずっとやってきたことなんですね。それがやると他の普通科とかいろんな学科でもやらなきゃいけないということになって、こういう形で今体现されてる状態なんで

す。先ほど申し上げたように、他の探究との違いは、まず特定の教科科目に収まらないで横断的・総合的ということ。それから複数の教科科目における見方・考え方というものを横断的・総合的に働かせて探究するというところ。そして3つ目は「解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や唯一の正解が存在しない課題に対して、最適解や納得解を見いだすことを重視」している。答えがひとつだけじゃないし、本当にそれが正解かどうかもわからない、そういうものに対して果敢にチャレンジする。チャレンジして、トライアルアンドエラーを繰り返す、こういうことを総合的な探究の時間でやろうよ、ということが言われてるわけなんですね。

では、「探究」というのは、その総合的な探究の時間とかあるいは何々探究と名のついたその科目だけやればいいのかと、他の普通の科目は今まで通りに授業したらいいのかということ、それは違う。今回は全教科を通して、「探究」ということを前面に出しましょうということが学習指導要領に言われていて、基本的にどの教科科目においても、先生方のご専門の教科についても、「探究」というものをしっかり意識して授業をする必要があるよ、子どもが探究的な学びをできるように授業を変えていかないといけないということが今回言われているわけです。例えば、理科は探究の過程があり、比較的具体的なイメージがしやすいので、理科の話を例として説明しますね。これは中央教育審議会の答申で出された資料で、理科の探究の過程のひとつのイメージです。いろんな探究の過程があるんですけど、非常にオーソドックスな探究の過程の例ですね。簡単に言うと、理科は対象が自然事象、それを子どもが初めて見て面白いな不思議だな、どうしてだろう、そこが一番最初の気づきなんですね。そこから課題を作る。これってどうなってるんだろうか、それを調べようっていう課題が生じて、仮説を設定します。それってこうじゃないかって予想、いわゆる予想仮説、これを立てて実際にそれをするために観察・実験の計画をして、実際に観察・実験をして、結果を処理してそこからどんな法則性や規則性が言えるのかっていうことを考察したり推論する。それが行ったり来たりすることで、見通しと振り返りがある。最終的にレポートとかプレゼンテーションという形で表現・伝達する。そういう一連の流れ、ひとつのイメージの例なんですけど、そういうことを通して次なる新しい課題が生じるわけですね。

まとめに入りたいと思います。現行の教育課程はやっと3年目なのに、こちらでは次の学習指導要領の改訂に向けて今少しずつ動いています。次どうなるかはやっぱり社会がどうなってるかを考えていけないといけないんですね。現行の学習指導要領は、

2030年の未来を考えながらそのときはこうなってるんじゃないかということを想定しながら作ったんです。次の学習指導要領はさらに10年先なので、2040年の社会はどうなってるんだろう、世界はそのときどうなってるか、今いろいろ考えてる最中です。話を戻しますが、「今なぜ探究なのか」っていうと、まさに外的なトレンド・背景があるんですね。ひとつは「人口減少、少子高齢化」です。それから「グローバル化」ですね。それから、「多様性と包摂の重視」、英語の方がわかるかもしれません。ダイバーシティとインクルージョンと言います。もう少しわかりやすい言葉で言うと、「みんな違ってみんないい」という意味です。みんな違ってみんないいんだってということをお互いに認め合う、自分もいいし他の人もいいよねってことを認めるような、そういう時代になってるということです。さらに「デジタル化」です。それから、「変化の激しい不確実性の時代」、VUCAの時代と言います。VUCA、英語の4つの単語の頭文字をとってVUCAの時代と言います。何が起るかわからない、どういうことがあるかわからない、そういうような時代に既になっています。さらに「人生100年時代」ですね。

こういう時代にあって子どもたちをどう育てていくのかっていうと、これから何が起るかわからない、この未知の課題に対応するためには、指示待ちの子どもを作るんじゃなくて、やっぱり自分で考えて自分なりの答えを見いだす、つまり探究していくというのが大切なというふうに私は思います。お手元の資料にはないんですけど、今普通科改革がすごく言われてます。普通科が今まで総合学科がやってきたことと同じことを今やろうとして、特色ある学科を設置して、探究をガンガンやろうとしているわけです。一方で、私たち総合学科はどうするのか、30年という長く積み重ねてきたアドバンテージを生かすことができるか。これ、実はとっても大切な視点かなというふうに思います。ただ、学校によっても課題が違うわけですね。だからこそ、唯一解はないし、各学校が主体的にどうするのかというのを考える必要がある。先生方も、今自分がいる総合学科の学校で、何とか子どもたちを育てなきゃいけない、まさに自分事にするっていうのが非常に求められてるかなというふうに思います。今日生徒さんも来ていますが、やらされではなくて探究活動がうまくいくと、まず生徒のやる気がアップします。次に学力がアップします。ひいてはその生徒の進路やキャリアに役立つということが結構いろんなところで言われています。やらされではなくて、生徒自身がやってみようっていう内発的な意欲や挑戦する気持ちを大事にしていきたいと思います。

最後に先生方をお願いします。まず先生方は教えなきゃいけないと、どうしても思いがちですよ。そうじゃなくて、やっぱり先生方も探究を面白がっていただきたいと思います。答えはわからないんです。正解はどこにあるかわからない。だから先生方も探究を面白がってほしい。子どもたちが失敗しても粘り強く励ますなど、子どもたちの先導だとか伴走、その相手に是非なっていたきたいと思います。あと2つ目、探究の成果とか進路実績だけを求めがちなだけども、子どもたちが高校卒業した後、長い人生の中でちゃんと人として生きていく、そのための探究する力っていうのをやっぱり身につけてほしいですね。だから、探究の過程における子どもの思考や態度を重視した、ティーチングではなくてコーチングを行ってほしいと思います。だからこそ、普段の授業でも、先生方の専門の教科の授業であっても、探究を意識した授業改善に取り組んでほしいと思います。教師も毎日が勉強で、不断の授業改善が求められます。子どもたちの学びや成長を教師が感じられる、私たち教師もやりがいがあって子どもも楽しい、そういうような授業、そういう探究をぜひ展開していただきたいと思います。子どもたちが未来の創り手となるよう、私たち教師も頑張ってみませんか。ということで、今日ご参加いただきました先生方の益々のご活躍と、総合学科高校の更なる活躍を心から祈念して私の話を終わりにしたいと思います。最後までご清聴いただきましてありがとうございました。

視学官レジюме

2024/10/31 全国高等学校総合学科教育研究大会高知大会

「探究」の重要性について 一なぜ、今、「探究」なのか一

文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤 枝 秀 樹

1. 総合学科とは

- 「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」(平成3年4月19日中央教育審議会答申)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuo/toushin/910401.htm
 「普通科と職業学科に大別されている学科区分を見直し、普通科と職業学科とを統合するような新たな学科」として設置が提言された。

- 高等学校学習指導要領においては
「産業社会と人間」を原則として入学年次に履修させること。
「産業社会と人間」及び専門教科・科目を合わせて 25 単位以上開設すること等が定められている。

2. 高等学校改革の最近の動向

- 高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ について
(中間まとめの周知用概要資料等:令和6年3月29日)

・中間まとめの1枚概要資料 https://www.mext.go.jp/content/20240410-mxt_00004-000035136_1.pdf

高等学校教育の在り方「キンググループ」中間まとめ（令和5年8月）概要

I. これからの高等学校教育の在り方に係る基本的な考え方

高校教育の在り方に関する議論は、これまで以上に進んでいく。議論の中心として、「多様性の対応」と「共通性の確保」を軸と定めるもの

■多様性への対応

- ① 多様な学生や社会のニーズに応えることを目指す
- ② 多様な個性や能力を伸ばすことにより、一人ひとりが個性や能力を最大限に発揮し、社会で活躍できる人材を育成することを目指す
- ③ 多様な価値観や文化を尊重し、多様な意見や考え方を尊重することを目指す。行方不明な人々に対する理解や共感を育むことを目指す
- ④ 多様な背景や能力を持つ学生が、互いに学び合い、互いに高め合える環境を整えることを目指す

多様な個性や能力を伸ばすことにより、一人ひとりが個性や能力を最大限に発揮し、社会で活躍できる人材を育成することを目指す

■共通性の確保

- ① 共通の価値観や文化を醸成することを目指す
- ② 共通の学力や能力を身につけることにより、一人ひとりが社会で活躍できる人材を育成することを目指す
- ③ 共通の目標や理想を共有することにより、一人ひとりが社会で活躍できる人材を育成することを目指す

II. 各論に対する現状・課題認識と具体方策

① 教育の機会均等 ② 教育の質の向上 ③ 教育の多様性の確保 ④ 教育の持続可能性の確保 ⑤ 教育の国際化 ⑥ 教育のデジタル化

① 教育の機会均等に関する現状・課題認識と具体方策

- ① 少子化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ② 地域や家庭の状況によって、教育の機会が異なる
- ③ 教育の機会均等を実現するための施策を推進する
- ④ 教育の機会均等を実現するための施策を推進する

② 教育の質の向上に関する現状・課題認識と具体方策

- ① 教員や教員補佐の確保が困難になっている
- ② 教員や教員補佐の質の向上が求められる
- ③ 教員や教員補佐の質の向上が求められる
- ④ 教員や教員補佐の質の向上が求められる

③ 教育の多様性の確保に関する現状・課題認識と具体方策

- ① 多様な学生や社会のニーズに応えることを目指す
- ② 多様な個性や能力を伸ばすことにより、一人ひとりが個性や能力を最大限に発揮し、社会で活躍できる人材を育成することを目指す
- ③ 多様な価値観や文化を尊重し、多様な意見や考え方を尊重することを目指す
- ④ 多様な背景や能力を持つ学生が、互いに学び合い、互いに高め合える環境を整えることを目指す

④ 教育の持続可能性の確保に関する現状・課題認識と具体方策

- ① 少子化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ② 地域や家庭の状況によって、教育の機会が異なる
- ③ 教育の機会均等を実現するための施策を推進する
- ④ 教育の機会均等を実現するための施策を推進する
- ⑤ 教育の機会均等を実現するための施策を推進する
- ⑥ 教育の機会均等を実現するための施策を推進する
- ⑦ 教育の機会均等を実現するための施策を推進する
- ⑧ 教育の機会均等を実現するための施策を推進する
- ⑨ 教育の機会均等を実現するための施策を推進する
- ⑩ 教育の機会均等を実現するための施策を推進する

⑤ 教育の国際化に関する現状・課題認識と具体方策

- ① 国際化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ② 国際化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ③ 国際化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ④ 国際化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑤ 国際化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑥ 国際化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑦ 国際化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑧ 国際化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑨ 国際化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑩ 国際化が進む中で、学校運営が厳しくなっている

⑥ 教育のデジタル化に関する現状・課題認識と具体方策

- ① 教育のデジタル化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ② 教育のデジタル化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ③ 教育のデジタル化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ④ 教育のデジタル化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑤ 教育のデジタル化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑥ 教育のデジタル化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑦ 教育のデジタル化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑧ 教育のデジタル化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑨ 教育のデジタル化が進む中で、学校運営が厳しくなっている
- ⑩ 教育のデジタル化が進む中で、学校運営が厳しくなっている

中絶した教育委員会事務局

1

・生徒を主語にした高等学校教育の実現に向けた取組

https://www.mext.go.jp/content/20240410_mxt_00004-000035136_2.pdf

The image shows the front cover of a book. The title is written in large, bold Japanese characters: '生徒を主語にした' (Student as the subject), '高等学校教育の' (High school education), and '実現に向けた取組' (Efforts towards realization). The text is in blue, red, and black. To the right of the title are several circular icons representing various educational themes like books, a laptop, and people. At the bottom, it says '高等学校教育の在り方ワーキンググループ' (Working Group on the Status of High School Education) and '中間まとめの概要' (Summary of the Intermediate Summary). The publisher's logo, '文部科学省' (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology), is in the bottom right corner.

はじめに

現在の東京市では、中学校を卒業後ほとんどの生徒が通っています。そのため、市街は増える入学生数や通学距離、興味・関心を研ぐ高度に迫っています。また、社会生活では子どもが最も、不安や困難を抱えやすいと見做されています。このような中で、これまでおぼろげな学問の力で、生徒一人一人が多様な学校ニーズに対応しきれない現状もあります。そのような課題に際して、「生徒を支援する上で」高学歴校での生活環境を前提としたことがあっても

高等学校教育を取り巻く現状と課題

1

少子化が加速する地域における 高等教育機関の在り方

少子化が加速する地域（人口減少率20%以上の自治体）において、2015年度と2025年度の人口推計を比較すると、2015年度は約1,000万人、2025年度は約9,000万人と推計されています。この減少に伴って、高等教育機関の在り方について検討する必要があります。

図表 人口推計（単位：万人）

2

全国統一型時制・通学制の 導入によるメリット

全国統一型時制・通学制の導入により、全国的に統一された教育制度が実現し、教育の質の向上が期待されます。また、通学制の導入により、学生の通学負担が軽減され、学習環境が改善されます。

図表 全国統一型時制・通学制の導入によるメリット（単位：人）

3

社会と連携した教育制度の充実 教育・文化振興・実用性の 向上が促進

社会と連携した教育制度の充実により、教育・文化振興・実用性の向上が促進されます。また、社会と連携した教育制度の充実により、学生の社会貢献意識が向上し、社会への貢献が促進されます。

図表 社会と連携した教育制度の充実による効果（単位：人）

1

- 高等学校 DX 加速化推進事業(DX ハイスクール)について

文部科学省初等中等教育局 令和7年度 概算要求主要事項 より

https://www.mext.go.jp/content/20240827-ope_dev02-000037780_6.pdf

[illegible]

3. 探究的な学びについて

- (1)「探究」という名称がつく科目が増えた → 「古典探究」「日本史探究」など

高等学校の教科・科目構成について
(各学年に二歳より三学年の間に必修科目を二科目)

基礎科目		選択科目		必修科目					
共通科目		選択科目		必修科目					
国語	英語	数学	理科	倫理	社会	保健体育	芸術	外国語	総合科目
国語の基礎	英語の基礎	数学Ⅰ	理科Ⅰ	倫理Ⅰ	社会Ⅰ	保健体育Ⅰ	芸術Ⅰ	外国語Ⅰ	総合科目Ⅰ
国語Ⅱ	英語Ⅱ	数学Ⅱ	理科Ⅱ	倫理Ⅱ	社会Ⅱ	保健体育Ⅱ	芸術Ⅱ	外国語Ⅱ	総合科目Ⅱ
国語Ⅲ	英語Ⅲ	数学Ⅲ	理科Ⅲ	倫理Ⅲ	社会Ⅲ	保健体育Ⅲ	芸術Ⅲ	外国語Ⅲ	総合科目Ⅲ

※ 各学年に二歳より三学年の間に必修科目を二科目選択する。ただし、保健体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは必修科目として選択できない。

2

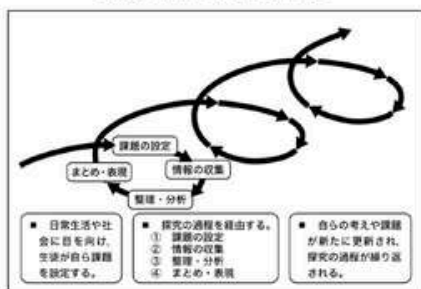
(2) 「総合的な探究の時間」について

- 自己の在り方生き方を考えながら課題を発見し、探究の過程を一層充実することにより、教科等横断的・総合的な学習を通して、各教科等で育成する資質・能力を、相互に関連付け、実社会・実生活と自己との関わりの中で活用できるものとすることを重視
- 解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や唯一の正解が存在しない課題に対して、豊満解や納得解を見いだすことを重視

課題と生徒との関係（イメージ）



探究における生徒の学習の姿

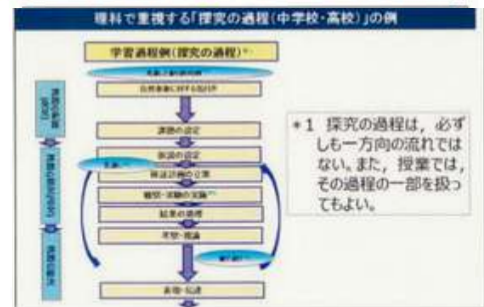


「総合的な探究の時間」学習指導要領解説より

(3) 探究するのは、「総合的な探究の時間」、「●●探究」だけでよいのか

→ どの教科・科目においても、生徒が探究的な学びができるようにすることが大事

・事例：理科の「探究の過程」例



4. 「まとめ」にかえて

① なぜ、今、「探究」なのか

＜教育改革の背景(外的トレンド)＞

- ・人口減少、少子高齢化
- ・グローバル化
- ・多様性と包摂の重視
- ・デジタル化(Society5.0)
- ・変化の激しい不確実性の時代(VUCAの時代)
- ・人生100年時代
- 未知の課題に対応するには、指示待ちではなく、自分で考え、自分なりの答えを見いだす(探究する)ことが大切

② 生徒はどう変わるか

＜探究活動が上手いひと・・・＞

- ・生徒の学力がアップする
- ・生徒のやる気がアップする
- ・生徒の道徳やキャリアに役立つ
- 生徒自身の「やってみよう！」という内発的な意欲や挑戦する気持ちを大事に

③ 「生徒が探究する」とは

＜「総合的な探究の時間」を例に挙げると・・・＞

- ① 課題の設定(自分なりに問いを立てる)
- ② 情報の収集(役立つ情報を集める)
- ③ 整理・分析(集めた情報を分析する)
- ④ まとめ・表現(まとめて発表する)

④ 生徒の探究を支える先生方へのお願い

- ・先生方も、探究を面白がってもらい、失敗しても粘り強く励ます等、子供たちの先導、伴走の相手となってほしい
- ・探究の成果や道徳実績だけを求めるのではなく、探究の過程における子供の思考や態度を重視したコーチングを行ってほしい
- ・普段の授業でも、探究の過程を意識し、授業改善に取り組んでほしい



発表 1

高知県立室戸高等学校 「世界的な視野を持って、地域で活躍できる人材の育成」

田邊 楓 / 中内 野乃 / 佐々木 智菜



発表 2

高知県立春野高等学校 「果樹農業の未来を救う」

長尾 秀一郎



発表 3

高知県立宿毛高等学校 「宿毛市を旅の通過点にしないために」

井垣 公美 / 竹田 光太郎 / 谷 陸矢
中川 日和 / 中村 公紀 / 畑中 結愛



発表 4

太平洋学園高等学校 「防災イノベーション!! ーフラットな関係を強みにー」

安並 羅衣斗 / 寺岡 千織 / 井上 天斗

《発表1》高知県立室戸高等学校 「世界的な視野を持って、地域で活躍できる人材の育成」

皆さんこんにちは。室戸高校の2年田邊楓、中内野乃、佐々木智菜です。よろしくお願いします。

室戸高校は「海外に一番近い高校」をスローガンに掲げ、室戸市や室戸ジオパーク推進協議会との連携のもと、生徒たちが海外の人々と交流する機会を多く設けています。私たち3人は今年9月にベトナムのノンヌオック・カオバンジオパークで開催された、アジア太平洋ジオパークネットワークの大会に参加してきました。今回はそこでの新しい出会いや学び、そして気づいたことについて報告します。

まずは私たちがベトナム渡航前に学習した、ジオパークの室戸ジオパークとカオバンジオパークについて紹介します。どちらも地質学的重要性だけでなく、生態系、歴史や文化、それらのつながりを生かしたジオパーク活動に取り組んでいる地域としてユネスコ世界ジオパークに認定されています。室戸ジオパークの特徴は、海のプレートと陸のプレートの下に沈み込む南海トラフの近くに位置していること、そして、その影響で地震が繰り返し起こるとともに、大地が隆起し続けている点です。海岸線には急速な大地の隆起によって、波の浸食で形成された地形が露出しています。気候は温かく、あこうなど、亜熱帯地域にも生息する植物が自生しています。また、三方が海に面しており、漁業とともに発展した地域です。古くは伝統捕鯨が盛んで、現在では大敷網漁が行われています。

ベトナムのカオバンジオパークの特徴は、室戸とは違って内陸部にある点、そして、石灰岩が広く分布し、カルスト地形が広がる点です。カルスト地形とは、植物が排出する二酸化炭素が溶け込んだ雨水によって、長い年月をかけて石灰岩が浸食された地形のことを言います。急な崖や深い谷、洞窟、指定河川が見られ、特に、岩石や断崖絶壁が美しい景観を作っています。地質的歴史は、数億年前の世代に遡り、地質学的にも非常に貴重です。この地域のカルスト地形に広がる山間部では、ベトナムでは少数民族とされる人々が生活しています。

カオバンでは、人々の自然環境に合わせた伝統的な生活を営んでいます。これは、ミツマタという名前の木です。まず、この木の皮を剥ぎます。ここで、この中で一番大事な作業に取りかかります。それは川に浸けるという工程です。この工程で使われる川の水には石灰が含まれています。その石灰のおかげで、木の皮の繊維がほぐれます。あとは、叩いたりすり潰して最後に漉くと、和紙ができます。ちなみに、ベトナムで50以上いる少数民族ですが、



この村に隔離されたように生活しているわけではありません。例えば、今回私たちのガイドをしてくれたフェインさんのように、小学校の校長先生など様々な職に就き、身近に生活しています。室戸でも平野や、海成段丘が広がる西側では農業が、一方、急斜面が続く東側では漁業文化が根付いており、地域の生活と自然が深く関係しています。

自然と生活の関わりは、この傘、ノンラーからも知ることができます。このベトナムでよく使われるノンラーを、日本でよく使われる麦わら帽子と比較し、その土地の気候や歴史について見てみましょう。麦わら帽子は、もともとヨーロッパで使われていた帽子で、雨が少なく、晴れの日が多い気候に適したデザインです。通気性を重視しているため、麦わら帽子には多くの隙間があり、風通しがいい構造になっています。

一方、ベトナムの気候は雨が多く、同時に日差しも強いです。そのため、ノンラーは雨よけと日よけの両方を兼ね備えたデザインになっています。実際に私がベトナムを訪れた際には、ノンラーを雨よけとして使用している人々の姿を見かけました。ベトナムの日常生活で、非常に実用的なアイテムとなっています。このように、単なる帽子からもその気候や環境、それに応じて生きてきた人々の工夫を学びとることができます。室戸には、人々が気候に適応し、自然と共生している工夫を感じられる場所があります。国の伝統的建造物の保存地区に選定されている吉良川町です。ここでは、水に強い土佐漆喰を使った白壁、雨水をはじくための水切り瓦、家屋を強風から守る“いしぐろ”など、台風の多い地域ならではの家を守る工夫が見られます。また、集落全体で風水害から守る工夫もされています。集落の中には、地形の段差があるのですが、段差の下の方は2階建ての建物が中心で、段差の上の方では1階建ての建物を中心に建てられています。結果的に段

差の上も下も屋根の高さが揃っています。そのため、集落は強い風を受けても受け流せるようになっています。吉良川町の伝統的建造物群には、先人たちが台風や風雨など、自然と共生しながら生活してきた知恵を感じることができます。今も伝統的な街並みを残そうと、吉良川の街並みの修理や地域の活性化のため、住民による街並みガイドが行われています。

次に歴史的にも重要な場所がどこの地域にも見られます。カオバンには、ベトナム独立運動の先導者である「ホー・チ・ミン」が拠点としていた「Pac Bo 洞窟」があります。一方、室戸には弘法大師にゆかりのある名所があります。どちらも地域の人々にとって誇りであり、訪れる人々にとっても歴史や文化を学ぶ貴重な場所です。カオバンに広がるギザギザした山々、タワーカルストは訪れた人々を魅了し、幻想的な光景を見せてくれます。私もその光景を初めて目にした時、あまりにも幻想的で、もはやこの世の空間とは思えないほどの美しさでした。この地域には自然と人が織りなす伝説が残っています。故郷に7日間だけ帰ることを許された大男は、美しい女性と結婚し、幸せな日々を過ごしましたが、7日目に故郷を離れる途中で、命を落としてしまいます。タワーカルストの周りにある36個の湖は、この大男が故郷に急いで帰る途中に残した足跡だと言われています。

そして、室戸にも様々な伝説が存在します。その多くは空海にまつわるものです。室戸岬は空海が若い頃に修行したとされる場所です。空海が修行した洞窟があり、そこは波の侵食で岩盤が削られてできた「海食洞」という地形です。大昔の自然のプロセスでできた不思議な地形が空海の伝承と結びついています。また、他にも「クワズイモ」の伝説が有名です。修行中、お腹を空かせた空海が、村人にお芋を食べさせてくれるよう頼みました。しかし、村人は「このお芋は食べられない」と断ったそうです。そのお芋は空海が去ったあと本当に食べられなくなったと言われています。このお話には「困った人を助けるように」という空海の教えが込められています。このベトナムの大男の伝説や室戸の空海伝説には、地域文化や価値観が込められており、また、現在では次世代に自然を敬う心や観光教育における魅力として活用されています。人々がその土地の自然とともに生活を営み、その中で神話や伝説が生まれ、それが世代を超えて継承されていることにとても感銘を受けました。

カオバンと室戸は自然環境と文化を守りながら、観光の進行、地域の経済や教育に貢献しています。環境を守りつつ、観光資源として活用することで、

持続可能な地域づくりが行われます。これにより、訪れる人々は自然環境と人々の暮らしのつながりを学ぶことができます。これがまさにジオパークの理念となっています。このジオパークの理念をもとに、私たちも地域の歴史や気候への適応方法などを学び、今後の世代へどうつなげていくか考えていく必要があります。

私たちは、今回のベトナム研修で室戸とベトナム、それぞれの知恵や自然の魅力について学んできました。では、ここからは私たちの個人の成長について少しお話ししたいと思います。

今回の旅で私は様々な人と出会いました。

私はこれまでの国際交流の経験から交流を受け入れる側には相手を思いやる優しさが必要であると考えていますが、現地の高校生たちにその優しさを感じました。ベトナムの高校生と交流する際、伝えたいことがたくさんあったのに英語がうまく話せず、とても悔しい思いをしましたが、一緒に写真を撮ったり、お店を回ったり、すっかり仲良くなりました。次の日には、中学校の校内見学に招待され、校長先生や先生、生徒たちもみんな温かく迎えてくださいました。「もっと英語を上達させたい」という思いを原動力に、自分を磨きながら、いただいた優しさを人に分け与えられる人になりたいです。(中内)

この交流を通じて、私は責任感が強くなったと感じています。私は室戸高校の生徒の代表として参加し、グループ内では唯一の2年生でした。そのため、周囲に気を配りながら行動することを常に意識していました。仲間の一人が体調不良になったりと、不安もありましたが、その分自分がチームを引っ張っていけるように最善を尽くしました。そのおかげでリーダーシップが身につきました。今後はこの交流を次世代にもつないでいけるよう、交流の素晴らしさを伝えていきたいと思います。(田邊)

私は仲間の大切さを学びました。今回のベトナム研修はジオパークのネットワークでできた研修です。研修期間中、私は体調を崩し、一番肝心な活動発表に参加できないかもしれない状態に見舞われました。しかし、深夜や早朝も含め、ジオパークの関係者やメディカルチームに助けていただきました。また、バスでの移動中、発表の練習をしてくださった方にも出会いました。自分一人がいなくても研修は続けられる中で、一人のためにみんなが動いてくださり、私もたった一人のためであっても全力で応援できるような人になりたいと強く思いました。

(佐々木)

最後に、私たち一人ひとりはこの旅を通じて自分の限界を超え、それぞれのポテンシャルに気付くこ

とができました。これからは自分の可能性を決めつけず、何事にも全力で挑戦していきたいと思います。自分の可能性を信じ、今後も自分の限界に挑戦していきたいです。この経験をこれから行っていく活動で活かしていきます。誰か一人のために一生懸命になり、他人の努力を応援できるような人になりたいです。私たちが今回身につけた力は、これからのジオパークの未来を支えるにあたって必要とされる力です。今後も学校とジオパークの活動を通じて、地域を盛り上げていきます。ご清聴ありがとうございました。



高知県立
室戸
高等学校
MUROTO HIGH SCHOOL

海外に一番近い高校

目指せ！
未来を創る
グローバルプレイヤー
〜室戸ユネスコ世界ジオパークとともに〜

「世界的な視野を持って、地域で活躍できる人材（グローバル人材）の育成」

田邊 楓
中内 野乃
佐々木 智菜

アジア太平洋ジオパークネットワーク カオバン大会
19か国から800名参加、2024年9月12日～15日

日本ジオパークのブースで案内係

分科会での発表

カオバン ユネスコ世界ジオパークの巡検

ネットワーク構築

室戸ジオパーク

- 「南海トラフ」の近くに位置
→ 地震が繰り返し起こる
- 大地の急速な隆起
→ 海岸線に波の侵食で形成された地形が露出
- 亜熱帯地域にも生息する植物が自生
- 三方が海に囲まれ漁業とともに発展した地域

ノンヌオックカオバンジオパーク

- 内陸にあるジオパーク
- 石灰岩が広く分布し、カルスト地形が広がる
- 急な崖や深い谷、洞窟、地底河川が見られ、特に奇岩や断崖絶壁が美しい景観をつくる
- 山間部ではベトナムでは少数民族とされる人々が生活

和紙ができるまで

少数民族 50

THÀNH PHỐ CAO BẮNG

麦わら帽子

雨が少ないヨーロッパでは、通気性を重視した隙間の多い作りになった

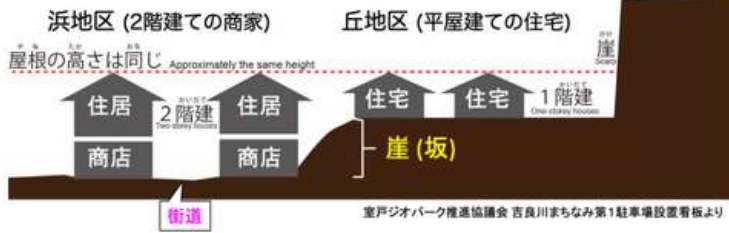
ノンラー

雨が多く日差しが強いベトナムでは、雨よけと日除けを重視した隙間の少ない作りになった



町全体で台風をしのぐ工夫

地形断面

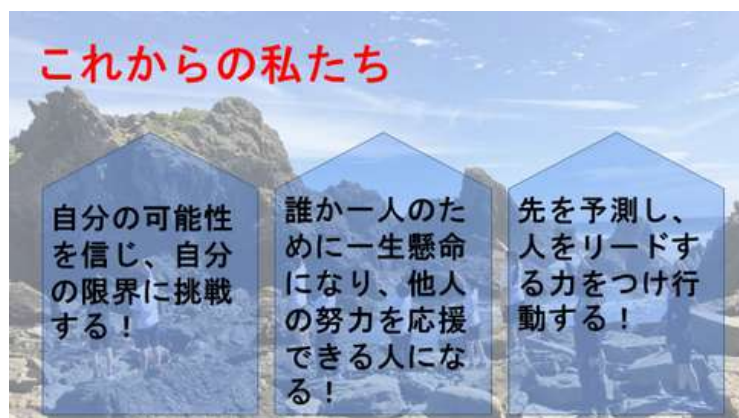




ベトナム学生との交流



リーダーシップ



《発表2》高知県立春野高等学校 「果樹農業の未来を救う」



皆さんは、森のキャビアと呼ばれるフィンガーライムをご存じでしょうか。私は中学2年生の時からこのフィンガーライムの栽培に取り組んでいます。フィンガーライムとは、オーストラリアが原産の柑橘で果皮や果肉の色、香りは様々で、多くの品種があります。世界には200以上の品種があると言われており、それぞれ香りが違ってきます。口に入れるとプチプチとした食感とともに、独特のスパイシーな香りが立ち上がることや、料理によって香りの合う品種を選べることも魅力の一つです。その見た目や希少性から森のキャビアとも呼ばれています。私の家は農家ではありませんが、地元の高知県土佐市は、土佐文旦や小夏の生産が盛んで、柑橘類を中心に様々な果樹が栽培されています。私の祖父母の家にも畑があり、そこには色々な種類のみかんの木がありました。幼い頃から、柑橘に囲まれた環境で生活を送っているうちに、私は徐々に農業への興味が湧いてきました。そんな時に、テレビ番組で森のキャビアと称されたフィンガーライムの特集を見ました。私はそれまで見たことのなかった柑橘にとっても興味を持ちました。これが私の活動を始めたきっかけです。

現在私は10アールほどのハウスを地域の方からお借りして、小さい木も合わせると約500本のフィンガーライムを栽培しています。10アールとは、だいたい50mの競泳用のプールと同じ面積になります。2023年2月からはShu Farmと名付けて活動を始めました。こちらがShu Farmのロゴになります。こちらの少し出ている部分がわかりますか。こちらは、接ぎ木をしている部分をイメージしています。そこから芽が出るというイメージでこのロゴになりました。

フィンガーライムは日本での栽培技術が確立されておらず、病害虫の被害や干害など、課題が多くあ

りました。その中でも最も課題となったのが品種違いの問題です。その頃、国内に出回っている苗木の8割が品種違いと言われていました。そして、生産者の一部は品種が違うことを知りながらも苗木や果実を販売し、品種名を記載せず、ごまかしたのやフィンガーライムですらないものまで出回ってしまいました。これが一番の問題であって、私が最初に購入した苗木も品種違いでした。そんな中、ほとんどの生産者は手探りで栽培を続けています。

私も最初は何もわからない状態でのスタートでしたが、品種の間違いがない品種確定苗木の購入がきっかけで、県外の生産者と出会うことができました。そこから福岡県や静岡県の生産者を訪問するようになり、栽培技術や販売の方法などを学ぶことができました。そして、昨年より少しずつ果実の収穫ができるようになりました。収穫した果実は県内外のレストランやホテルに提供して、料理への合わせ方など、いろいろなアドバイスをいただきました。また、テレビや新聞、ラジオなどのメディアでフィンガーライムの特集をしていただき、より多くの人にShu Farmを知っていただくことができました。昨年9月には、全国高校生農業アクション大賞の認定グループにも選出され、他の高校生の活動を知るきっかけにもなり、さらに活動の幅が広がりました。

しかし、フィンガーライムの生産はまだまだ少なく、県内に生産グループなどはありません。そのため、情報を手にするには自ら動き、広くつながりを持つことが大切だと感じています。そのような活動の一方、今年の春からは地域の引退する農家さんより、文旦園を受け継ぐことになりました。その文旦園には、20アールの面積に100本以上の木があります。今年の暮れにはたくさんの果実が収穫できるよう、人工受粉や摘果作業など、管理に悪戦苦闘しています。こちらが文旦の花になります。先端がピンクになっているのが人工受粉ができた証拠になります。

今回、私は運よく引退する農家さんより文旦園を受け継ぐことができましたが、地域の中には引退後に耕作する人がおらず、荒地となった果樹園があります。しかし、このような果樹園は私の地域だけでなく、全国各地に多く存在します。これには果樹栽培を志すものとして、とても悲しく感じています。私は様々な分野の生産者を訪問し、他県の果樹農業の現状も知るうちに、多くの問題に頭を悩ませるようになりました。地元でも問題となっている高

齢化や担い手不足は全国的な問題であり、生産量や栽培面積はピーク時から半減して、生産者の8割が60歳以上になっています。また、地球温暖化の影響で着色不良や病害虫の被害も増加しているのです。

昨年9月に、Shu Farmのフィンガーライムをテレビ番組で特集していただきました。その後の問い合わせの中に、今栽培している作物では収入が少ないので、フィンガーライムの苗木を売ってほしいという内容のものが多くありました。この時、農業での収入が少なく、他の儲かる作物を探している人や、経営が厳しく離農する生産者が多くいることを知りました。高知県は森林面積の割合が高く、平野が少ないため、大規模に機械を導入した果樹栽培が困難です。そのため、どのようにして面積当たりの収益を増やすのか、そこに課題があるように感じています。

そんな中、九州の種苗会社を訪問した際、数々の海外の果樹と出会い、とても興味を持ちました。そして、今後日本に輸入されてくる果樹についての説明を受け、これからの果樹農業の将来をイメージしました。近年、温暖化が原因で今まで日本で作られてきたものが栽培できなくなっています。その反面、暖かい国で栽培されている作物の北限が上昇し、日本でも栽培できるようになってきています。作物も時代に合わせた変化が必要かもしれません。

私は将来、フィンガーライムを栽培し、魅力を伝えていきます。フィンガーライムは最近、関東を中心に本格的に需要が高まり始めていますが、果実の生産が追いついていません。10年以上前から国内でも栽培されていますが、全国で生産者は増えつつあっても、地域が違い連携できていないように感じています。私はこれから、香酸柑橘の一大産地である高知で、フィンガーライムの生産者を増やし、酢みかん文化のひとつになるよう、生産者が連携できる環境を作っていきたいと考えています。また、日本ではまだ生産されていない新たな果樹での産地作りを目指して活動したいと考えています。日本人の好む果樹を輸入し、栽培方法の検討や調査を行い、国内で商業的に生産できるのか考えます。そして、品目に困っている生産者に提案し、産地を作る。果樹農業を救うために私はチャレンジしていきます。最後に、今年2月に放送されたテレビ番組の一部をご覧ください。今日はフィンガーライムの実物をご用意しております。会場の左側の出入り口を出たところに、次の休憩時間にご用意してますので、是非ご覧ください。私の発表は以上になります。ご清聴ありがとうございました。



果樹農業の未来を救う

高知県立春野高等学校
園芸系列 3年 長尾秀一郎

・フィンガーライムをご存知ですか

- ・オーストラリア原産
- ・様々な色
- ・プチプチとした食感
- ・料理によって品種を選べる



・わたしの地元

土佐文旦発祥の地
高知県土佐市
果樹栽培が盛ん
柑橘の産地



幼い頃から
柑橘に囲まれていた

農業への
興味が湧いた

テレビ番組で
フィンガーライムの
特集をみた

見たことがなかった
その柑橘に
興味を持った



Shu Farm

フィンガーライムの栽培
面積: 10a
本数: 約500本



日本での栽培技術が
確立されていないため
病害虫の被害や
寒害など多くの課題



一番の課題 → 品種違い



当時出回っていた
苗木の8割が品種違いといわれていた

昨年から少しずつ収穫開始

県内外のレストランやホテルに提供

メディア出演

昨年9月に
毎日新聞社主催
「全国高校生 農業アクション大賞」
の認定グループに選出



・生産

フィンガーライムの生産は少ないため
県内に生産グループがない



情報を得るには自ら動き
広くつながりを持つことが大切

今回は引退する農家さんから
園を譲り受けることができたが
地域の中には引退後に
耕作する人がおらず
荒れ地となった果樹園がある



・今年の春から

地域の引退する農家さんから
文旦園を受け継ぐ

面積: 20a 100本以上



・課題

高齢化や担い手不足

生産量・栽培面積 → 半減

生産者の8割が60歳以上

温暖化による着色不良や病虫害の被害



・温暖化

今まで日本で栽培できていたものが
栽培できなくなっている



暖かい国で栽培されている作物が
日本でも栽培できるように

苗木を売ってほしいという
問い合わせ

農業での収入が少なく
儲かる作物を探している人

経営が苦しく離農する人

高知県は
平野が少ない

どのようにして
面積当たりの収益を増やすか

・今後

フィンガーライムを栽培し
魅力を伝えていく



香酸柑橘が多くある高知で
酢みかん文化の一つになるように
生産者が連携できる環境づくり

酢みかん文化... 古くから高知県で広く行われてきた
ユズやブシュカンなど香りの高い柑橘を刺身をはじめとする
様々な食べ物に果汁を絞って食べる文化のこと。



日本人が好む果実の輸入

栽培技術の検討や調査

国内で商業的に生産できるかを考える

品目に困っている生産者に提案

産地を作っていきたい







《発表3》高知県立宿毛高等学校 「宿毛市を旅の通過点にしないために」



今ご覧いただいた動画は、卒業生が作成したPR動画の一部です。宿毛市は高知県の最西端にある海・山・川の豊かな自然に囲まれた地域です。沖合の沖ノ島周辺の海は透明度も高く、珊瑚や熱帯魚が豊富に見られ、全国有数のダイビングスポットとなっています。豊後水道に面した宿毛湾は「魚のゆりかご」「天然の養殖場」と言われ、高知県内でも特に美味しい魚が取れる漁場です。黒潮の恵みを受け、様々な魚種が生息する湾内では、真鯛やカンパチの養殖が行われています。高知県内でも有数の磯釣りスポットとして知られ、県内はもとより、四国・九州・本州からも釣り客が訪れます。第二次世界大戦前までは、日本海軍の泊地として利用された歴史があります。湾内では海上公試を行っていたとされ、現在でも湾内で撮影された日本海軍艦艇の公式写真が数多く残されています。また、早稲田大学建学の母と呼ばれる小野梓の出身地でもあり、ソプラニスタの岡本知高さんや元関脇で現在タレントとして活躍している豊ノ島さんなどの著名人を輩出しています。豊かな自然、美味しい食や歴史もあり、魅力あふれる宿毛市です。

私たちはそんな宿毛市の観光について、まず現状把握から始めました。そのために、宿毛市の観光について取り扱っており、宿毛駅にある宿毛市観光協会の方と、最大のグランピング施設であるグランヒルズ・ヤシの方々にインタビューをしました。その結果、2つのご意見をいただきました。まず、1つ目は「宿毛市を旅の通過点にせず、目的地にしたい」というご意見です。宿毛市は現状、他の市町村へ行くときの道になっていることが多く、宿毛市を目的として来る観光客より宿毛市を目的地への通過点として思っている人が多いです。

その根拠として、経済産業省の「RESAS地域経済分析システム」の地域別宿泊者数のグラフでは、宿毛市は他の市町村に比べて圧倒的に宿泊者数が少ないことがわかります。宿毛市を通って行ける市町村には、金剛福寺や足摺海洋館、ダイビングセンターなどがある土佐清水市、四万十川が全国的に有名な四万十市の他に、柏島が有名で、夏になると多くの観光客で賑わう大月町があります。特に大月町へ行く際は、かなり遠回りをしない限り基本的には宿毛市を必ず通らなければなりません。ですので、夏に

なり大月町への観光客が急激に増加した際、宿毛市の道がかなり混むことになります。このように、他の市町村への観光客で宿毛市の道が混むよりは、宿毛市を目的とした観光客で宿毛市の道を混ませたいというご意見でした。

そしてもうひとつは「新しく何かを取り入れるのではなく、今あるものを活用すべき」というご意見です。宿毛市は自然が豊かなことが強みの市町村です。ですので、新しくデパートやショッピングモールを建てても、宿毛市の魅力を引き出すことはできません。宿毛市の魅力を引き出すという点でも「宿毛市の強みである自然が豊かなことを最大限に活用した方がいいのでは」というご意見でした。

実際に行っていることは、宿毛市はすでに自転車を活用してまちづくり計画を行っています。昨年は国際的な自転車レースが宿毛市の高速道路で開催されました。宿毛市観光協会でも自転車のレンタルサービスを行っています。宿毛市の道の駅にも自転車休憩所が設置されており、自転車を切り口とした交流人口の拡大を目指していることを知りました。そこで私たちは、既存の観光ツアーとは異なるオリジナルツアーを考えることにしました。

オリジナルツアーというのは、有名な観光地を巡るツアーではなく、地域に密着したツアーです。地元のパン屋である菱田ベーカリーさんや、豊ノ島さんのご家族が経営されている梶原食品の工場見学という地元で愛されているお店や、工場を自転車で巡るというツアーになっています。商品をただ食べるだけではなく、作られている過程を見るところに目新しさがあると考えました。そして、思い出に残るようにするために、伝統工芸である組子細工に挑戦してもらい形として残してもらったり、四国八十八ヶ所霊場の第39番札所である延光寺に行き、実際に住職の方にお話を聞くと言った宿毛ならではのツアープランを考えました。

私たち高校生だけでこのツアーを実施するのは難しいため、観光会社である四万十トラベルの方に、どうすれば実施できるのか相談をさせていただきました。すると「誰かに任せるのではなく、高校生が考えて行動することが売りになる」というお言葉をいただきました。これは、高校生が考えたツアープランに高校生自身が参加し、お客様とコミュニケーションを取りながら案内をすることで、どの旅行に行くか迷っているお客様の目にも止まりやすく、来てもらえるのではないかとということです。このことを踏まえて私たちは、もう一度ツアープランやターゲットについて考え直すことにしました。私たちは旅行業という商売として考えるのではなく、自分たちで小規模でもツアーを開催してみることにしました。

現在、私たちは自分たちが考えたツアープランを色々なところへ提案し、開催に向けての協力をお願いをしているところです。また、このツアーは12月1日に開催します。皆様のお手元に今回のツアーについてのパンフレットや、今まで私たちが考えてきたツアーについてのチラシをご用意しています。興味のある方は、ぜひご参加ください。

宿毛高校では、宿毛市役所の方や青年会議所の方々にご協力いただいて授業が行われています。今回の探究活動においても、宿毛市の人々は私たち高校生の活動を全力で応援してくれていて、私たちが本気で取り組めば、宿毛市をより魅力のある町にできると信じてくれています。以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。



高知県立宿毛高等学校 3年

井垣	公美	竹田	光太郎	谷	陸矢
中川	日和	中村	公紀	畑中	結愛



https://www.city.sakato.nagasaki.jp/nishiki/sango/pic3003_01_01.jpg

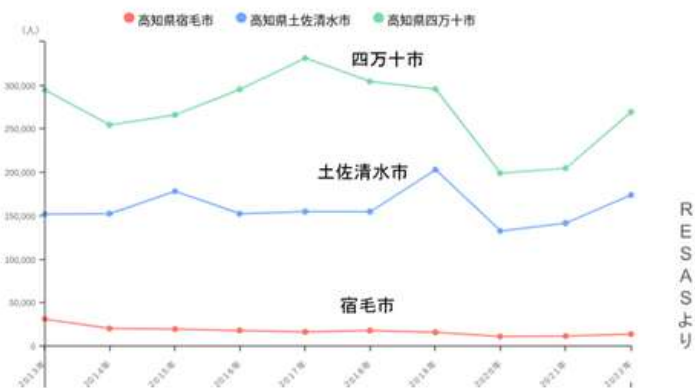


<https://www.city.sukumo.kochi.jp/img/img-26/top02.jpg>

「宿毛市観光協会」と「グランヒルズヤシ」にインタビュー



<http://www.kalouda.com/2010/11/14/1144444>
<http://www.kalouda.com/2010/11/14/1144444>



土佐清水市



四万十市



大月町

大月町観光ガイドより



新しく何かを作るのではなく
今あるものを活用すべき



実際行っていること

宿毛市は自転車を活用した「まちづくり」を行っている

去年は国際的な
自転車レースが開催された



宿毛市観光協会で
自転車のレンタル



宿毛市の道の駅に
「自転車休憩場所」
の設置



自転車を活用したい



自転車を使ったツアープランを作ってみる！



地域密着ツアープラン

有名な観光地を巡るツアーは多く考えられている。



地元で愛されている店や工場を見学

菱田ベーカリー



菱田ベーカリーより

梶原食品



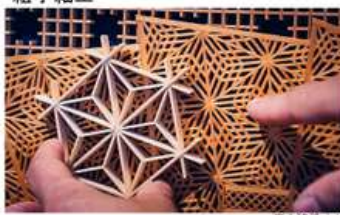
梶原食品より

思い出に残るようにするために

実際に体験

住職の方にお話を聞く

組子細工



浜中建設より

延光寺



延光寺より

高校生が考えて行動することが売りになる



自分たち自身が

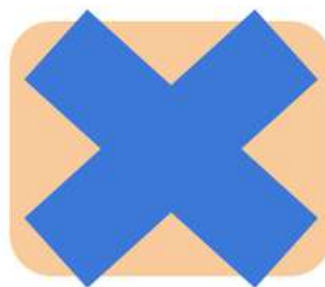
ツアーに参加してお客様を案内する



四万十トラベル
下西さん



illstACより



小規模な
ツアーを開催

現状

- ・ ツアープランを提案
⇒ 実施に向けて、協力をお願い
- ・ ツアーを開催予定（12月1日）
⇒ 宿毛市外の方々に参加してもらいたい



探究活動を行って

宿毛市の大人は私たち高校生の活動を全力で支えている
私達が本気で取り組めば魅力のある街にできる



スカイチャットより



宿毛市より

《発表4》 太平洋学園高等学校 「防災イノベーション!! ―フラットな関係を強みに―」



プロジェクトの背景についてです。日本は地震災害の多い国です。南海トラフ地震はおおよそ100年に一度起こっており、前は1946年に起こりました。ここ30年のうちに80%の確率で起こるとされ、その被害は甚大だと考えられています。日本全国で見ると、約33万人の犠牲者がでると推定されています。その中でも、黒の枠で囲まれた高知県は最大規模の被害が予想されています。高知県、特に高知市中心部における被害想定についてです。70万人の人口のうち13万人が津波浸水域に暮らしており、1万2千人が犠牲になると推定されています。これは中心市街地の大部分が浸水すると予測されているからです。小さいですが、赤枠のエリアが私たちが通う太平洋学園のある場所です。

次に、教育現場の課題についてです。現在、教育現場において不登校の問題が年々深刻化しています。不登校は年々増加の一途を辿っており、2022年度で30万人、全体の3.2%を占めます。高知県は中学校段階の不登校率が全国トップであり、県全体で取り組まなければいけない課題となっています。その受け皿となっているのが定時制・通信制高校です。平成28年の文科省の調査では、定時制・通信制高校に在籍する生徒の5割以上が不登校を経験していました。生徒たちは不登校に至るその過程で、深い心の傷を負っています。それゆえ、自分や周りの人が傷つくということにとっても敏感です。誰も傷つけず、傷つけない人間関係を望み、上下関係などヒエラルキーを排除した特徴的なコミュニケーション様式を身に付けます。先生や生徒などは関係なく、少し話せる相手だと認識すると、すぐに距離感が近く親しい相手のように話します。

今回のプロジェクトは、教育と防災の今日的課題を一体的に解決しようというものです。それというのも、教育現場での減災教育は、子どもたちに社会経験の場を与え、認知・非認知、自己効力感を高める貴重な機会をつくりえるからです。本校は生徒の社会性を養うために大きく2つの校外活動を制度的

に運用しています。ひとつは「職場体験」です。職場体験では、3日間実際の職場で働く経験を提供しています。しかし、たった3日間でも途中辞退する生徒は少なくありません。これは、自身のコミュニケーション様式が受容されていない状況が過度な心理的負担になっているためです。そして、途中辞退のケースは年々増えています。もうひとつが「ボランティア活動」です。こちらはトラブルを避けるため、活動を引き受ける際、その場での生徒のコミュニケーションが不必要なもののみを引き受けるようにしています。このように、本校の校外活動はそもそも校外市民とのコミュニケーションを織り込んだ設計では運用できていません。加えて、その必要性にも疑問の声があります。以上のような全国的な課題と本校の現状を踏まえ、より生徒に十分な社会経験の場を提供するため、減災教育プロジェクトが始まりました。目的としては、以下のとおりです。

このプロジェクトは本校と高知大学防災推進センターの高大連携事業の一環として、昨年から行われているものです。このプロジェクトで開発したのがこの動画の起震機というものです。

前の画面で実際の地震の映像を流し、それに合わせて生徒が手で板を揺らすという簡単なものです。揺れの程度は震度4程度で、後ほど説明しますが、子どもや高齢者などにも乗ってもらえるように、あえて揺れを弱くしています。過度な恐怖感を煽ることで自己効力感を奪うことなく、さらに体験後の声掛けで実際の揺れを想像させます。特徴的なコミュニケーション様式が生かされた例として、縦揺れを再現するためのプロセスが典型的でした。このプロジェクトに関わった本校の教員や防災推進センターの教員は、はじめ縦揺れの再現は難しいと考えていました。しかし、第1回の生徒も交えたプロジェクト会議で唐突にテコでの縦揺れの再現が提案されました。ただ、その案は実現性まで検討されていない意見でした。それにもかかわらず、周りの生徒はその可能性について熱心に議論を展開し、第1回目の会議が終わる頃には基本的な縦揺れの設計が出来上がっていました。後日のインタビューでアイデアを出した生徒は「公園にあるシーソーが思い浮かんだこと、開発の場が家族と話すような場であったことが自由なアイデアを出した要因だった」と語りました。これは等身大のアイデアをプロジェクトに反映できた結果です。プロジェクトの教育的効果については、受付、起震機の作動、振り返りの声かけなど、一定の流れがあることで、自身の役割認知につながっていたということです。そして参加者から「面白かった」「怖かった」「勉強になった」な

どの意見をもらうことで、小さな成功体験を重ね、自己効力感をや自分でも災害に備えないといけなといった防災意識の向上にもつながっていました。

次に、プロジェクトの減災的効果についてです。起震機の体験者には、アンケートに体験する前と後で2回答えてもらっています。まず、揺れに対する怖さについて。事前の調査において、怖さが最大を指していた参加者を除くと半数以上が「怖さ」の実感が向上しており、感情的体験を励起していました。この表の左は事前実施済みの対策であり、右が体験を通じて新たに実施しようと思った対策です。

「家具の転倒対策」や「ガラスの飛散防止フィルムの貼り付け」などが体験後に上位に来ています。以上のことをまとめると、感情的体験によって、自身の状況を踏まえた具体的な揺れ対策の行動を考えさせるに至ったことがわかります。

これは高知市内の小学校で、ワークショップをした際の映像です。小学生のグループで、発災後の状況を考えてもらい、それをシミュレーションするというものです。このグループは家で被災したときの状況を発表してくれています。

真ん中の女の子が避難を渋ったりする様子をシミュレートしてくれました。このような状況を作り出したのも、本校生徒の特徴であるフラットなコミュニケーションによって、一方的な正解を押し付けるものではなく、できないことを認めるような雰囲気を作ることができたからだと考えられます。これは沿岸部の市町村で防災意識調査を行った際の動画です。その際、防災ラジオの設定は難しいという声を聴き、その場で設定を行っています。このように、高齢者と本校の生徒のコミュニケーションは相性があるので、今後も高齢者施設でのワークショップや高齢世帯の多い農村部の意識調査などを積極的に行っていきたいと考えています。これはブラインド訓練といって、内容をほとんど明かさずに行う避難訓練の時の様子です。生徒も加わって企画しています。十数人の生徒がサクラとなってパニックを起こしたり、避難行動を渋ったり、勝手に別の場所に避難を行うなど、本番さながらの臨場感のある防災訓練となっています。このような生徒の積極的な参加により、斬新な発想のもと様々な工夫が行われている本訓練は、近隣の企業や地域からの視察も多く、この度、近隣の主要施設でもある高知市高知中央郵便局との防災協定などの話もあるほどです。

終わりに、これまでそのコミュニケーションが特徴的であるがゆえに、トラブルの元になったり、過度の精神的負担になるため、校外施設のコミュニケーションを行う場所への参加は難しいと考えられていました。しかし、その特徴を受容し、役割を与えることによって校外市民とのコミュニケーションが含まれる活動に生徒の参加が可能になることが明らかになりました。そして、フラットで開放的なコミュニケーションの場で開発されたこのプロジェクトは、減災行動が低調であった親世代に対して、行動変容の機会を提供することができました。

最後に、日本で今回取り上げた特徴的なコミュニケーションに対して、未だに否定的な意見が多いです。しかし、これからの時代にイノベーションを起

こしていくには、一見無礼であったり、乱暴であると思われるフラットで開放的なコミュニケーションを部分的には認めていく必要があります。不登校問題に正面から向き合い、社会の変革を促していくために、今後はこのプロジェクトに限らず、「日本の教育活動の根幹にこの特徴をどう生かすか」ということを据えていって欲しいと思います。ご清聴ありがとうございました。



防災イノベーション！！

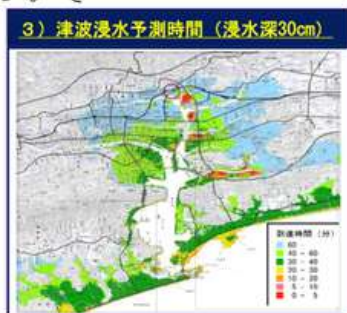
ーフラットな関係を強みにー

太平洋学園高等学校
3年 安並羅衣斗 寺岡千織 井上天斗
(「自然環境と防災」履修者)

プロジェクトの背景 ー南海トラフ地震についてー

高知県(本校所在地)においては、130,000人が津波浸水域に暮らしており、**最大で12,000人が犠牲になる**と推定されている。

(83%は津波による)
高知県、【高知県版第2弾】南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測の概要(2012)
高知県、【高知県版】南海トラフ巨大地震による被害想定(2012)



プロジェクトの背景 ー日本における不登校の現状ー

・多くは不登校になる過程で深い心の傷を負っている。それゆえ、誰も傷つせず、傷つけない人間関係を望み、上下関係などヒエラルキーを排除した特徴的なコミュニケーション様式を獲得する。

・このようなコミュニケーションは、ネットを介した匿名性の高い場でよく見られ、フラットで開放性が高い。このネット上のコミュニケーション様式を実社会でも使用しようとする点に特徴がある。

本校の取り組みと課題

・本校は、職場体験やボランティア活動を制度的に運用している。

(職場体験において)

・途中辞退するケースが増えている。これは、自分のコミュニケーション様式が受容されない状況が生徒に過度な心理負担をもたらしていることによる。

(ボランティア活動において)

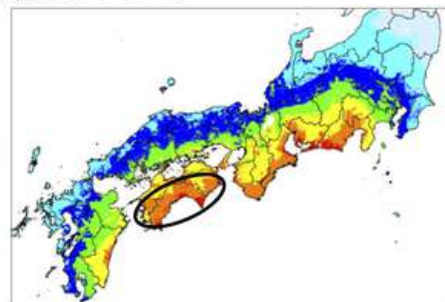
・「(生徒のコミュニケーションにおける課題は)一番大きい。それが無いとできない内容は、現状ではできない内容(受け付けていない)」というようにトラブルの原因となるコミュニケーションを伴う活動は避けている。

・本校では、自らのコミュニケーション様式に気づいたり、適応させていくという学習はやっておらず、それを織り込んだ校外学習の設計になっていない。

プロジェクトの背景 ー南海トラフ地震についてー

・日本全国で見ると、**最大で329,000人の犠牲**が推定されている。

中央防災会議 防災対策推進検討会議 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ
「南海トラフ巨大地震の被害想定について(第一次報告)」(2012)



プロジェクトの背景 ー日本における不登校の現状ー

・小、中学校における不登校児童生徒数は2022年度で299,048人(前年度244,940人)となった。これは全体の3.2%(前年度2.6%)に当たる。
(文部科学省(2023)「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査概要」)

・急増する不登校生徒の受け皿となっているのが定時制・通信制高校である。

・本校は、定時制・通信制を併設する高知県の私立高校である。ここ十数年は不登校経験のある生徒の入学が多くを占めている。在籍する生徒たちの対人関係の希薄さや社会経験の無さは大きな課題である。

プロジェクトの背景 ー学校と減災教育を結びつける意義ー

・減災教育は生徒の認知・非認知能力、自己効力感を高める貴重な機会となる。

・減災教育の第一人者である矢守は「社会全体で切実な課題となっている非常に大きな目標(つまり、夢)の実現にとって、防災教育は絶好の機会(チャンス)を提供する」として減災教育を児童・生徒の成長の手段として活用することを提唱している。

(矢守克也・諏訪清二・鈴木伸江(2007)「夢みる防災教育」,株式会社見洋書房,p3)

減災教育プロジェクトの概要

・生徒の特徴的なコミュニケーションを活かして、革新的な減災教育のアプローチを行う

・減災教育を通して、生徒に社会協働の機会を提供する

・このプロジェクトは、本校と高知大学防災推進センターの高大連携事業の一環である。



特徴的なコミュニケーション様式の特性が活かされた例

・縦揺れに関して、生徒の一人からテコでの再現が提案された。それは、実現可能性など説得力が乏しいものであった。しかし、テコというアイデアが議論を活性化させ、最終的にはテコを使った縦揺れ機能の導入に至った。

・後日行ったインタビューで、テコのアイデアを思いついた理由として、公園にあるシーソーが思い浮かんだことにあったと語った。また、「今回の開発の場が家で（家族と）話すような場であり、どんなアイデアでも言える空気があった」との意見もみられた。

本プロジェクトの教育的効果 ープロジェクト参加生徒についてー

・校外市民と関わることに戸惑いながらも起震機があることで、関わり方において一定のパターンがあることに気づくことができた。

・自身の役割認知が進み、その成功体験が自己効力感や防災意識を高め、自信につながっていた。

本プロジェクトの減災的效果

・起震機体験が参加者の揺れに対する「感情的体験」を励起した。



本プロジェクトの減災的效果

事前実施済みの対策	新たに実施を企画した対策
家族で逃げ場所を決める	家具転倒対策の実施
防災袋の準備	避難グッズの準備
家族との相談	家のレイアウトの工夫
家のレイアウトの工夫	飛散防止フィルムを貼る
耐震診断の実施	逃げる時間を把握しておく
避難グッズの準備	耐震診断の実施
応急処置の準備	複数の道順
家具転倒対策の実施	応急処置の準備
1982以降の住宅に居住する	家族で逃げ場所を決める
逃げる時間を把握しておく	防災訓練の参加
ブロック壁の除去	防災袋
防災訓練の参加	家族との相談
キャンプ等の実施	キャンプ
避難先への複数の道順を調べておく	ブロック壁の除去
飛散防止フィルムを貼る	1982以降の住宅に居住する

表 事前実施済みの対策と起震機体験後に新たに実施を企画した対策の比較(n=42複数回答)

本プロジェクトの減災的效果

・「家具転倒対策の実施」「家のレイアウトの工夫」「飛散防止フィルムを貼る」など、一旦行動を企画すれば実施が比較的容易だが、日常生活の中ではなかなか行動企画に至らず実施率が上がらない対策が上位を占めている。

・起震機体験を通じた「感情的体験」によって自身の状況を踏まえた具体的な揺れ対策行動を考えさせるに至った。

今後の展開



今後の展開



終わりにー成果ー

・特徴的なコミュニケーション様式を持つ生徒であつても、特徴にあった役割を設定することにより、校外市民とのコミュニケーションを含む活動に参加できることが明らかになった。

・減災教育の課題となっていた親世代への行動変容に必要な機会を提供するという、一定の革新性を持つプロジェクトの開発に至った。

終わりにー今後の展望ー

・本校生徒の特徴的なコミュニケーション様式に対しては、否定的な見方が根強い。

・旧来のトップダウンやヒエラルキーを排除して、新しい意思決定のもとイノベーションを加速させていく方法が提唱されており、本校生徒の特徴的なコミュニケーション様式は、イノベティブなものである。

・それをどのように生かすかと視点をより活動の根幹に据えていく。

「逃げなければ道は拓ける」

日興アセットマネジメント株式会社／Freedom所属

車いすラグビー日本代表 池 透暢

皆さんこんにちは。途中、悲しい話だったり、色んな辛い話もありますが、是非聞いてください。

「不撓不屈－逃げなければ道は開ける－」という演題でお話させていただきます。この中にもパラリンピックを応援して下さった方もいると思うんですが、ルールがあまり解らないという方もいらっしゃると思いますので、アニメーションで車いすラグビーの説明を流します。

～アニメーション～

男性も女性も、障害の重い人も軽い人も、全員で力を合わせて一つのトライを狙っていく。非常に多様性を体現して行われる競技であり、色んな人を認め合い、それぞれの能力を最大化させて、勝利を目指していくというような競技です。小学生から大人まで比較的やりやすい競技というか、難しくはないので、ボールを持ってただこいで走るというところがスタート。そして、みんな手・足・全てに障害があるからこそ、お互いが助け合わないとトライができない。でも、初めてでもできるような競技です。ぜひ小学校、中学校、高校、また企業の方々も体験してもらいたいなと思える競技です。では、講演スタートしていきます。ここからはですね、私の19歳の交通事故から、自分自身がものすごく大きなコンプレックスで、前に進めなくなったところからのステップアップを含めて、お話していきたいと思っています。

19歳の交通事故で、車に乗っていてスピードを出し過ぎて街路樹にぶつかって、車がぐしゃぐしゃに大破して、燃えてしまいました。そんな中で自分はいくつかの奇跡があってこうして生きています。私はその車の中から抜け出せないような状況だったんですけど、おそらく近所の方々が最初近くに寄ってきて、私を引きずり出してくれ、そこからバケツリレーで水を運んで、私の体に水をかけてくれた。そして、病院に運ばれ、病院の先生が私の両親に伝えたのが「助かる確率は10%でした。体の75%が火傷で、内臓や筋肉が透けて見えるほどの深い火傷でした。肺の中まで火傷していたので、気道も火傷してるわけです。骨盤も折れていて、膀胱も破裂している。そして、太ももからも骨が飛び出して、左足も折れていたようです。普通の火傷でも40%～50%で命が助からないケースもあるんです。非常に厳しい状況だというのがスタートでした。

いくつかの奇跡とは、救急隊員が私の気道に対し



てちゃんとパイプを通してくださって、腫れて息ができなくなるってことがないようにしてくださっていたこと。自分自身の生命力でこの状況に打ち勝つことができたこと。そして、病院の先生の処置が的確であったことがあります。

火傷によって毎日の処置があるんです。もう全身包帯だらけの自分の体をイソジンが入ったお風呂に体をドボンと入れ、全身をこすっていくんですね。ものすごい激しい痛みで気が狂いそうになりながら、1時間ぐらいつとバリバリいろんな場所を剥がされたりだとか。実は耳も火傷していたので、耳もその処置中に切ったりして、切断部から血が出るとパチパチってその場で焼いていたのか、止血して。もう耐えられないような毎日が続いていました。体の状態で医師から告げられたのは「現在左足は切断したけれども、左手も右足も切断しないといけないかもしれない」でした。自分の中でもう全身も顔も全部が火傷だらけで、足がなくて右手しか残らない、こんな身体で生きていく自信なんて無いよ・・・って本当に生きていくことが怖かったんです。そして、両親に「死にたい」と子どもが親に言っただけのような言葉が実は自分の口から出ていた頃です。両親はすごく傷ついてたと思うんですけども、励ましてくれました。滅菌室にいたため、親戚や友達に全然会うことはできなかったんですけど、たくさんの方がお見舞いに来てくれて、僕に会いたい、助けたいという気持ちで来てくれたこともすごく知っていて、そういう心と体の支えがあったからこそ、やっと自分は進むことができたのかになっていう風に思います。

僕の中で一番大きかったのが、その交通事故で友人が3人亡くなってしまったことです。最初友達に「みんな大丈夫か？」って聞くと、「大丈夫！ユキ

ノブが頑張れ！お前が一番辛い状況だから頑張れ！」とみんながそうやって教えてくれて励ましてくれたんです。自分が両親に「もう死にたい」っていうような言葉を言った時に、実は友達が亡くなったんだっていうことを聞かされて、自分は「一番辛いのが自分で、生きたくない」って思ってたけれども、生きることさえできなかった友人、また19歳という若さで息子を失った親の気持ちを思うと、

「自分は這いつくばってでもこれから生きていかなければいけない。友達の分まで、自分は何もできないけど、自分が残したい3人の人生と僕の人生4人分を生きたい。」、そういった気持ちで2年半の入院と、40回ほどの手術を終えて、なんとか社会に出ることができました。僕の中の生きる意味は「友人たちの生きた証を残す」こと。それが病院のベッドで死にたいと言ってた自分を恥じたあの日の覚悟というか、自分との約束となりました。実は、目の前のリモコンやマイク、こうやって挟んでるんですけど、握ることも捻ることもこともできないし、感覚も実はなくてですね。血の通いも悪くて、まあ何でしょう、健康な手ではないんです。目の前のリモコンさえ操作できなくて、本当に生きていても自分は人に迷惑をかけるばかりだなんて自信なかったんですが、あの日誓った自分があったからこそ「何か始めよう。何もできない自分を何かできる自分に変えよう。」と一番最初にしたのが、一人暮らしでした。ご飯作ったり洗濯物したり掃除したり、最初はなかなか大変だったんですけど、親や仲間の助けを借りながらなんとかできるようになりました。

23歳の時に車椅子バスケットボールに出会いました。小学校の時は野球でピッチャーとかショートをしてたんですけど、スラムダンクに魅せられて、中学校ではあっさり野球を辞めてバスケットを始めました。その時の中学校の監督がたまたま車いすバスケットボールの審判とかをされていて、その監督が「車いすバスケットがあるから、パラリンピックを目指したらどうだ。」って言うてくださって、僕も「それだ！」と思ってひとつ夢を見つけたんです。だからスタートしようとした時に車いすバスケットボールチームに行くと「君は無理です。手が折れて日常生活さえ、ままならなくなるからやめといた方が良い！」とおっしゃられて。その後、違うツインバスケットボールっていう、もっと障害の重い、両手両足に障害がある人たちがやるバスケットボールがあったんですけど、そこでトレーニング積んで、上手になったら「あなたはちょっと障害が軽すぎるので、日本選手権みたいな大会には出られないです。」って言われて、そこでまたショックを受けた。けど、その競技には世界という舞台は無く、日

本だけで作られたスポーツだったので、まあ仕方ないなっていうところで、車いすバスケットに戻ることはできないと言われながらも車いすバスケットボールをスタートさせました。両親が庭の設計施工の会社をしていたので、本当に苦労をかけた、心配をかけた両親の手伝いをするために、ガーデンデザインの設計をするようになりました。国家試験受けて公園とかのデザインができるようになり、お客さんの夢のマイホームの外回りを、自分が設計して形になって、すごく喜んでくださるお客さんを見ると、自分もやっとまだ半人前かもしれないけど一人前になれたなっていう思いができたし、何もできなかった自分が給料もらって人に喜んでもらえる仕事ができる。これだけでもすごい事だな！って思いました。ただ彼女も欲しいし、仕事もしたい、結果も残したい。色々な思いがあって当たり前の幸せというものを僕も願いたいと思って、必死で取り組んでいきました。

そして26歳の時にパートナーに恵まれて、子供もできないかもしれないということだったんですけども、なんとか今2人の息子の父親としてやっています。17歳と15歳でサッカーをしています。プロサッカー選手になりたいって言っています。そこから、実は30歳の時に10年ぐらいかかったんですけど、最初は無理だって言われた車いすバスケットで高知の代表になって、四国選抜の選手になって、やっと日本代表の合宿に呼ばれるようになりました。実はですね、この時に左手を骨折していて、手が折れたまま、3年間手が治らなかったんですけど、片腕でバスケットボールしてたんですね。右手だけでも自分を磨き、世界一になろうと思って必死でやって、やっと掴んだ日本代表の場所だったんです。実はその時に日本代表合宿に参加したら、「お前らこの池、知ってるか？こいつすごいだろ？右手一本でバスケットしている。お前たちにもこんな工夫とか努力、もっとできるんじゃないか？」っていうことを強化部長が言って、その時に僕はこのためだけに選ばれたのか、連れてこられたのかっていうショックと悔しさで、手が治ったら絶対にこの日本代表の場所に実力で戻ってきてやろうっていう悔しいものをまたそこで得ました。そこから一生懸命頑張って、手が治った後、ちゃんと日本代表として海外遠征に行けるようになりました。パラリンピック前の選考のところで日本代表としてやれるかって時に、血管が今にも破裂するかなような状態が足の鼠径部の付け根のところになりました。手術しないと命が助からなくなるかもしれないという危険な状態で、すぐ手術することになり、1年ぐらひは療養期間が必要だと医師に言われたので、もう日本代表の選考には間に

合わず、バスケットボールで日本代表になりたかったけれども、そこは叶わなかったです。そして、ロンドンパラリンピックで戦う日本代表を観た時に、世界で9位という結果で、ずっと応援していたんですけど「世界で9位か…」って。どんなに人生かけてやっても世界で9位というものに家族だったり僕の人生の全てをかけることが正直できないっていう時に、車椅子ラグビーっていう存在を知った。車いすラグビーは手足すべてに障害がある人しかできないと知って、僕にピッタリの競技だったので転向することを決めました。その2年後に、日本代表のキャプテンを任されることになりました。最初は競技を始めて2年で代表のキャプテンなんて、自分には無理だろうと思ったんですけど、バスケットボールで培ってきた経験をラグビーに新しいエッセンスとして入れ込んで活性化させたいっていうヘッドコーチの想いから、キャプテンを任されることになりました。そして36歳の時に、リオパラリンピックで車椅子ラグビーで初めてのメダルを獲得することができました。2度の疲労骨折と動脈瘤という命の危険もあったけれども、交通事故から17年かかりましたが、目標を達成することができました。これが僕の友人のために本当にそれだけを追い求めてやってきた「友人の生きた証」となりました。これがリオパラリンピックの銅メダルなんですけど、目の見えない方が金銀銅を認識するために振ると音が鳴るんですね。このメダルってそういった工夫がされていて、もちろん点字とかもついていたんですけど、シャカシャカシャカって銅メダル色の音が鳴るようになって、銀がもう少し高い音、金はさらに高い音がします。金メダルは日本が取れなくて、銀メダルの音はリオパラリンピックで聞かせてもらいまし



た。本当に僕の人生の中でスポーツをしていて、当時一番嬉しい瞬間がこのメダルをかけてもらった時でした。めちゃくちゃ重かったし、当時一番重いメダルと言われていて、音も鳴るし、もう天国の友人に「やっと取ったよ、ありがとう。」っていう思いをかざして撮ってもらった。これは誰かが撮ってくれた写真ですけど、これが本当に一番嬉しかったです。子供が生まれた瞬間にニコッと微笑んでくれた、その時と同じくらい最高に自分の人生で嬉しかった瞬間でした。この時もう僕のラグビー人生、スポーツを続けていく人生はここで終わってもいいかなって思ったんです。もう達成感がすごくて。でも東京でパラリンピック開催が決まっていたので、次を目指そうっていう風に進んでいきました。その2年後に世界選手権で優勝することができたんですけども、東京大会で金メダルを取るためにアメリカリーグに挑戦します。アメリカのヘッドコーチを捕まえて挑戦することになりました。会社もサポートをしてくれて旅費を出してくださったので、本当にそういった意味ではすごく恵まれていたなと思います。けど何でしょう、高知という田舎から世界へ挑戦することができるんだよっていうことを見せたかった。あと、海外でプレイした経験が何かに生きるんじゃないかと。高知県でスポーツを頑張る子どもたち、サッカー選手になりたいって言いますが、父親がそうやって障害があっても世界に行って挑戦する姿を見せる。一緒に十分に遊んであげられることとか、走り回って色々やってあげられなかったけれども、父親のそうやって挑戦する姿を子どもに見てもらいたいという思いで、アメリカリーグに挑戦する事にしました。この写真はアメリカのチームメイトたちです。アメリカは日本と違って、戦争で首を打たれて手足が動かなくなったりとか、地雷の処理、空軍、海軍といろいろいました。生まれながらの先天性の病気の選手達もいました。日本とアメリカの障がいに対する意識の違いを感じました。

「池！寿司好きだろ？一緒に寿司食べに行こうぜ。」って手足全部ない選手が車を運転して行くんですけど、「ちょっと行こうぜ」って言われた時に、本当にこいつに身を任せて大丈夫かな？って不安になるような猛スピードで車が走るアメリカの道を運転して行くんですが、生きた心地はしなかったですね。でも足がなくても、一人で車椅子を車に積んで運転して全部やってのけるところを見て、たくましさも感じたし、日本でもいろんな障がいを持った中でも、どう工夫したらやりたいことを自分自身でやるか考えさせられました。日本でも学びって沢山あると思うんですけど、アメリカでは結構障がいになる環境も違うし、コミュニケーションもすごく上

手で、日本とは違う文化だになっていうのを感じながらのアメリカ挑戦でした。全ては東京大会での金メダルを目指して行ったんですけれども、やはり2020年に起きたコロナウイルスによって延期が決まり、開催中止という風にならなただけでも僕は本当に救われたなとは思ったんですけど。なかなかアスリートとしての心の持って行き方はすごく難しかった時期でした。体がちょっと動かなくなるというか、何のためにやるんだろうって。望まれてない大会のために僕はなぜ努力をするんだろうとか、そんな感情にもなりました。でも、私が生きていく中で学んだことはやはり「人生思い通りにならないことの方が多い。でもそんな事に囚われたり、弱気になったりしては自分自身も一生弱いままだし、何かを変えることも進むこともできない。今起きてる状況をどう捉えるか？どんな角度で捉えて何が工夫できる？何から始められる？」って問いを自分にかけてながら、やはり一歩も踏み出せずにモヤモヤ悩んでる時間の方がもったいないな、っていう事を色んな経験の中で気づくことができました。困難な時が、やっぱり自分自身の一番の成長の時期だなんて思いました。僕のリオパラリンピックでメダルを取るっていう簡単に叶わない夢っていうのが、自分を継続して成長させてくれた。本気で努力した事の先に、真の価値があると感じることができました。努力をした上でまた失敗しても、それは自分の糧となって、失敗したっていうことが心の財産、人としての財産、また強さっていうものになるっていう風に感じました。失敗した人に寄り添える心も強さなんじゃないかなって思えるようになりました。でも、色んな事から逃げると、その逃げるっていうことが悪い癖になるなっていう風に自分の習慣としてあって。また、病院のベッドで誓った「もう自分は何が起きても何からも逃げない」、それを自分の心の誓いとして持っていたので、友達の命（を失うこと）より怖いものはない、何からも逃げないっていう決意で行った。何だろう、別に逃げるのが悪いって言いたいのではなくて、僕にはその道しかなかったというところでした。なので、逃げなければ必ず道は開けるっていう風に自分は今も思っています。学校とかで話をすると、色んなコンプレックスを持っている生徒さんもいて、「もう生きる自信を失ってる。生きたくなかった。けど池さんが来て話してくれて、僕も、もう1回頑張ろうと思った。」「私もやろうと思う」「目標を見つけて進んでいこうと思う」「挑戦してみようと思う」と色んな言葉を逆にかけてくれて、僕も生きていて良かったって思えるし、僕でも人の役に立てるんだなって事を子どもたちから、沢山学ばせてもらえた事が、パラリンピッ

クのアスリートとしてやっていく上でも、今でも僕のエネルギーになっています。これが東京大会でとったメダルです。銅メダルです。5年間かけて金メダルを目指したんです。優勝候補とずっと言われていて、日本がメダル取るだろうってIPCニュースでも出てたんですけど、銅メダルでした。どんなに努力しても金銀銅っていうものはコントロールできないものなんだなという風に痛感した東京大会でした。全員でずっとやってきて、銅メダルを取ったところで、何の価値もないと言う選手もいました。東京大会の映像を見てもらいたいと思います。

～東京大会の映像～

イギリスチームに負けてしまいました。2017年からもうずっと、過去10試合ぐらい負けたことのないチームに最終負けることになって、金メダルを失うことになりました。さっき映像見てもらったと思うんですけど、障害の一番重い選手が一番軽い選手にタックルでゴールを止めるシーンがあったと思うんですが。ケガをした理由は、トランポリンなどのスポーツをして回転不足で首から落ちて、車いすラグビーをやってる選手だったり、サーカスとかの選手たちもいたり、ラグビーでの事故だったりとかいろんな方々が実はいる競技なんです。このチームでやっててもなかなか届かなかった金メダルですが、行動自体は本当に金メダルと言ってもおかしくないぐらい、日本チームは世界最強で世界最高の環境でやらせてもらえていた。今は企業もアスリート雇用という形で私たち契約させてもらっているの、そういったトレーニング環境もすごく良くなったのが東京大会でした。そして、先日のパリ大会の映像を見てもらいたいと思います。

～パリ大会の映像～

この大会で取って来たのがこの金メダルです。えーとですね、なんか見てもあの思い出すと自分は熱くなるんですけど、オーストラリア戦が準決勝であって、もう残り15秒でオーストラリアがゴールすればおそらく僕らは負けていたかもしれない。でも、その15秒を信じて、守り切って延長戦に持ち込んで、日本チームが勝利。オーストラリアはパラリンピックで東京大会4位だったんですが、ロンドンだったり北京でも金メダルを取ってる、すごく強いチームだったんです。また、次のロサンゼルスが決まってるアメリカチームも実力的には世界最強と言われるぐらいのチームになってきてるんです。それをさらに日本が上回ることができました。実は、その要因というか、何が相手チームと違ったかというと、今回のパリ大会のメンバーは東京大会の選手12人中11人が選ばれることになって、その間、日本が強化できなかったわけではなく、東京の悔しさを持

った選手たちがずっと継続して成長し続けたからこそ、最終11人も残って今回のパリ大会に出場した。選手たちはメンタル的にもプレイ的にも、世界の中でもそれぞれ各国の障害クラスでベストプレイヤー賞を取れるんじゃないかっていうぐらいに皆成長して、全員の力で取った金メダルだったんじゃないかなと思います。そして、これは僕の大好きな写真なんですけど、パリまで応援に来てくださった、日本から来てくださったファンの皆さんの写真です。自分が何かを達成したいと思って目標持ってやるけれども、自分だけが達成したいということよりも、何かのために誰かのためにっていう思いで取り組む人の方が成功しやすいっていう統計があるらしく。そういった、まさに皆さんのために、あなた達のためにこれを見せたかったんだ、東京大会やリオ大会で悔し涙を流した皆さんと一緒に、最後嬉し涙を流したいんだっていう、そういう思い描いたイメージが現実となった時、やっぱりそこはスポーツをする上で一番美しい瞬間だになっていう風にこの瞬間思いました。もちろん、自分たちの抱き合う姿も美しい。そして、負けたチームが僕たちを称える声もまた素晴らしい。そして、こうやって負けたチームの観客たちも称賛し合う姿、この美しさは本当にかげがえのないものだになっていうことを感じさせてもらいました。最後に、ここにもあるメダルなんですけれども、もう悔しさがひとつもないっていうことを経験させてもらえた。この金メダルにも感謝ですし、パリ大会を通してたくさんの方々が試合を観てくれて、応援したいって言ってくれるんです。関東の方では東京オリンピック・パラリンピックのレガシーが少し見えてきてるんですが、なかなか地方にそれが浸透してこないというのも私は感じていて、地方からでもこうやってオリンピック・パラリンピックの素晴らしさを発信していけたらなと思います。次、ロサンゼルス大会がありますけれども、また引き続き今回の講演もきっかけに応援していただけたらとても嬉しいです。私の講話の方はこれで終わりたいと思います。



第1分科会 「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」の指導について

【発表1】 長野県丸子修学館高等学校 教諭 中野 篤男

「『産社』と『総探』から考えるこれからの総合学科」

【発表2】 香川県立三木高等学校 教諭 廣林 研史

「『産業社会と人間』・『総合的な探究の時間』をつなげた3年間の育成プラン
ー3年間で主体的に進路と向き合い、主権者として自走する生徒の育成を目指してー」

【指導・助言】 岩手県立岩谷堂高等学校 校長 山影 稔男

「産社」と「総探」から考える 総合学科の未来



長野県丸子修学館高等学校

教諭 中野 篤男

総合学科推進係

キャリア教育

探究の時間

講座選択

教育課程

学習評価

広報

学習発表会

職員研修

連携事業

学びの指標

調査・統計

外部講師

「産社」と「総探」から考える総合学科の未来

丸子修学館高校の紹介

産業社会と人間

総合的な探究の時間

総合学科の未来

丸子修学館高校

創立 112 年目

平成19年～
総合学科へ転換

総合学科 18 年目
1 学年 5 学級
2・3 学年 6 学級

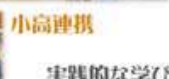
実業高校からの教育資源が多く、幅広い選択が可能

農業・土木・建築・商業・情報・芸術・食物・保育・福祉

地域連携



教科間連携



小高連携

実践的な学び

探究的な学び

広くて深い 多様な学習

・普通科目と専門科目の
どちらも学べる

・農業と福祉、スポーツと
栄養のような複合的な
学びも可能

年間行事

4月	入学式
4月	新入生歓迎会
4月	クラス懇話会
5月	生徒会総会・社会科
5月	経済実習大会
6月	文化祭
7月	柳門祭
7月	芸術鑑賞
8月	夏休み
9月	国際関係実習
9月	全学年研修
10月	職業実習
10月	職業実習
11月	職業実習
11月	職業実習
12月	職業実習
12月	職業実習
1月	卒業式
2月	卒業式
3月	卒業式

充実した 学校行事

- ・柳門祭(文化祭)
- ・クラスマッチ
- ・強歩大会
- ・芸術鑑賞
- ・修学旅行

活躍する クラブ活動

・インターハイ出場
陸上部

・北信越大会出場
ボクシング部・土木部
ソフトテニス部

教育目標

1. 総合学科の特色を生かし、自らの将来設計に意欲的に取り組み、自己の能力を高めることのできる人材を育成する。
2. 豊かな感性と深い知性を持ち、社会の発展に貢献できる人材を育成する。



目指すのは 人間力の向上

- 社会・対人関係力
- 知的能力
- 創造力
- 自己制御力

学校生活のすべてが
キャリア教育の場



運動部

野球 サッカー ソフトテニス
バスケットボール(男・女)
バレーボール(男・女)
卓球 陸上 弓道 柔道 剣道
ボクシング バドミントン 水泳

文化部

美術 音楽(合唱・吹奏楽部)
軽音楽 書道 写真 演劇 ダンス
家庭科 ビジネス研究 土木
農業 英語 パソコン 社会福祉



	月	火	水	木	金
1時限	家庭基礎	数学Ⅰ	体育	科学と人間	言語文化
2時限	現代の国語	科学と人間	歴史総合	芸術	数学Ⅰ
3時限	地理総合	情報Ⅰ	数学Ⅰ	情報Ⅰ	英語CⅠ
4時限	体育	英語CⅠ	家庭基礎	LHR	芸術
5時限	数学Ⅰ	現代の国語	言語文化	産社	保健
6時限	英語CⅠ	歴史総合	英語CⅠ	産社	地理総合

産業社会と人間

毎週2時間連続
担任と産社担当2名のTT

木曜の5時限
2年生:探究基礎
3年生:キャリアレッスン

前期	後期
・コミュニケーションキャンプ ・卒業を生きるための力 ・講座選択説明会 ・校外研修Ⅰ ・第1回講座選択調査 ・第2回講座選択調査 ・外部講師講演会 ・インターシップ ・第3回講座選択調査 ・ライフプランの作成	

1年次の授業

- ・必修修科目中心
- ・クラス単位授業
- ・「産社」木⑤⑥
- ・LHRと組合せ可能

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

2年次の授業 3年次の授業

- ・選択枠は年々減少
- ・丸修の授業
約160種類ある

2年次 → 14単位分の授業を自分で考える
3年次 → 22単位分の授業を自分で考える

年間3回の希望調査をもとに
次年度の授業を決めていきます

1・2年次 年間3回の科目選択希望調査を実施

6月	講座選択説明会 第1回講座選択希望調査
9月	第2回講座選択希望調査
11月	講座選択検討会議
12月	第3回講座選択希望調査



毎年、生徒の希望により講座数や教員数も大きく変化します

本校の科目選択の呼称: 「講座選択」

6系列・14分野の学び

文化アカデミー系列
国語・地歴公民・外国語
サイエンスアカデミー系列
数学・理科
バイオ環境テクノ系列
農業・土木・建築
情報ビジネス系列
商業・情報
スポーツ健康系列
保健体育・福祉・食物・保育
芸術デザイン系列
被服・音楽・美術・書道

学びの柱となる 6系列14分野

- ・授業選択においては
学びの柱となる系列
と分野を1つ選択
- ・翌年度に学びの柱を
変更することも可能

4系列の多様な学び

グローバル系列
国語・地歴公民・外国語・ビジネス
サイエンス系列
数学・理科・看護医療系進学
バイオ・テクノ系列
農業・土木・建築
ライフデザイン系列
ファッション・食物・福祉
音楽・美術・書道・情報・保健体育 (総合選択科目群)

18期生より 4系列へ再編

- ・1人教科は必修中心
- ・系列という枠組みは
変更したが、科目や
学びの幅は維持

丸修のキャリア教育とは…

自分らしい 生き方を考える

高卒後の進路(進学・就職)を
考えることだけではない

人生に正解はない
自らの選択を正解へ導いていく生き方

丸修の キャリア教育

「自分らしい生き方」
を3年間考え続ける

将来の人生を歩んで
いく際に必要な力や
考え方を学ぶ

「職業」選びから 「いたい姿」探しへ

「夢」… 生涯を通じて取り組みたい
こと、いたい姿、「目標」

「職業」… 夢を叶えるための「手段」

例) 看護師になりたい

- ・どんな看護師になりたい?
- ・看護学校の受験対策だけの学びでいいの?
- ・命の大切さは、人だけ?

大切にしたい 考え方

- ・職業選びではなく、
理想の人生を描き、
歩み方を考える
- ・価値観や視点を固
定化(固執化)させ
ない

産業社会と人間



丸修の授業風景

探究基礎



探究活動の様子

特徴的なキャリア教育

- 自分の価値観や適性について知ると共に、自身の学びを社会と結び付け、深く探究するなかで、将来の在り方を見出す学びを展開

キャリアレッスン

総合研究

「産社」と「総探」から考える総合学科の未来



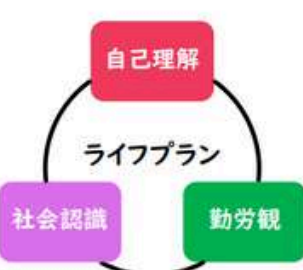
丸子修学館高校の紹介

産業社会と人間

総合的な探究の時間

総合学科の未来

「産業社会と人間」 (1年次・2単位)



学期	主な学習活動
前期	- コミュニケーションキャンプ - 自己理解ワークショップ - 講座選択説明会 - 上級学校見学 - 第1回講座選択調査
後期	- 第2回講座選択調査 - 外部講師講演会 - インターンシップ - 第3回講座選択調査 - ライフプランの作成

「産業社会と人間」 (1年次・2単位)

(1) 年間学習指導計画

月	学習活動	講座選択
4月	ガイダンス	
5月	自己理解	
6月	自己理解	講座選択Ⅰ
7月	ライフプラン	
8月	学ぶ	
9月	ライフプラン	講座選択Ⅱ
10月	働く	検討会
11月	働く	講座選択Ⅲ
12月	地域と産業	
1月	地域と産業	
2月	まとめ	
3月	まとめ	

「産業社会と人間」 (1年次・2単位)

(2) 学習指導要領との対応

「産業社会と人間」 【学習指導要領(平成30年度告示)第一章総則第2款の3(イ)オ(イ)】

ア) 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成

イ) 我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察

ウ) 自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成

ア	コミュニケーションキャンプ、上級学校見学、インターンシップ、丸修産業フェスタ
イ	ENAGEED、講演会、M-project
ウ	自己理解ワーク、エンゲージメントカード、ライフプランの作成、講座選択

「産業社会と人間」 (1年次・2単位)

(3) 学習評価

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点と内容	社会生活や職業生活、産業と社会の変化、他者との関わりおよび将来設計に必要な正しい知識を身に付けるとともに、今後のライフプランを設計し、自らの立ち位置を明確にすることで、将来設計に向けた自己の課題と具体的なアクションについて理解している。	自立した人間として他者と共により良く生きる自己の生き方について深く思考するとともに、我が国および地域の産業の発展とそれらがもたらした社会の発展について多面的・多角的に考察を深めている。また、学習活動全体のなかで、自らの考えをまとめ、表現し、他者に伝える力を身に付けている。	協働的・実践的な学習活動および主体的な講座選択を通じて、自己および他者との関わりについて認識を深めるとともに、自らの人生について具体的な見通しを持ち、生涯にわたって自己を向上させ、豊かな人生を自らの手でつくりだしていく自覚と態度を身に付けようとしている。
評価対象	- 定期考査(口頭試問) - ワークシート	- 定期考査(作文) - ENAGEED課題 - グループワーク - M-project	- リフレクションシート - 行動観察 - 講座選択希望調査用紙 - インターンシップ外部評価

学習状況を上記3観点にて評価し、これらを参考に学年末において5段階にて総合評価します

「産業社会と人間」 (1年次・2単位)

(4) 特徴的な取り組み

① アドバイザーリストによる教員との関係づくり

学年	内容	担当
1年次	1. 全教職員紹介冊子を毎年作成し、掲示・配布している 2. 生徒は4月にその冊子から先生を選び、訪問・対話を行う 3. 大学の専攻、趣味・特技、これまでの経験、ライフワークなどを自由に記入してもらう	担任や部活以外の先生とのつながり

→ 2・3年次の探究活動や進路相談にも活用している

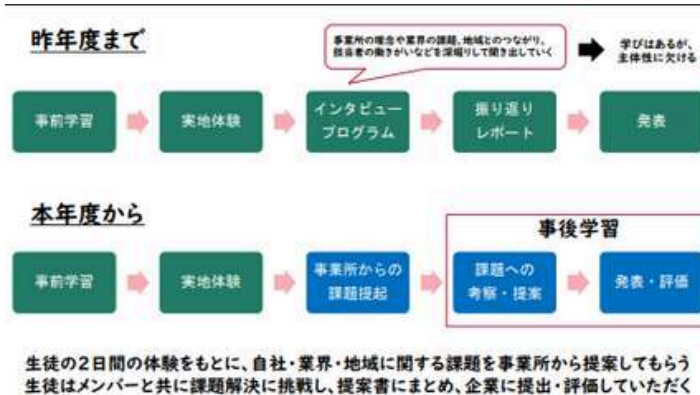
「産業社会と人間」 (1年次・2単位)

(4) 特徴的な取り組み

② エンゲージメントカードを活用した自己対話



- 8枚の価値観が描かれたカードを取捨選択しながら自分と対話することで、自己理解を高めるワークショップ
- メンバーとシェアすることで、他者理解や多様な価値観などに触れることができる
- 自分が本当に大切にしていきたい価値観を知り、どのような人生を歩みたいかにつなげていく



「産社」の学びを深める大人気の講演会

ココロの授業 **ヒタカス先生**

比田井和孝への

比田井和孝氏

「幸せな人生を歩むためにとても大切なこと」

WILL発展委員会

各クラスで実施し、生徒の関心を高め、WILLの発展に貢献する。

学年	1年	2年	3年	4年
1年	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問
2年	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問
3年	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問
4年	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問	1. 自己理解ワーク 2. ライフプラン作成 3. 社会人基礎力 4. 職業体験 5. 企業訪問

本校では産社主担当者が1年間のOJTを終えると、昨年度担当者からオリジナル免許状が授与されます

公的な証明にはなりません、1年間「産業社会と人間」と向き合い、努力を積み重ねてきたことを称え、総合学科の教員として学校を牽引してきた自信と誇りを持ってもらうことをねらいとしています

「産業社会と人間」 (1年次・2年次)

(4) 特徴的な取り組み

⑦ 丸修産業フェスタ“郷学郷就”を目指す!

1・2年次の生徒が全員参加する企業説明会

企業側のPRだけでなく、地域と企業の結びつきや勤労観・職業観の涵養を目指した話を取り入れてもらいキャリア教育としての側面を強く打ち出したガイダンスとしている

「産業社会と人間」

自己理解 **社会認識**

ライフプラン

学ぶ **働く**

「産業社会と人間」 (1年次・2年次)

(5) 成果と課題

課題1 ループワークづくりが難しい

- ・ 学年主導であり、毎年授業担当者が異なり、評価の温度差が生じやすい
- ・ 自己理解ワークやライフプランは内容の評価はできないため、表面的な評価になってしまう

産社を学んだことにより、生徒がどのように変容したかを見取りたい
⇒ 考えを言語化することが苦手な生徒が多い本校では大変苦慮している

課題2 授業の成果・価値が見えにくい

- ・ 「産社」の学びによる成果や授業の意義の検証が難しい
- ・ 目に見えた成果として、すぐに表れるものではない

担当教員のモチベーションが上がりにくい
⇒ 教員によっては負担感が先行・・・

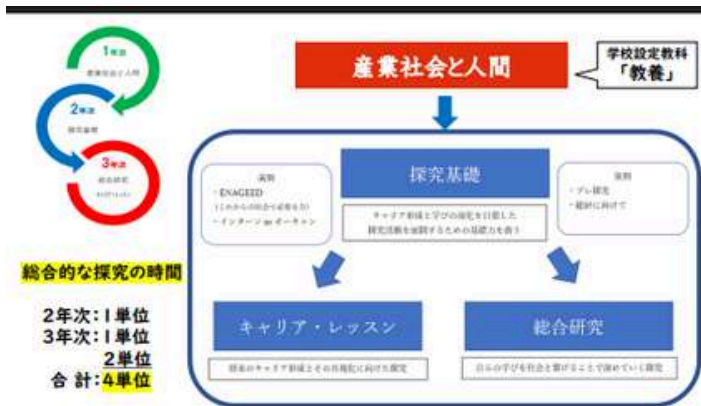
「産社」と「総探」から考える総合学科の未来

丸修学園高校の紹介

産業社会と人間

総合的な探究の時間

総合学科の未来



総合的な探究の時間

〇年間学習指導計画

	探究基礎(2年)	総合研究(3年)	キャリア・レッスン(3年)
4月	探究スキル(社会課題)	テーマ設定・研究概要	進路実現に向けて
5月	探究スキル(調査分析)	個人・グループ研究	進路別探究講座
6月	探究スキル(まとめ)	個人・グループ研究	進路別探究講座
7月	進路探究	個人・グループ研究	進路別探究講座
8月	進路探究	個人・グループ研究	進路別探究講座
9月	探究スキル(伝える)	中間報告会	進路別探究講座
10月	テーマ設定の方法	個人・グループ研究	進路別探究講座
11月	ブレ探究活動	個人・グループ研究	理想と現実の橋渡し
12月	ブレ探究活動	最終報告会・研究発表	社会人基礎力講座
1月	ブレ探究活動	研究発表・発表会	キャリア教育まとめ
2月	総合研究テーマ設定	-	-
3月	ライフプランの練り直し	-	-

「探究基礎」(2年次・1単位)



(1) 探究基礎

① R5年度“地域”をキーワードに探究メソッドの習得を目指す

(1)前期の探究基礎の授業

○ 選択したコース

- ①地域文化研究グループ
- ②地域生活研究グループ
- ③地域環境研究グループ



地域を題材としたブレ探究を通じて、探究活動の流れや進め方を学ぶ

「マインドマップ」や「RESAS」の活用・まとめ方・伝え方

前期: 地域探究 後期: 地域間比較(沖縄との比較)

「探究基礎」(2年次・1単位)

探究の流れをつかむグループワーク(後期)

テーマはこちらから提示 ⇒ 例) 被災地で水を倍額で販売することは悪か?



「キャリア・レッスン」(3年次・1単位)

(2) キャリア・レッスン

① 企画部署と運営



主担当: 3学年 進路指導係
授業: 12名の教員が講座別担当

生徒の進路に対するモチベーションを維持できるが、進路決定のタイミングが異なるため以後の指導が大変

「キャリア・レッスン」(3年次・1単位)

学問探究コース

四年制大学(文系)

四年制大学(理系)

短期大学

職業探究コース

就職(民間企業)

就職(公務員)

専門探究コース

専門学校

看護医療系進学

総合学科らしい「進路」に関する探究活動
少人数制によるきめ細かな対応

(2) キャリア・レッスン

② 進路決定後が本当のキャリア教育のはじまり



社会人になる前に勉強してほしい…

- ・ ビジネスマナー
- ・ 労働と法
- ・ 保険
- ・ お金の知識 など

実務も大事だけど…
もっと伝えることあるのでは？

- ◆ 人生の岐路に立ったら…
- ◆ 理想と現実のギャップに悩んだら…
- ◆ 辛くて逃げだしたくなったら…
- ◆ トラブルに巻き込まれたら…

絶対的な正解はないけど、先人たちの
考えや事例、相談窓口を教えること
も大事ではないでしょうか！

「総合研究」 (3年次・2単位)



地域貢献活動
製作活動
企業連携活動
実験・実習
教科間連携活動

多様な研究活動



毎年1月末に1,500人収容の会場で発表会



(3) 総合研究

「総合研究」 (3年次・2単位)

① 総合研究の位置付け

○学習指導要領(平成30年度告示)総合的な探究の時間編解読 第5章1節8款

総合学科においては、総合的な探究の時間の学習活動として、原則として、生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について知識や技能の深化、総合化を図る学習活動を含むこと。

総合学科での学びの集大成として探究活動を実施



自身の学びと社会のつながりについて考え、学びの意義を見出す

(3) 総合研究

「総合研究」 (3年次・2単位)

② 総合研究の講座

国語分野(14)	地歴公民分野(25)	外国語分野(16)	数学分野(5)
理科分野(23)	保健体育分野(8)	農業分野(10)	工業分野(19)
商業分野(17)	被服分野(18)	食物分野(15)	福祉分野(10)
保育分野(12)	情報分野(10)	※プロジェクト型	

- ・ 3年次に「学びの柱」とした分野の講座に籍を置く
- ・ 研究テーマは自由であるが、多くの生徒が学びの柱に関連する研究テーマを設定
- ・ 担当職員は各教科から選出
 - ⇒ 約15名に1人の計算だが、専門科は常勤職員全員での指導体制
 - ※ プロジェクト型講座は地域と協働したテーマ型プロジェクトを行うグループ

(3) 総合研究

「総合研究」 (3年次・2単位)

③ 総合研究の流れ



(3) 総合研究

「総合研究」 (3年次・2単位)

④ 研究テーマの例

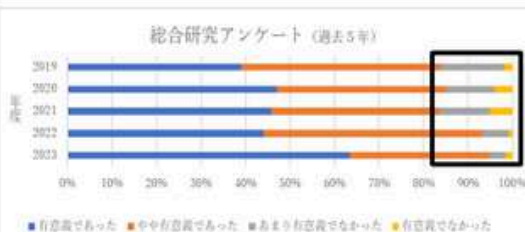
国語	可愛い書に対する攻撃性はなぜ生じるのか
地歴公民	お祭りや地域活性化はできるのか
数学	世の中の比率(78:22と64:36)
外国語	海外の子供向けアニメは日本の英語教育にどう繋がっているのか
理科	結露は道路の最短ルートが分かる? ~採取・培養・創作~
農業	トマトは露地栽培、暖房施設で生育にどのような違いが見られるのか
工業	福山城桜ロード整備事業(見晴台防風壁、案内看板、遊歩道安全柵の製作設置)
商業	地域コミュニティ通商まちのコイン「もん」地域活性化への可能性 ~上田市との共同研究~
保健体育	幼少期における運動神経向上について ~身体を動かして脳を活性化~
食物	「機嫌の悪い物を使って簡単スイーツを作ろう! ~食品ロス削減へ~
保育	「イヤイヤ期 ~イヤイヤ期でもおいしく食べられる幼児食~
福祉	カラーユニバーサルデザインで見やすく
被服	男女差のない服作り ~シルエットやカラーを通じてジェンダーレスファッションについて~
情報	LINE botでGoogle Classroomの投稿を配信するシステムの開発



(3) 総合研究

「総合研究」 (3年次・2単位)

⑤ 成果と課題



(3) 総合研究

「総合研究」 (3年次・2単位)

⑤ 成果と課題

課題1 調べ学習からの脱却

- ・ 「探究基礎」の導入により、探究の流れやまとめ方をきちんと習得させる
- ・ 担当職員の指導力向上を目指した職員研修の実施

課題2 総合研究と進路指導

- ・ 本校の探究活動の成果を大学の総合選抜等で活用することができていない
- ・ 深いテーマ設定と課題の明確化、今後の見通しなどのまとめをきちんと支援する

課題3 授業時間外での活動支援

- ・ まずは意欲の高い生徒たちの時間外の活動を支援する体制づくり
- ・ 総合研究を「ひとつの科目」から「3年次の学びの中心」とする意識改革

※発表会の生徒スライドより抜粋

近未来メガネ

長野県丸子修学館高等学校
サイエンスアカデミー系列・理科学分野
3年2組
3年6組
3年6組

※発表会の生徒スライドより抜粋

V 実験



「実験」
撮影→音声

カメラ
「実験」
ボタン
ラズベリーパイ

完成品



※発表会の生徒スライドより抜粋

II 目的

漢字を読めないことをハンデと感じている人でも
苦勞をせずに生活ができるものを作りたい



近未来メガネ
漢字が読めない人のための
補助機能が
ついたメガネの作製

※発表会の生徒スライドより抜粋

①写真を撮るプログラム

```
@Main
try:
    n = 0
    while True:
        if n == 0:
            print("ready")
            if GPIO.input(26) == 0:
                print("click")
```

ボタンが押されたら

```
filename = time.strftime("%Y%m%d%H%M%S") + ".jpg"
save_dir_filename = CAM_DIR + filename
camera.capture(save_dir_filename)

except KeyboardInterrupt:
    GPIO.cleanup()
```

カメラで写真
を撮るという
プログラム

※発表会の生徒スライドより抜粋

VII 感想

・皆が不自由なく生活できるような製品を作することは
簡単ではないことがわかった。

・自分が選択した分野と異なる分野の研究ができたこと
で視野が広がり、**総合研究に取り組んだことで、
卒業後の進路や進学後に取り組みたいことを見つける
ことができた。**

全員が情報・工学系の学部に進学し、より研究を深めていきます

「産社」と「総探」から考える総合学科の未来



■ キャリア教育実施時間（キャリア教育実施校／複数回答）

	2017年 実施 校数	2017年 実施 時間 (分)	2018年 実施 校数	2018年 実施 時間 (分)	2019年 実施 校数	2019年 実施 時間 (分)
総合的な探究の時間（学習）の時間	115	115	115	115	115	115
総合的な探究の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115	115	115	115
職業教育（活動）	115	115	115	115	115	115
職業教育の時間	115	115	115	115	115	115
キャリア・教育・職業教育に関する授業科目	115	115	115</			

■ キャリア教育の今後の課題（全体／複数回答）

		2022年 全体	2021年 全体	2020年 全体	2019年 全体	2018年 全体
教育の必要性の大きさ		91.8	92.0	91.3	90.3	91.7
実施時期の早さ		48.7	49.4	50.0	49.1	47.9
教育の領域・範囲の広さ		40.0	39.0	38.2	39.4	40.2
教育者の知識・経験の豊富さ		39.9	39.7	39.0	41.8	40.4
教育の時間的余裕		25.5	26.7	24.8	26.1	26.8
教育が実行可能な量		23.6	23.7	23.8	23.1	23.9
学習動機・モチベーション		30.4	32.2	31.3	32.0	31.8
生徒の理解・協力・参加		31.3	31.8	31.8	32.0	31.9
教育が面白い		20.0	21.8	21.7	22.0	21.7
評価が難しい		20.0	21.8	21.7	22.0	21.7
その他		1.3	1.4	1.3	1.3	1.3
わからない		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※ 全国教育実況調査

※ 株式会社リクルート「リクルート調査」調査対象：高校教員等に関する調査2022（調査対象：キャリア教育）編（2022/1/14）より

普通科

専門科

第3の学科
総合学科

何のために
勉強して
いるのだろう??

想像していた
勉強と違う...
道路どうしよう...



新しい学校をつくらう

自分の将来についてきちんと考える学校

総合学科

・平成6年度に全国の
7校からスタート

・多様な進路に対応
した新しい学びへ

キャリア教育の敗北...

勉強したくないから、就職する！

総合学科の理念

(一) 将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること。

このため、在学中に自己の進路への自覚を深める動機付けとなるような科目を開設するとともに、生徒の科目選択に対する助言や就職希望者・進学希望者の双方を視野に入れた進路指導などのガイダンス機能を充実すること。

(二) 生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を可能にすること。

このため、教育課程の編成に当たっては幅広く選択科目を開設し、生徒の個性を生かした主体的な選択や実践的・体験的な学習を重視し、多様な能力・適性等に対応した柔軟な教育を行うことができるようにすること。

転勤された先生方から...

「産社やらないで、進路指導なんかできないよ！」

「総合学科は将来の可能性を広げるには最高の場所だよ！」

「総合学科は大変だったけど、面白かった。
また、戻って働きたいな！」

総合学科は...

- ・教員免許はありません
- ・教科書もありません

全員が素人
手探りの学校づくり

～ 総合学科 ～

- ・きちんと迷わせる
- ・主体的に選択させる
- ・何度も考えを揺さぶる
- ・選択を正しいものにする

何の先生ですか？

総合学科 の 先生です!!

本校の総合学科 中期計画

Next Innovation

伝統を守るための革新



総合学科も岐路へ

Next Innovation

伝統を守るための革新

子どもたちの未来のために
総合学科の発展を目指しましょう!
今後ともよろしくお願いします!

ありがとうございました



第29回 全国高等学校総合学科教育研究大会 高知大会 第1分科会(2024)

【第1分科会 発表1 質疑応答】

Q：愛媛県立今治西伯方分校

今日は貴重な発表ありがとうございました。うちの学校は今は普通科の学校ですが、令和8年度から他の学校と合併して、普通科から総合学科になるということで、非常に心配をしているというか、喫緊の課題でございましたので、講師の先生が楽しそうに発表していただいて、心配だけでなく、楽しい一面もあるんだなということで、すごく励みになりました。

質問なんですけれども、昨日高知東高校さんの授業参観をさせていただいて、「産業社会と人間」とか「総合的な探究の時間」というのが、個別の学びというのが多くなるかと思います。その中で、生徒がそれぞれテーマを設定して、自分なりに課題を見つけてということなんですけれども、一斉授業と違って、やっぱり生徒によって取り組みにすごく差が出るなということを実感しております。高知東高校さんも、1年生のうちは入学したてということで、ちょっと前向きに捉えてないような生徒さんもいたんですけれども、それが1年・2年・3年と成長するに従って、3年生では立派な発表になっているということで、成長している姿を見たんですけれども、それでもやっぱり、個別の学びに対して生徒の差があるという中で、どうやってそれを前向きに、個々の生徒に対して取り組ませるかという、何か知恵がありましたらご教示ください。



A：発表者

ご丁寧にありがとうございました。「個別最適な学びがこれから大事です」なんてことが出ていますよね。本校もやっぱり非常に多様な生徒がいて、年度によってなんですけれど、浪人しちゃいましたが、数年前に早稲田に受かった生徒がいたり、青山学院に一般入試で合格するというような学力層の子もいれば、「勉強が嫌です」というような、もちろん座ってはいられるんですけど、いろんな授業や課題が嫌だっという子も非常に多いです。本校の場合はわりかし勉強が嫌ですって子のほうが多くいるので、学習集団は似たりよったりかなと。もちろん一人ひとりを見ると全然違うんですけど、ほとんど似たような感じです。

最初の1年生のときはやっぱりまだクラス作りも含めてやっているんで、クラスでやるっていうと協調してやらなきゃいけないからか、みんな周囲に合わせながらしっかりやりますね。しかし、だんだん学力だけでなく、人間関係とかもあっていろいろぐちゃぐちゃしてくるので、本校は最初はクラス単位で、1クラス2人体制で授業を進めていきますが、1年次の後半や2年次には6クラスあると12人の担当がいるので、12講座の少数にして、そのところで人間関係の調整や学習集団がある程度同じような感じの子になるように分けたりしています。ただ、T・Tから複数講座に分けると、ある講座は先生が熱心に手を入れて、ある講座は放置みたいな職員の力量に関すること出てきて、どっちかっていうと僕はそっちの問題の方が大きいと思っていますが、教員が手を入れやすいようにしていくためには今後も少人数講座での実施を考えています。今はそれぐらいしかできていないです。

Q：青森県立七戸高校

貴重な取り組みのご紹介をいただきましてありがとうございました。大変参考になる発表でした。質問なんですけど、取り組みの中で講座選択会の説明会で共通テーマを設定して、科目の選択の説明をするというお話すごく楽しそうだなと思って聞いていたんですけど、この共通テーマを決めるのは、どこでどのようにして決めているのかというのと、あとはテーマを決める際の留意点があれば教えていただきたいと思ったんですが、何かございますか。

A:発表者

ありがとうございます。これは1年生でやっているの、1年生の担任の先生に決めてもらっています。講座選択説明会のテーマなんですが、来年から取り組みたいのが学年目標とかとリンクさせたいなと思っています。例えば学年目標は先生方が「こういう目標を持ちたい」というものがあると思うんですけど、そこから一文字、例えばこの学年は「生きる」や「生き方」というのを大事にしたいのであればそこから「生」を共通テーマとして設定していく。それを3年間の学びの中で随時触れてやっていく。いちばんの理想は、講座選択説明会だけでなく、次の年の探究基礎の学びのときに何かテーマを考えるときも、「生」というものを大きなキーワードとしてそこから深めていく。3年生の課題研究もそうする。地域とか社会と自分を結びつけるところに「生」というものを加えて、テーマを設定するっていうふうにして、この学年は「生」の学年だ、みたいな感じに3年間の学びのキーワードを創ることができる、探究との結びつきもできるのかなと思っていて、来年その研究をしたいと思っています。

もし、講座選択説明会のテーマを決める際は、「これ、『生きる』はどの科目でも行けるよな」という感じで一応考えます。芸術の先生に「音楽の学びについて生をキーワードに説明してほしい」とお願いしたら「生演奏？とかでいけるか」など全教科が扱いやすいかを一応考えてみます。あまり汎用性が高くない文字にすると、ちょっとだめです。「窓」とかって書きちゃうと解釈が難しくなるので、解釈がしやすい文字にするっていうのでやっています。学年目標とリンクすると絶対3年間に繋がると思いますが、ぜひ。

Q：香川県立三木高等学校

実際に6系列14分野から4系列に少し思い切って変えられたっていうことなんですけど、系列の枠組みは変更しているけど、科目や学びの幅は維持してあるというふうにおっしゃっているんですが、系列を少なくするという事は、すごく大変なんじゃないかと思っていて、ここの中で、例えばそのスムーズにいらっているところとスムーズにいないところ、むしろ系列を4系列にした方が時代の流れによってよかったのか、それとも、やむを得ずせざるを得なかったのか。その辺りちょっと教えてほしいんですが、すいません、あとになりましたが、素敵な発表ありがとうございます。よろしくお願いします。

A：発表者

4ページの資料のところにありますが、「系列」って多分、各学校で捉え方が違って、総合学科創成期に私はまだ子供なのでわからないんですけど、最初はたしか、「学習科目群というかたまり」だったと思うんです。コース制ではないっていう。例えば本校で言うと、「土木の授業をとる人は土木系列です」ではなくて、土木系列の科目を中心に取って行って、他の系列の科目も取れる。だから、「専科ではない」という話だったと思うんですよ。その立ち位置に本校は立っています。正直、グローバル系列に国語と社会と英語とビジネスの学びを入れてるんですけど、別にこれはこのグローバルっていう言い方が合ってるかわからないんですけど、ただ学問領域の近い教科の学びをまとめて言っているだけです。

ただこの選択で難しいのが、工業の先生に「建築とか土木は積み重ねをしたいので、安全をしっかり担保できないから、何となく取ってくるのはやめてほしい」とすごく言われるので、本校は実業高校の名残がすごくあって、農業・工業の先生は「中途半端に1科目取っても役に立たないよ」という、職人肌的なお考えもちょっとあります。そのため本来は数学と物理が中心だけど1つだけ建築の科目を取りたいというのもありなんですけど、そういう履修が難しいというのが現状です。

学びの幅を維持しているのは教員の定数を維持するためでもあります。また、中学生に説明する際に例えば商業の授業がなくなるならそれを数年前から周知しておかないといけないので、すぐにはできないという事情もあります。何とかこういうような事情から系列の再編に少しずつ着手し、いずれ職員定数が大きく減少するような際にも対応できるよう少しずつ分けてやっているところです。このあたりは資料があるので、お送りします。

生徒が繋ぐ主権者教育を模索して…

本校の概要 1996年創立 総合学科2学級・文理科2学級 校訓「自主・自律・友愛」⇒ **目的：主権者教育（主権者とは？）**

生徒の特徴 ○横やかて人の気持ちを理解（友愛）、自主・自律に課題（自己肯定感が低い）⇒ **課題解決②**
○地元で愛着を持っている生徒が多い

1. 総合学科3年間の生徒育成プラン⇒ 1年次期：高いハードルを越えて身につける自律と主体性

- 香川県中小企業家同友会と連携した「インタビューシップ」【産社】
- 1年次期：自主性から主体性へ（主体的に考えて行動する仕組み）【専門授業改革】
- 2年次期：主体的に学ぶ姿勢の育成、生徒の希望を現実化！！
- 外部団体と連携する体制づくりと主体的な授業運営の確立（外部団体と密に仕組み：三木町・香川県中小企業家同友会との包括的連携協定）
- 3年次期：進路に関して主体的に自主する生徒の育成（県内外の高校との積極的な交流、本校卒業生との繋がり等）
- 一人一人を大切に活動、主権者を意識する仕組み

2. 総合学科主任に担任へ

⇒ 生徒との距離が近くなることで、新たに分かる生徒の成長と自分の

視野の拡大、明確になる3年間の育成プランの課題、最後の企み！！

生徒の発表をお聞きいただき、3年間の育成プランの評価と課題のポイントをいただくことができれば…

「総合学科3年間の育成プラン」の作成

自分の教育者としての軸 × 総合学科の理念 × 生徒の特色

<主権者教育>

（自由で民主的な社会と立憲民主主義国家を担う資質の育成）

自分で主体的に判断し、行動できる個人であり、同時に他者と協働できる生徒の育成

<本校生徒の成長課題>

人のために行動できる優しさ
地元で貢献しようとする地域愛

○自己肯定感を高める

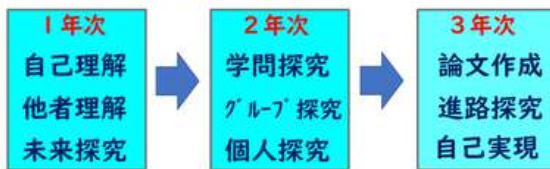
☆生徒の「友愛」と地元愛という特長を活かす活動

☆子どもの権利条約第12条「意見表明権」を生かした活動

○自分の意見を自分の言葉で伝える力の育成

○自分で考え、行動できる主体性の育成

総合学科3年間の目標



身につけたい力

- ①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力（ESD for 2030）
- ③多面的・総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する力 ⑥繋がりを尊重する態度 ⑦進んで参加する態度

産業社会と人間の目標は

6月下旬までは・・・

○履修計画を立てるために必要な知識や考え方を学ぶ

7月上旬からは・・・

○「働くことの意味」を地域で活躍する大人から学ぶ

○社会に必要なプレゼンテーション力や

コミュニケーション力などの力を身につける

☆夏季休業中に系列決定に繋がる体験活動も……

履修計画を軸とした流れ

5/10～ 社会人講師による講義（産社）

5/10「国際理解の捉え方」：植村氏（香川大学）（国際系列）

5/12「地域で働くこととは」：中村氏（流通系列）

5/17「共に生きる社会について」：平尾氏（福祉系列）

5/26「大学で学ぶこととは」：杉山氏（国際Ⅲ型：理系）

6/23～30 個人面談（履修計画）

7/ 3 履修計画提出締切（第1回）

9/ 1 履修計画提出締切（第2回 系列決定）

参考②「主権者とは」

日弁連の「あるべき主権者教育の推進を求める宣言」によると、主権者とは政治的権威の帰属主体を示す概念であり、有権者でない子どもたち等も主権者に含まれる。よって、教育基本法第14条第1項が子どもたちに学習を保障している「良識ある公民として必要な政治的教養」とは、政治制度や選挙制度についての知識にとどまらず、自由で民主的な社会と立憲民主主義国家を担う資質でなければならない。そして、そのような社会や国家を担うためには、多様な価値観を適切に調整するための判断基準となる法の原理原則を理解し、価値観の異なる他者との理性的な議論の技能を習得することが必要であり、さらには、これらの知識や技能を学校や地域社会等身近な生活の中で活用しようとする意欲や態度を身につけることも必要となろう。また、そのためには、自由闊達な意見表明や議論を可能とする学習環境の整備も不可欠である。

2023年度総合学科キャッチコピー

自分・ひと・地域のために輝け！ 総合学科

2023年度総合学科目標

国際感覚を身につけた地域のリーダー育成

本校総合学科の特色

自走する仕組み
実行委員体制の確立

- 1 1年後期から3系列で学ぶ
- 2 「産社」、「進探」の授業
- 3 様々な学習形態で学ぶ
- 4 単位制、自分の時間割りが持てる
- 5 少人数指導
- 6 進路ガイダンスの充実

興味関心の拡大
個性の伸長
生き方に結びつく
進路選択

主体的姿勢
が大切に！

年度当初の取り組み（産業社会と人間）

- 4/12 総合学科・「産業社会と人間」概要説明
- 4/14 系列紹介と系列説明
- 4/19 三木高校総合学科と系列の魅力+アイスブレイク
- 4/21 SDGsクイズ・「Society 5.0 for SDGs」
- 4/28 キャリア形成Ⅰ「SDGs～課題発見力～」 「SDGs～課題解決力～」
- 5/24 上級学校訪問

6/21・22 履修計画

・総合学科、履修計画、3系列の説明と質疑応答（産社）

6/23 履修ガイダンス

・3系列に分かれて履修計画作成（下書き）（産社）

社会人講師講演会



国際理解の捉え方（植村氏・尾上氏）

・私は今まで「この国は紛争が起きているから危険な人が多い」というように、勝手な印象で良い国が悪い国かと決めつけていました。しかし、実際に行ってみたいと分からない良さがあると考えることができました。また、英語を習うことに対して、深く考えずに勉強していましたが、世界の国々は助け合っており、日本だけでは成り立っていないことを知りました。もっと世界に興味を持って勉強しようと思いました。

・香川大学にも約22ヶ国から留学生が来ていることを知り、その多さに驚きました。同じ空間に、世界の人々が集まることが珍しいことではないと感じました。今は自分の隣の人から世界について知る環境があることに喜びを感じています。「国際」とは、言葉を学び理解することではなく、世界や社会に対して「何を話すかが大切である」ということが心に響きました。

大人はなぜ働くのか (アクセスモリタ 森田氏+香川県中小企業家同友会)



・森田さんの話の中で一番印象に残ったのは、誰かのために人と繋がりたいと思って働いていることです。私は、自分の趣味や遊びのために働くことが一番に思い浮かびました。私が大人になって社会に出たとき、一番に「誰かのため」と言えるように、将来何がしたいのか、どのように生きたいのかを今のうちにしっかりと考えたいと思いました。

理系で学ぶとは (香川大学農学部 杉山氏)

先生のお話の中で、「文系と理系という明確なカテゴリー分けはできないこと」や「工学部を除く理系の学部では、英語が非常に大切になること」また、「教科の成績ではなく、自分がやりたいことで進路を決定することの必



共生する社会とは

(三木町役場福祉介護課 主任社会福祉士 平尾氏)

「共生する社会」とは、すべての人がともに、当たり前に暮らせる社会ではないかと考えることができました。このような社会を実現することは、今のままでは難しいと思いますが、三木町での取り組みやノーマライゼーションの考えが世界で広がっていることを知り、少しずつ実現に近づいていくことを感じました。

◎先輩が繋ぐ授業へと発展

◎香川県中小企業家同友会の協力を得て、授業も充実



生徒も積極的に意見表明！

令和5年度「産業社会と人間」

2年「進探」実行委員が授業運営に参加

先輩からの総合学科説明会



アイスブレイキングによる仲間づくり



SDGsの学習 (先輩からのクイズ)



先輩による系列説明 積極的に質問をする！年次生



本を用いたSDGsの授業とワークショップ



SDGsの授業と各班の発表



社会人講師講演会 「国際理解について」

香川大学 植村先生





社会人講師講演会「あなたにとって大切なものは？」



社会人講師講演会「何のために僕は働くのか」
謝辞：参加企業から非常的に的を射た内容と高評価！



生徒によるKP法での「夢語り」

簡単な下書きを準備していても、頭の中で考えながら話すというプレゼン力が私には大きく欠けていることが分かりました。頭の中で素早く整理して伝えることは、プレゼンなどの前に受験や就活などで必要だと思うので、力をつけていきたいです。

人生を振り返る機会は滅多にないので、振り返ることができて良かったです。



自分の半生を振り返ると、意外と将来について考えられていたり、様々な経験があったりして、自分の人生に良い影響を与えているなと思いました。



KP法で、自分の夢について他の人の前で話をした。1回目は少し緊張したが、2回目は慣れてスムーズに話すことができて良かった。自分の過去を振り返ったことがあまりなかったの、自分を振り返る良い機会になった。小学生の時は看護師になりたいくて、中学校では英語関係の大学に進みたいと思っていたことに気づいた。今はやっぱり看護師になりたいと考えている。そのために、まず福祉系列に進もうと思っている。



社会人講師講演会ワークショップ 担任、社長さんたちも参加



教育実習生の「夢語り」



KP法による担任の先生方による「夢語り」



先生の「自分自身を好きでいる」という言葉が心に残った。KP法でプレゼンをするに何を書けばよいか分からず困っている友だちの話を聞き、夢を持つことは大切なんだと思った。
先生の「いちごになりたい」は私もなりたかったなと思いました。今は全く自分のこと好きじゃないけれど、この高校生活で少しでも前向きな考えを持てるようになって良いなと思いました。

履修計画（国際系列の全体説明）



〇流通系列で学んだ先輩方のお話を聞いて、やはり流通系列は面白そうだと思うと同時に、本当に流通で学んでいくのか改めて悩むようになった。僕はまだ行きたい大学・学部などが決まっておらず、一般的な道を考えているので、一般入試が可能な他の系列と悩んでいた。そこで、流通系列以外の選択肢として、福祉系列の先生に話を伺った。

履修計画（福祉系列の個別説明）



履修計画（流通系列の生徒説明）



〇自分の将来の可能性を狭めない選択のために必要な科目だったんだ決して無駄なことなんてないんだと考えられるようになりました。夏休みに瀬戸内サマープログラムに参加したり、しっかり勉強したりするとまた新しい道が見えてくると思うのでその都度自分の将来と向き合っていきたいです。

履修計画（担任の個別相談）



インタビューシップ準備開始！
（礼法指導・メールの送り方指導）



インタビューシップに繋がる授業風景 主体性を引き出す仕組み

インタビューシップ準備開始！
体験した先輩からの助言①



「ジョブシャドウイング」の体験



先輩の意見で大きく改善



- ・令和5年度：大人が生徒数参加
- ・令和6年度：同友会さんが協力



ジョブシャドウイングの練習・先輩の助言



同友会さんとジョブシャドウイングの練習

MIKI×()×Myself

◎発表準備…自分のテーマを発表しよう！



←B4サイズの
白い紙

大きく単語を書く！

インタビューシップに向けて出発！
自分の成長を胸に・・・決意を込めて



インタビューシップを体験して
経験交流



成果発表会 実行委員会結成



ポスター作製開始（本書き）



生徒の個性溢れるポスター作成

ポスター発表練習開始



原稿を読まずに、自分の言葉で伝えます！

実行委員会を中心に成果発表会の企画・立案・会場設営開始



みんなで話し合いながら…

パネルの配置を考えるため測量 職員の方との打合せ

令和4年10月5日

インタビューシップ成果発表会

成果発表会（全員が素敵なプレゼンを行い、大活躍！）



三木高校27期生 総合学科72名+6名 頑張りました！



令和4年度「進路探究」準備委員会結成
昼②会議13回実施（三高みんなの食堂訪問）



進化する2年次生「進路探究」

令和5年度は
地域の課題を発見し、探究する
探究のプロセスを発表する



「進路探究」実行委員会で論議しながら授業運営を考える



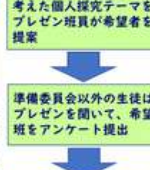
インタビューシップによる企業の変化



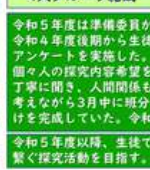
グループ探究の説明



準備委員会の生徒たちが考えた個人探究テーマをプレゼン班員が希望者を提案



4人グループ結成



準備委員会生徒のプレゼン



準備委員会生徒のプレゼン



グループで発表の準備



グループ探究発表の様子



グループ探究発表の様子



実行委員会によるグループ探究代表者との打合せ



総合学科3年間の学びを共有へ

各学年ごとの成果発表会



令和5年度から
総合学科成果発表会へ



令和4年度 1年次生インタビューシップ成果発表会





R5/10/22

1・2年成果発表会実行委員会を中心とした総合学科成果発表会の準備



R5/10/23

1・2年成果発表会実行委員会が総合学科成果発表会を企画・運営



1・2年全員で成功させた総合学科成果発表会



3学年代表者と香川県中小企業家同友会との交流会（生徒の成長を見たい）



個人探究スタート（トークフォークダンス）

R5/10/31



個人探究で先生方や仲間と会話しながら探究内容を深める



金沢大学から三木高校に学校訪問（探究の授業参観）

R6/3/5

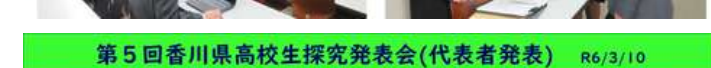


生徒が運営する授業参観



金沢大学から三木高校に学校訪問

R6/3/5



第5回香川県高校生探究発表会（代表者発表）

R6/3/10



令和5年度1・2年実行委員会

1年「進探」準備委員会は成果発表会後発足

2年「進探」実行委員会が
1年「進探」準備委員会をサポート（共育ち）
香川県中小企業家同友会がサポートに

香川県中小企業家同友会と協力した「共育型インターンシップ」の普及活動



高松商業高校への説明会

県内企業への説明兼
全国の同友会とのオンライン説明会

福岡同友会、北九州市立大学・高校、北九州市立教育委員会との交流



総合学科5世代交流会 with 同友会 R6/3/23

自走する3年次生「進路探究」

教師が生徒をサポートする授業



実行委員会が企画・運営する授業



総合学科5世代交流会 with 同友会 R6/3/23



3年「進探」実行委員会が企画・準備・運営を授業を実施



実行委員会が話し合いて代表者を決定・探究内容を全員で共有
司会・進行は実行委員会が順番に担当



実行委員会で班に分かれて準備・運営・討論を実施



共育型インターンシップ
を通しての変化

香川県立三木高等学校 3年 寒川紗矢さん

生徒の主体性は私達が作る！

香川県立三木高校 総合学科3年 中尾 中津

1年 主体性の練習！！

「産業社会と人間」スタート



インタビューシップ準備

インタビューシップ



ポスター・アピールシート作成



ポスター



アピールシート



1年 主体性の練習！！

成果発表会

進路探究準備委員会

テーマ・グループ決め
授業運営の計画作成



2年 主体性の実現！！

進路探究「グループ探究」

レジュメ・スライド作成

高松商業高校との交流①

成果発表会



成果発表会

トークフォークダンス

進路探究「個人探究」

北九州市立高校との交流

高松商業高校との交流②

愛媛大学付属高校との交流



+α 生徒が企画！運営！

トークフォークダンス

5世代交流会with同友会

・大人と1対1で話す
・視野を広げる
・話を展開していく

・「縦」の繋がりを作る
・5年間の振り返り
・次へ繋げるために

3年 主体性をさらに向上！

進路探究「個人探究」

5世代交流会with同友会

論文・スライド作成

個人探究発表会

次の1・2年生に繋げる！



+α 実行委員はもっとすごい！

成果発表会

企画や
会場との打ち合わせ

当日の運営

生徒だけで完成させた
成果発表会に！

実行委員会運営

外部への
プレゼンテーション

他校との交流の運営

「総合的な探究の時間」の
授業運営

現在の教育について私が考えること

～個人探究を通して～



中尾という人間について

たくさんの人と
話すこと

最後まで
やり遂げること

新しく何かを
すること

たくさんの方の
価値観を知ること

疑問に思ったことは
とことん追究

部活動の在り方

ソフトボール部(1年次)⇒ソフトボール同好会(2年次)⇒廃部

教員:新入生募集★
先輩:全然welcome◎

教員と生徒間での
認識の違い

2年間試合に出ていない
⇒成り立っていない

人数が揃っていない
(9人◎⇒5人★)

生徒総会の拍手によって
最終決定(同好会に)

同好会の活動期間は1年
(週3日、5人で活動)

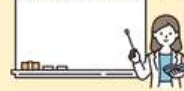
廃部決定を伝えられる
(春休みの職員会議で決定)
新入生は募集しない!

生徒総会で廃部の報告

前回の振り返り(去年の夏:教育のつどいin東京)

生徒たちで授業を作り上げていく!

(授業計画:生徒で演習スピードを考える、授業スタイル:グループワーク)



教師と生徒で一緒に授業を作り上げる!

(授業計画:教師と相談しながら、授業スタイル:グループワーク+教師の説明)

個人探究への発展

○探究テーマ【授業環境の改善】

- ・授業運営について...
生徒の主体性を上げる授業とは
生徒が求める授業とは
- ・授業アンケートの必要性...



*詳しくはお配りした論文をお読みくださいm(_ _)m

主権者教育

生徒参加型の授業

グループワーク

生徒同士の話し合い

質問し易い雰囲気

授業スタイルの決定



×他人事ではなく

◎自分事として

良い授業の定義

【生徒の学び方に合った授業】
常に新しく変化していく必要がある



生徒と教師が信頼関係を築き支え合える環境づくり
コミュニケーションをとることが大切

理想の教師像

変わり続ける
学び続ける
生徒を信じる
柔軟な適応能力

信じてくれる

挑戦する

自信がつく

信頼関係ができる

次に繋がる

失敗しても
成功しても

褒めの手

個人探究への発展

○探究テーマ【授業環境の改善】

- ・授業運営について...
生徒の主体性を上げる授業とは
生徒が求める授業とは
- ・授業アンケートの必要性...



*詳しくはお配りした論文をお読みくださいm(_ _)m

誘拐結婚をご存知ですか?

文化と人権の共存とODA
～キルギスの誘拐結婚から考える～

人権を尊重する

対立

文化を尊重すべき

選択の自由がない
心身に影響
文化は何のためにある?

文化の保護を優先
第三者から言われても
余計なお世話

Ана
Качуу



「誘拐結婚」を問題として捉えていいのか



ODAでどのように
「誘拐結婚」にかかればいいのか



資料や文献が
圧倒的に少ない！
古い！

そもそもODAが
行われていない

どうしょー



インタビューしてみよう！



そうだ！



他にも...

- ✦ 直接インタビューしに行ったり
- ✦ 大学の教授に論文を見てもらったり
- ✦ 課題解決のために活動したり

自分の探究をさらに深めたいと
自主的に動く生徒が多数！



自分の進路に向けて



自分のしたいことってなんだろう



高校入学前
英語を使う仕事に
就きたい

インタビューシップ
お金のためだけではない
「働く理由」
☞ 職場が居場所になる

委員会活動
グループ探究
学校に来る理由
☞ 学校が居場所
になる



進路探究(個人探究)

国際協力のあり方、ジェンダー平等
☞ 自分が思っていた以上に社会での
居場所が少ない人が多い

人々の居場所づくりに貢献したい！



これからの三木高校総合学科

生徒の主体性を第一に

- ☞ 1・2年生に繋げていく！
- ☞ 他校・他県の同友会に広げる！



ご清聴ありがとうございました



【第1分科会 発表2 質疑応答】

Q：愛媛県立東温高校

本日は参考になるご発表誠にありがとうございました。私たちが勤務している東温高校も令和8年度から商業科と普通科が改変されて、総合学科となります。そして昨年度からになるんですが、中小企業同友会さんの方から、香川県の三木高校さんがインタビューをやっているということもあり、東温高校自体、本校の卒業生ほとんどの生徒が東温市、またその周辺にある松山市などに就職しています。その関係もあり、東温高校でインタビューをやってみないか、というふうなお話をいただき、昨年度から実施いたしました。そこで質問がたくさんあるんですが、まず一つ目が、生徒のインタビューの訪問先の決定方法というのは、どのようにされているのかというのがまず一つです。そして、二つ目が先ほど1人一企業というふうなことがあったのですが、生徒の人数分企業があるのかということ。そして、インタビューに対する参加企業というのはどれぐらいの範囲、学校から離れているのかとか、発表会にほとんどの企業が来てくださるとおっしゃっていたんですが、実は本校も9月19日にインタビューを実施いたしまして、11月21日に報告会を実施いたします。今参加募集しているところなんですが、本校残念ながら半分ぐらいしか実は報告会に来てくれないんですけど、どのような案内をされたら、インタビューに参加してくださった企業の方々が来てくれるのかなというアイデアがあれば教えていただきたいと思います。以上よろしくお願いいたします。



訪問先に関しては、基本的には担任が決めます。自宅の近くが基本です。地元の企業を知ろうということですので、「生徒がここに行きたい」という基準では決めていません。ただし、本人の進路が明確で、担任がそれを把握している場合は、入れ替えはします。基本的には家の近くという形で決めています。

A：発表者

人数分の訪問企業があるのかという質問ですが、1年目は突然に企画を提案したので、51社の参加でした。本校の生徒は74人程度いるのですが、一つの企業に日にちを変えて2人が参加するようにしました。2年目になると、生徒数に対して3企業ほど足りない状況になり、現在は生徒数分を集めてくれています。現在は県内の複数校でこの実践が行われていますが、本校が県内で最初にこの取り組みを行いましたので、本校から訪問企業を選んでくださっています。逆に言えば、しっかりとした企業を選んでくれるようになっていきます。もう一つは、三木高校に期待して今から伸び盛りの訪問企業を持ってきました。

成果発表会のことですが、最初はほとんどの企業が成果発表会に来てくださって驚いていました。本校も「産業社会と人間」で事前準備には相当な時間をかけています。同友会の担当の方とはお互いに問題点を指摘し合い対等な関係を築いています。今は同友会さんから「インタビューに参加するなら成果発表会には必ず参加してください」という状態を作っています。例年4、5社の企業が参加できないのですが、今年度は残念ながら70のうち10社来ていない状況です。社員1名の企業であれば、多忙で参加できないのは理解できます。しかし、それは事前に説明しておくのが大人の世界だと私は思っています。成果発表会に参加せず、対応が悪い訪問企業を私は「切ってください」と言います。高校生の訪問をきっかけに経営状況を改善している企業もあります。生徒だけが一方的に学ばせていただいている企画はありません。まさに共育型インターンシップというのであれば、成長するためには、お互いに課題を遠慮することなくぶつけ、より良いものにする必要があると思います。特に総合学科は普通科と違って、しっかりと授業の中に準備時間を組み込みますよね。だからそこは絶対対等な関係を築けるようにこちらも努力します。生徒が「これ職場体験ではないですか？」と言ってきた訪問企業に関しては、直接電話を入れて、事実確認ができれば、同友会に「来年は切ってください」と言えるようになりました。

Q：山口県立光高校

今日は大変学びの多い発表ありがとうございました。2つほど質問したいことがございまして、御校が文理科と総合学科が併設されてるという理解でよろしいでしょうか？

そうすると、三木高校さんで教員の配置というのは、例えばある年に文理にいた方が、翌年に総合学科に来るというようなこともあり得る、その逆もあると。実は本校がちょっと似たような状況を抱えていまして、普通科と総合学科が併置されているんですね。あんまりちょっとおおっぴらには言えないんですが、総合学科の実態があまり理解がされていなくて、先生方の中ですね、そういった現状があって、その校内の人事の調整なども含めて、どのように折り合いをつけてらっしゃるのか、その何か苦労話でも聞けたらなというのが一つ。

あと、外部資源をこれだけ利用されるというところで、また文理の方からクレームがつかないこと、なぜ総合学科ばかりっていうんですね、どう言ったらいいんでしょうね。中で足の引っ張り合いのような、そういう意見が出たりするようなものがあるのか、すいません、今後の参考のためにぜひ聞かせていただきたいんです。ちょっとネガティブな内容が多少含まれているんですが、可能な範囲でお答えしていただければと思います。

A：発表者

よろしくお願いします。まさに本校が抱える問題と一緒にです。苦労はしています。1年目は文理科と総合学科は偏差値的に比較されると、総合学科の評価が非常に低く、総合学科の生徒の自己肯定感を高めるために、魅力化を目的に外部とつながる仕組みを入れました。まず進路指導の先生から、「そんな産社みたいなものをやって学力付くのか」と言われました。しかし、自分を信じてやるしかなかったので、頑張って3年間の育成プランを実践しました。しかし、ある機会をきっかけに、流れが変わる機会があったのです。進路指導主事が変わり、私が総合学科を持つ前後の進路実績の変化を評価してくださいました。全く生徒の進路先を気にせずにはやってきましたが、それを進路指導主事が職員会議で言ってくれたのです。そしたら一気に雰囲気が一変し、文理科と総合学科の力関係が逆転したと感ずることがあります。しかし、一般的に外部の人が見るのは文理科の成績が上、総合学科が下になっています。今は中学校のトップレベルの生徒も総合学科に入ってくるようになりました。魅力化が形になってきています。その苦労は活動が教職員に認められるまでがしんどかったです。プロジェクト型の授業で行ってきたので、一緒に企画を進めてきた先生方がすごく成長しています。成長したら文理科に変わるので、常に総合学科を理解していない先生との対応で厳しかったのですが、文理科で総合学科の発想を用いて授業をしてくれています。最近、文理総合上手に繋げるにはどうすべきかを考えています。

もう一つの質問の外部資源を活用した活動に関するものですが、生徒の希望をもとに、総合学科の魅力化の一環として一から関係を築いてきました。しかし、校長から三木高全体で考えて欲しいと言われ、文理科の生徒も含める形で、ボランティア活動を広げるようにしてきました。総合学科独自の魅力として、絶対譲れないものはあるので、そこは文理科を切り離そうと意識してきました。今は文理科、総合学科関係なく引き受けてきたので、「なぜ文理科だけ」という声が出ませんし、出ないように意識しています。そこは、すごく気を遣っています。私も普通教科を担当しており、両学科で授業を行っているので気を遣います。まさに、気を遣いながらしんどいと思うところです。

【第1分科会 指導・助言】

岩手県立岩谷堂高等学校

校長 山影 稔男

ご発表いただきました丸子修学館高等学校の中野先生、三木高等学校の廣林先生、本日はありがとうございました。

この第1分科会は、「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」ということで、総合学科の屋台骨に関わる発表であり、そしてお二人からいただいた発表はどちらも今回のテーマ「新時代に向け新たな価値を創造する総合学科」にかなった発表だったと思います。そしてこの会が高知県で行われていたということで、坂本龍馬の言葉にあります、「日本を今一度洗濯いたし申候」という言葉を思い出しました。本当にお二人が龍馬のようにそれぞれの総合学科を新しく切り開こうと活動した姿にすごく感銘を受けました。私もまだまだ勉強不足でございますので、指導・助言ということですが、お二人の先生方の発表をまとめさせていただいて、指導・助言に代えさせていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

初めに、丸子修学館高等学校の中野先生でございます。先生の発表に一番感動したことは、大変なご苦労があったにもかかわらず、楽しくお話しているということです。廣林先生もそうなんですけども、お二人とも40分では説明しきれないぐらいのことを粉骨砕身やってこれたことに、本当に感謝してるところでございます。丸子修学館高校では人間力の向上を目指して、生徒の伸び、自分らしい生き方を高めるために、色々な取り組みをなされていらっしゃいました。1年次生の「産業社会と人間」の中では、アドバイザーリストとエンゲージメントカードを活用して、職員と生徒の関係性、そして自分を理解するということを進めてらっしゃる。そしてこれらの活動の中には、先生方の学びが含まれているというお話がございました。令和4年12月の中教審答申で、『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等のあり方』というのが提示されました。この中では新たな教師の学びの姿として、「変化を前向きに受け止めて、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという主体的な姿勢」「求められる知識技能が変わっていくことを意識した継続的な学び」「新たな領域の専門性を身につけるなど、強みを伸ばすため、1人1人の教師に個性に即した個別最適な学び」「他者との対話や振り返りの機会を確保した協働的な学び」が挙げられております。そして、我々教員が生徒の学びのロールモデルとして期待されています。丸子修学館高校の活動が、まさにこの先生方の学びに繋がっていると思いました。私も学校に戻って生徒だけではなく教員と一緒に学ぶという姿を先生方にも伝えていければと思っております。そしてこのOJTが他の学校にもどんどん広がっていけばいいなと思っております。「探究基礎」「総合研究」についても、メリット・デメリットを検証なさっており、次世代へという形で進められているという話がございました。また、中野先生にご紹介いただきました実教出版の教科書でございますが、東北大会の発表でも、秋田県立西目高校からこれを使った発表がございました。1年次生の「産業社会と人間」において実教出版と西目高校が一緒に年間計画指導計画を作ることによって、先生方が同じ目線で活動できるようになっているという報告がございました。実教出版のホームページを開きますと、ワークシート、観察シート、観点別の評価、ルーブリック評価等のファイルがございます。一度覗いていただくと、学校独自で行う研修の部分と、それ以外の教科書を使って進めていく部分が上手に併用できるのではないかなという発表がありましたので、ご報告させていただければと思っております。それからですね、M-projectを使いました課題解決型の活動をなさっているということで、どうしても調べ学習で終わってしまうところを、課題解決という視点を置いてどんどん生徒を促していくという部分も参考になりました。本当にありがとうございました。

続きまして、三木高校の廣林先生でございます。修学館高校とも関連しますが、昨年の5月に新たな教育振興基本計画が閣議決定されております。その中でコンセプトとしまして、一つ目が、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」、それからもう一つが「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」というのがあります。その後に三つの方針、それから16の教育政策の目標がございます。この目標の中の一つが、主体的に社会の形成に参画する態度の育成、批判意識の醸成でして、



子どもの意見表明や主権者教育の推進、ESDの推進というのが挙げられております。今回、三木高校の発表ではまさにこの主体的な主権者教育の推進に関わる部分を実践されていらっしゃるということで、これから我々が進めていく基本計画の中の一つの指針になると思っております。進学タイプの総合学科ということで、実業高校タイプとは異なる総合学科として「産業社会と人間」を進める方法として、育成プランと方向性を定めてそれに生徒を乗せていく。そしてやがて生徒が自走していくという流れに感銘を受けました。そして思い出しましたのが「啐啄」という言葉でございます。伴走とかファシリテーターという言葉がある中で、私も教員になりたてのころある講演会で「啐啄」という言葉を知りました。これは師が、弟子がまさに学ぼうとする瞬間に過たず教えを与えることを「啐啄」と言うそうです。鳥の雛が殻からかえるときに、コンコンとつつく。それを親が見ていて、外からつついてあげて殻を破ってあげるんだそうです。これが早くても遅くても雛はかえらない。この例えから「啐啄」という言葉があって、師弟の関係はそういうものであるという言葉があるんです。本当に廣林先生の実践はその「啐啄」というのがまさにふさわしいのではないかなと思います。先生のご活躍によって、生徒が自走する世界まで到達し、これがさらに生徒同士の繋がりになって、生徒が自分の学校を作っていく。発表のはじめに先生がおっしゃった「生徒の主体性を私が作る」との想いが生徒に伝わり生徒が育っていらっしゃることに強く感動を覚えました。そして我々も実践となると難しい部分でございますが、同友会との繋がり等々、本当はいろいろ苦労話が入ると思うんですけども、繋がっていったら多分あとは生徒の動きを見て、同友会の関係者さんも意気を感じてくれて、一緒に動いてくれているのだと思っております。そういう繋がりを先生方がやってのけたことは本当にすごいことだなと感じております。今回、先生が発表されたプロジェクト型の取り組みは、進学校タイプの学校には学ぶべきことがたくさんあったと感じます。そして最後の質問にありました通り、「文理」と「総合」の部分の繋がり、それがさらに発展していただけると本当に素晴らしい学校になれるのかなと思っております。

始めの話に戻りますが、本当に龍馬のような活躍をなさる両先生方の発表を我々はぜひ参考にさせていただければというふうに思っております。そして今お話ししました新たな教育振興計画において、「ウェルビーイング」という言葉があがっております。身体的・精神的・社会的に良い状態という趣旨になりますが、総合学科の高校で行われております特色ある教育課程や「産業社会と人間」、それから総合的な探究の時間、地域との連携、協働による学び、これらがどちらの学校でも実践されています。これらの取り組みは今後の教育政策に合致したもので、生徒が幸福や生きがいを感じられる学び、これを保護者や地域の方々と作っていき、実践することで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが生徒や地域を支え、社会全体のウェルビーイングが向上する。この広がりを担う学びが総合学科の学びだというふうに思っております。今後教育改革が進む中、総合学科の取り組みがますます注目を集めるものと考えます。総合学科の一層の発展を祈念いたしまして、簡単ではありますが、指導・助言とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

第2分科会 「教育課程編成及び展開上の諸課題について」

【発表1】 茨城県立高萩清松高等学校 教諭 揚石 俊志

「『教育課程編成における課題、及び、総合学科におけるタイムスケジュール』

【発表2】 宮城県立本庄高等学校 主観教諭 松浦 啓一郎

「Honjo 学実践を通して」

【指導・助言】 東京都立杉並総合高等学校 校長 藤本 晋哉

課題

(3) 環境整備について

○総合学科＝多くの教室利用する

○電子黒板、Wi-fi環境、空調設備の準備



課題

(4) 時間割の作成について

○時間割作成上の難題

○時間割作成方法



課題への取り組み

(1) 教育課程の見直し

(2) 系列の見直し

(3) 系列選択

(4) 学習環境の整備



令和7年度の教育課程

自由A	自由B
【進學向け】 古典文学①○ （日）	【進学向け】 古典文学①○ （日）
地学基礎② （日）	数学A （標準，数I準 標準）
物理基礎③ （日）	*地学基礎探究 *物理探究活動
調理・表現④ （日）	*化学・生物実習 *理科探究
*英語探究実 習①	*英語表現 国際探究（人文 ・社会）
○国語表現 （人）○	*近代教育音楽 ②（人）○
音楽③	*手話
美術③	*美術
情報表現④（漢 字外）	*器土探究
*自然活動	



茨城県立西高等学校の教育課程表										令和7年度入学予定									
学年		学期		科目		単位数		履修単位数		履修単位数		履修単位数		履修単位数		履修単位数			
学年	学期	科目	単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数	履修単位数		
1年	1	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	2	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	3	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	4	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	5	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	6	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
2年	1	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	2	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	3	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	4	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	5	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	6	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
3年	1	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	2	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	3	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	4	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	5	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		
	6	国語	2	英語	2	数学	2	理科	2	社会	2	体育	2	音楽	2	美術	2		



系列學習

～系列を知り、「ミスマッチ」を防ぐ～

系列學習

④系列選択

就業体験学習 実施目的



a. 系列や職業を選択するにあたり、職業人の話を聴き、職業を体験することにより、社会人として必要な資質やマナー、就業にあたっての知識を身に付ける。

b. 仕事の体験・見学・清掃等の活動を通して、

- ①働くことの大変さを知らせる。
- ②働いている大人たちの喜びを知らせる。
- ③働いている大人たちの偉大さ、頑張る姿を見せる。
- ④大人たちが根気強く、我慢強く働く様子を見せる。

ことを理解する。

本校のこれから



ご清聴ありがとうございました。

総合学科ニ自分らしく学ぶスタイル



【第2分科会 発表1 質疑応答】

質疑応答については、個人情報等を含むため、発表者の意向を尊重し、割愛させていただきます。
ご了承ください。



令和6年度第29回全国高等学校 総合学科教育研究大会高知大会 第2分科会

「教育課程編成及び展開上の諸課題について」

「Honjo学実践を通して」

宮崎県立本庄高等学校

令和6年11月1日(金)
会場:高知県民文化ホール



本庄高校紹介

<校訓>



学校紹介



学校紹介

本庄高校スクールミッション

- 東諸県郡唯一の高校として歴史と伝統を継承しながら、総合学科の理念に基づいた魅力ある学校づくりを通して、**地域に貢献できる人材の育成**を目指す学校
- コミュニティ・スクールとして地域資源を学びに取り入れ、体験的な教育活動を推進するとともにICT機器を積極的に活用することで、**これからの社会や地域で求められる資質・能力の育成**を目指す学校
- 総合学科の特色を活かした教育実践により、生徒の多様なニーズを複数の系列で受け止めるとともに、基本的生活習慣を確立し学力の定着を図ることで**生徒の望む進路実現**を目指す学校

学校紹介

生徒在籍数(令和6年5月1日)

1年次				2年次				3年次			
HR	男	女	計	HR	男	女	計	HR	男	女	計
11	14	10	24	21	15	10	25	31	21	7	28
12	15	9	24	22	14	10	24	32	16	5	21
13	14	10	24	23	15	11	26	33	13	14	27
14	14	10	24	24	14	11	25	34	3	11	14
計	57	39	96	計	58	42	100	計	53	37	90

○定員120名

○3クラス→4クラス運用

男子 168名
女子 118名
合計 286名

現在の教育課程編成 に至る背景

現在の教育課程編成に至るまでの背景

本庄高校編

①宮崎県立高等学校教育整備計画
平成25年度

②総合学科

危機感

背景：危機感①

※ 総合学科を設置している、本庄高校については、定員の充足状況等を注視しながら、地域・中学校との連携の推進や、系列の見直し等、今後の魅力づくりについて検討していく。

○当時は4クラス160名定員

○新しい本庄高校を創出する必要性

背景：危機感①

「宮崎県立高等学校教育整備計画」
(基本計画)より抜粋

■基本的な考え方

(2)適正規模への対応

②1学年4学級以下の高等学校については大幅に定員を満たさない状況が続くなど、更に1学級の削減をせざるを得ないことが予測される場合には、統廃合等を検討する。

背景：危機感①

生徒数の推移

	1年次	2年次	3年次	計
H26	132	132	130	394
H27	94	109	127	330
H28	119	89	99	307
H29	99	107	85	291
H30	108	97	100	305
H31(R1)	96	100	89	285

定員160名 未充足

背景：危機感①

要望書の内容

(1)本庄高等学校の存続

(2)1学年4学級の維持

平成29年4月12日

本庄高等学校魅力化推進協議会

会長(国富町長)中別府 尚文

副会長(宮崎市長)戸 敷 正

副会長(綾町長)前 田 穰

知事に要望書の提出



要望書の内容

- (1) コミュニティ・スクールの指定
- (2) 学校改革実現における人的配置及び財政支援

平成29年12月

本庄高等学校魅力化推進協議会

会長(国富町長)中別府 尚文

副会長(宮崎市長)戸 敷 正

副会長(綾町長)前 田 穰

県教育長へ提案書の提出

平成30年6月26日

- ◆ 1 校名の変更
- ◆ 2 コミュニティ・スクールの導入
- ◆ 3 系列名及び学習内容の変更
- ◆ 4 制服等の変更

県教育長へ提案書の提出

- ◆ ~~1 校名の変更~~
- ◆ 2 コミュニティ・スクールの導入
- ◆ 3 系列名及び学習内容の変更
- ◆ 4 制服等の変更

学校のイメージを払拭する
思い切った学校改革が



必要

現状維持は後退

変わらなければ
生き残れない

令和元年7月 県教委から回答



県立高全日制定員7400人
本庄高総合学科40人減
来年度

令和元年7月23日 宮崎日日新聞 掲載



令和2年度から
新生 本庄高校に



系列名称変更

アカデミックフロンティア系列 普通科

フードビジネス系列 農業科

ビジネスイノベーション系列 商業科

ライフデザイン系列 家庭科

国富町が全面協力（全国先駆け）

くにとみ寮

全国を目指す

部活動生のための学生寮

現在26名
在寮

- ・改修費用3,000万負担
- ・毎月補助金25,000円
- ・町民も生活中

現在の教育課程編成に至るまでの背景

本庄高校編

- ①宮崎県立高等学校教育整備計画
平成25年度～平成34年度（10年間）

②総合学科の未来

背景：危機感②

生徒数の推移

	1年次	2年次	3年次	計
H26	132	132	130	394
H27	94	109	127	330
H28	119	89	99	307
H29	99	107	85	291
H30	108	97	100	305
H31(R1)	96	100	89	285

進路変更者 多数

背景：危機感②

- 進路変更する生徒
- 愛校心・誇りが希薄な生徒

充実した日々を
過ごしているか

卒業だけを
目指していないか

幸せな将来に
導けているか

本庄高校の学びを見直す必要性

本庄高校独自の 「Honjo学」

「幸せな未来」に向かって、
前進できる高校生活を提供したい

第1志望を
諦めない

合格に向け
成長できる

個別の
学習を支援

【第2分科会 発表2 質疑応答】

Q：岡山県立鴨方高校

(1)専門学校の先生方をお呼びしてっていう講座とか、外部の方への予算的なものってどうなっているのでしょうか。本校もそういう形で入れたいと思ってるんですが、どういう予算がついてくるのか、それとも無償なのでしょうか。

(2)寮を町が協力してくれるということですが、舎監的なもの、私も前任校で寮を作って全国募集に使ったんですけど、舎監の問題で結構教員の負担だとか、もう町が完全に舎監してくれるっていうふうに行ったりもしたんですが、どうされているのか。

(3)「Honjo学」の認定ってどうなっているのかなと気になっていて、大抵の子が単位認定されるんだろうとは思っているんですけど、そのあたりのことをお聞かせください。



A：発表者

(1)まずは専門学校の先生をお呼びする、外部の方を入れた時、その料金がどうなっているのかというところですけども、ご厚意に甘えているところが多いので無償です。ただ、担当の職員が関わっていくことになるんですけども、例えばお昼ご飯を一緒に食べて提供しているとか、お弁当の用意とか、そういったもの。これいいのかわからないですけども、その担当の先生の負担になっているところが、もちろん毎回じゃないんですけども。はい、そういった形でご厚意に甘えているといったところで。

(2)寮の舎監というところですが、実は去年までは、本校の職員が舎監としてその寮に住んでおりました。別室ですけども、当然。そこに住んでやっておったんですけども、やはり負担が相当かかる。勤務状況を考えた時に、やっぱり月の残業時間が100時間を優に超える、200を超えた時もあるって言ってたぐらいなんで、かなりの時間やっぱり奪われます。なので、その負担を軽減するというか、もうなくさない駄目だねっていう議論が今年起こりました。で、どうなったかというと、朝の点呼と夜の点呼、そこにはうちの職員が行きますよと。そこである一室に集めて確認をします。で、もう寮には泊まらないないようにしましょう。一応泊まれるような状況にはなっているんですけども、毎日泊まることはもうなくなりました。ほとんど今はもう泊まってないと思います。その代わり、その住宅に住んでらっしゃる地域の方でサポートして下さる方が2名いて、やってもらってますので、その方々に何かあった時はもうお願いしますっていう、そこはまたご厚意に甘えてる部分があるかと思うんですが、そういう形で運営をしておるところです。

(3)単位認定に関することですけども、ほとんどの生徒がというか全員がですね、もう認定しております。で、終礼をなくしたことで、やっぱり懸念してたのが、帰る生徒が出てくるのではないかっていうことが一番懸念していたところなんですけども、去年1年間、それから今年の半年間やってますけれども、もう皆無です。そこはみんなしっかり最後までやってきてるので、まずはしっかりその時間を受けることができている。私たちのやっぱり思いとして、教員の思いとしては進路実現を考えた時、やっぱり少しでもいい評定をあげたいっていうところはあると思いますので、なるべくゆるくやりましょうねっていうのはお願いしてます。その間にいろんな働きかけをして充実した時間にするようお願いしてますっていうことを先生方をお願いをして、みんなを認めていく方向で、まずは考えている、やっていっているところですので、認定に関してはそういう形です。

Q :

ありがとうございます。ちなみに岡山県は、寮のことですけど、県が建てている寮であれば、県の職員ということで、教職員が輪番で泊まるようにしてます。前任は和気閑谷高校というところなんですけど、それは町で建ててくれることになって、町の職員が泊まるような形でってお願いして、それは可能になりました。

A :

そうなんですか？ありがとうございます。また、町に働きかけていきたいと思います。

Q : (司会者)

先ほどの、講座の教員の割り振りは、どうやって決められているんですか。なかなか希望もあったり難しいところだと思うんですが。

A :

担当職員に関しましては、まずはその専門の先生。そこに入ってもらうべき先生がいますので、そこからまず決めてます。例えば、スポーツ講座であれば、先ほどお示ししましたが、5つの強化指定部の顧問がいますので、その先生方にまず入ってもらっています。そこがまず決まります。それから資格取得講座。こちらは系列の先生方がメインになってくるので、3系列の先生方の中で、人数は少し、若干調整はあるんですけども、系列の先生方に入ってもらう。あとは公務員のところで担当をしてもらっている先生も、継続してやってもらってますので、4名の先生をまず入れる。残ったところを分けているという形で考えていってます。で当然ですね、どの講座もやっぱり人が欲しいってことがあります。先ほどもお伝えしましたが、やっぱり3時間ずっと張り付きになってしまいますし、これも年次ごとの活動になってしまう。例えば4年生大学講座だと、職員6名なんですけれども、年次別の活動になると、3つのクラスが必要なわけですね。1年生で必要、2年生で必要、3年生で必要、そこにこの6名が分かれていくということは、1つの講座を2名で担当しているということです。例えばその2人ともですね、例えば出張なんていうところが入ってくると、じゃ、他の年次の先生また入ってください、そういったことになりますので、そこも課題としてあるところなんですけど、答えになるでしょうか。

【第2分科会 指導・助言】

東京都立杉並総合高等学校

校長 藤本 晋哉

揚石先生、松浦先生、日頃の取り組みをご報告、ご発表ありがとうございました。校務で毎日毎日ご多用だと思っんですけれども、その中で時間を割いていただいて、ご準備いただいて、こうして発表していただいて、どうもありがとうございました。講評なんてちょっと偉そうなこと言いませんので、京都府立南丹高等学校さんからのご提案がありましたけれども、私が何か話すよりは、ここでいろんな学校の取り組みの工夫ですとか、悩みごとですとか、そういったものを共有した方が、全然実りあるものになると思いますので、先ほどありました点も含めて、皆さんからいろいろご発言いただいたり、あと、揚石先生と松浦先生にもお聞きしたり、お教えいただいたりして進めていきたいと思っています。よろしくお願いします。



私からまずお2人に一個ずつ質問していいですか。お教えいただきたいことがあるんですが、揚石先生にいただいた学校案内の、ロゴマークっていうのかな、学校の、花びらが6つあって、多分これは系列の数を示しているんじゃないかなと思うんですけど、スライドでは花びらが5つになっていたんですけど、これはもう系列を見直す前提になっているのかしら。

(揚石先生)：

はい、この風車の入り口後方のところにある風力発電の羽根と、系列の数とは分けていたんですけども、そうですね。出だしとだんだん系列の数が変わってく感じになります。

(助言者)：

じゃあどの系列がなくなっちゃったりするんですか？

(揚石先生)：

今、5系列に、5枚の羽根になってると思うんですけど、今後は6になるって感じです。

(助言者)：

これから6に増える。

(揚石先生)：

はい、家政と福祉を別々の系列扱いにするっていうところで6になります。

(助言者)：

なるほど分かりました。系列が少し変わるんですね。あとは松浦先生、今回の発表の中心である「Honjo学」と、系列っていうのはリンクしているんですか。

(松浦先生)：

ありがとうございます。一部はリンクしているところがあります。それはどこかと申しますと、資格取得講座、こちらの方がですね、系列の学びを中心とした講座になりますので、そこがリンクしているというところです。他系列の生徒も、例えば商業の系列の生徒が、農業の資格試験受けたいんじゃないって、そこもできるようにしたいなという思いはあるんですが、なかなかそこが難しくてですね。今の

ところは例えば農業の生徒は、農業系の講座については、農業の生徒しか選択できないという形になっています。

(助言者)：

ありがとうございます。ちょっと少し教育課程と絡んできちゃうんですけども、「Honjo学」とは別に、「産業社会と人間」とか、「総合的な探究の時間」も置かれてるっていう感じでいいですか。

(松浦先生)：

はい、その通りです。

(助言者)：

じゃあ別々なんですね。

(松浦先生)：

別ですね。

(助言者)：

わかりました。系列も含めまして、教育課程に関わったり、人材確保の課題っていうか、そういうのに関わったり、ちょっといろいろになっちゃうと思うんですけども、先ほどありましたけれども、系列の縛りと言っちゃっていいのかな、系列をすごく大事に考えてるっていうか、ありきの学校もあれば、そうじゃない学校も多分あると思うんで。総合学科ってのはもともと系列掲げてスタートなので、ある意味総合学科の命と言ってもおかしくはないんだけど、じゃあそれをどう考えてるかってのがいろいろで、要は生徒がこの学校に来てよかったなと思って、できれば自分の自己実現を果たせて、少なくとも目指せて、その上で系列がうまく生きてればいいのかなと思うんですが。ちなみに東京都は系列がすごく弱いです。松浦先生にお聞きしたんですけど、これだけ「Honjo学」というのを頑張ってるっていうことは、逆に系列の縛りとかあんまり考えてないのかなって思っていたんですけども、先ほどお聞きしたら、やっぱり縛りっていうか、系列をすごく大事に考えていて、系列で生徒がまず、自分で選択する科目を決めているのかなというふうになってるってことをおっしゃってたんですが、ここでも皆さんの学校の取り組みの工夫ですとか、やり方とか、その組織っていうか、そういうのを推進する中心の方々っていうか、分掌っていうか、プロジェクトチームや委員会か、というと微妙ですけども、そういうのも含めまして、私にも、お2人にもいろいろこうお教えいただけると、すごくありがたいんですけども、いかがでしょう？系列については結構大事に考えてるよとか。正直そんなに重くは考えてないよとか。あるいはそのこういった風に活かすかどうか。皆さんの中で何かご意見ってありましたらお願いします。アドバイスお願いします。

(参加者1)：

私、本校に来て今3年目で、今年度で役職定年で来年からどこかで授業するんですけど、実は20年前に鹿児島県は再編整備で総合学科が全部で5つできてます。私立鹿児島実業さんが1つ、鹿児島県で6つの総合学科を有しています。3年前に総合学科のある学校に管理職として来た時に、実はその20年前、立ち上げの時に総合学校の勉強をした際にですね、この系列の話と縛りの話がずっと僕の頭には残ってまして、本校に来た時にまずびっくりしたのは、系列がもうコースとしか思えない。3つ系列があるんですけども、もうコースの扱いで、先生も生徒も1年生から2年生に上がるときに、科目の選択であって、もう系列選択をすれば、もう卒業まで勉強する学習内容は決まってるという、そのスライドにとっても違和感があってですね。一生懸命、教育課程の見直しとそれから教育課程の表記の方法を、係にお願いをして、この2年、今度の12月ぐらいまでに県内の発表で提示できるかなっていうところまで来てるんですけども、まず、自由選択を、今まで横を見て、系列ごとにしていたものを取っ払って、一覧表にして表示する。ただ、一番進路指導で危惧するのは訳のわからない取り方、それから先生の好き嫌いで易きに流れる生徒が出てくる可能性もあるので、あくまで進路指導として、担任とか、それから

産社の時間にきちんと指導する上で、言葉が悪いですけど、誘導しながら、結果的には今の縛りになる可能性もなきにしもあらずなんですけど、生徒が選べるんだっていうイメージをやっぱり持たせてあげるのが総合学科の特色じゃないかなと思って、そこを今日も実は見せていただいて、こういう書き方が正しいと思うし、また令和7年からこの選択肢が少なくなったのはちょっと残念なんですけど、あくまで、広く持ってて、誘導できちんとした方向に持っていくのが必要じゃないかなと思ったりして、今うちの学校はその自由選択という、科目を一覧表にして選ばせるというスタイルを、やっぱり持つべきかなという気はしています。

ただ、皆さん悩みは同じなんで、時間割を作ったりとか、いろいろ問題出てくる。そこはもう担任とか、総合学科の先生たちの腕次第で誘導していくことになる、縛りを持っていくことになると思うんですが、それはあくまで結果であって、スタートは生徒が選ぶっていうのを僕は見せるべきじゃないかなという気がしています。その系列の考え方なんですけど、「この学校にはいくつの系列があります」というと、20年前に勉強した時の僕の解釈なんですけど、系列ごとのその専門の先生たちを有している学校、うちの学校にはこれを教える、例えば商業なら商業・ビジネス系列の商業の先生がいますよ、農業の先生がいますよ、スポーツの先生は普通の高校よりもたくさんいますよっていう、そういう意味での系列で捉えた方が、先生たちにも分かりやすく説明できる。これ、うちの学校、鹿児島県も、総合学科だけを渡る先生はいないので、いつも最初から総合学科について説明しなきゃいけないというのが続いている学校でもあるし、県自体がそうなんですけど、系列はそういう意味で捉えた方が分かってもらえるかなという気がします。

(助言者)：

他どうですか？お願いします。

(参加者2)：

私は教諭の時に総合学科の立ち上げに関わって、過労死寸前というふうなところでカリキュラムを組みました。それが教諭時代です。もう本当に死ぬ寸前まで行きました。校長になって今、総合学科、別のところに行って、そこも総合学科の違う、兵庫県では最初は甲北高校なんですけど、系列が形骸化して、自由選択で自由に生徒に取らせるということになったら、逆に先生方がまた非常に労働過多になっているというふうな実態を目の当たりにしました。経営者として、学校を経営するのに、先生方に元気でやってもらうというのは、まず第一なので、系列を、次、またうちは新しい統合校になるんですけど、系列をガチガチに固めるよう、形にすることで時間割の作成の手間も軽減し、今までのようにも教務の少ない、すごい少ない人数でやってるんですけど、10時11時まで残らないような形で、学校改革を進めようと思っています。総合学科の課題は、本当に昔の働き方、過労で働くことが武勇伝みたいなことを前提に出来上がっているところが多々あるので、令和の総合学科というのをそろそろ抜本的に考えていく時期になるのではないかなと私は思っています。

(参加者3)：

今の先生がお話されたように、私ももう1個前の学校も総合学科でして、その総合学科は系列があっけないようなものでして、子供たちが自分がどの系列に属しているかわからない。すごくフレキシブルに取れるというのが分かりました。ただ、そうしたところ、例えば看護をやりたいという子がいて、看護では数学が必要かどうかとか、生物が必要かどうかというのが、担当教科によって、年ごとに変わってしまう。看護に行きなさいよって、行きたいなっていう時に指導すると、生物いらないうって生徒もいれば、いるんだよってということで、やっぱり進路に対しての一貫性がなかったということとともに、1つの教科、これ厳しいなと思えばみんな取らなくなって、ある教科に偏ってしまう。それが複数年続くと、設定してあっても開講されないものが出てくる。それが何回か続くと、もともと開けなくなってしまうと、そうすると教員の数が減らされてしまう、というのがありました。

今、私がいる高校は、系列をきっちりやっています。7月ぐらいに「系列への招待」ということで、もう4月に入ってきてから、もう訳わからないと思うけど系列を選びなさい、自分の時間割を作りなさいっていうところから始まって、4月から意識をさせていきます。そして7月に、それぞれの系列、6あるんですけど、それぞれの代表の先生が出てきて、この系列を取るとこういう進路で、この系列取るとこんな未来がある、ということをしつかりと子供たちに理解させます。同時に保護者にも少し話をし、夏休み期間、しっかりとどの系列に行くんですよっていうことをやっております。ただ今回はこちらの教育課程を見させていただくと、結構、またいで取れないのが多いと思うんですが、うちはもう少しまたいで取れるようになっております。例えば、情報と自然科学では数Ⅱを重ねて取れるようにするとか、そういうふうな形でもう少し、似たような系列の中では、お互いで取り合うようなことができるような形にはしています。という形で、全く何もないっていうと、それってすごく大変で、最終的には先生方の人数が減っちゃったということで、逆に大変だったって思いがあります。

(助言者)：

先ほど少しお話をしたところでは、それぞれの系列にふさわしい科目を紹介するっていうか、モデルプランというと、ちょっと少し生徒の考えを少なくしてしまうかもしれませんけれども、そういったものを提示して指導するっていう。ただ、その通り、生徒が取らなきゃいけないかということそれはまた違うと。そういうご意見というか、そういったことをやってるよ、取り組んでいるよっていうのは最後ちょっと聞いた話なんですけど、そういう話もありました。それではそろそろ時間ですのでこれで終わりにしますが、多分、系列から始まって、じゃあ科目選択何やるかとか、あと例えばその選択科目にふさわしい人材を確保するのはどうするのか。そもそも総合学科のことよく分かってる人に来てもらいたいっていうこっちの思いと、あとは実際に来る人とのギャップとか、いろんなところにこう問題は波及すると思うんですけれども、せっかくこうして悩みとか工夫点とか共有する場ができましたので、お2人の先生もこれから先どんどん連絡取り合っていていただいて、できれば私もいろいろまた教えてもらうように連絡取りたいので、後でメルアド教えてください。連絡取ったりとか、これも縁ですので、お互いに情報を出し合って、なかなか難しいところあると思うんですけれども、よりよい方向に行けたらなと考えております。

第3分科会 「『キャリア教育』・『進路指導』の在り方について」

【発表1】 福島県立小野高等学校 教諭 渡辺 郁子

「『夢をカタチに』する総合学科校
～自己理解から地域課題探究までの系統的な学び～」

【発表2】 鳥取県立青谷高等学校 教諭 奥田 政治

「『ミライのジブンをつくる』～総合学科だからこそできるキャリア教育～」

【指導・助言】 兵庫県立有馬高等学校 校長 小川 秀雄

令和6年度
第29回全国高等学校総合学科教育研究大会高知大会

「夢をカタチに」する総合学科校

～自己理解から地域課題探究までの系統的な学び～

福島県立小野高等学校

教諭 渡辺 郁子

福島県立小野高等学校



四方を700mの山々で囲まれている



3万本のヤマツツジが咲く高柴山



夏井千本桜

小野町の概要

人口 9,081人

男 4,503人

女 4,578人

世帯数 3,364世帯

(令和4年4月1日現在)

人口減少

少子高齢化

農業者の減少

後継者不足

産業別就業者比率の全国・福島県との比較(令和2年)

就業者比率(%)	全国	福島県	小野町
第1次産業	3.5	6.3	11.7
第2次産業	23.7	29.7	38.8
第3次産業	72.8	64.0	49.4

国勢調査より

本日の発表内容

- 🌶️ 学校紹介(生徒数の推移、統合等)
- 🌱 生徒の実態及び課題
- 🍷 「産社」から「総探」への系統的な学び
- 🍷 進路指導計画による体系的な学び

学校紹介

学校紹介



本校の沿革

昭和17年	小野新町・滝根町・飯豊村・夏井村の組合立として福島県田村農蚕学校、1・2学年各100名を募集して開校
昭和22年	福島県に移管し、福島県立田村農蚕学校と改称
昭和23年	学制改革に伴い、福島県立田村農業高等学校と改称
昭和25年	全日制普通科設置
昭和27年	福島県立小野新町高等学校と改称
昭和30年	町村合併により福島県立小野高等学校と改称
昭和60年	商業科を新設、普通科4学級となる
平成10年	総合学科開設 募集定員200名
平成20年	募集定員160名
平成25年	募集定員120名
令和2年	募集定員80名
令和4年	1月 県立高等学校改革後期実施計画策定（2024年度～2028年度） 船引高校との統合が発表
令和4年	12月 創立80周年記念式典 本年度、開校83年目

4つの系列



文理総合系列

国際社会・情報社会に対応できる資質を養う

幅広い教養

大学、専門学校等への進学者希望者



産業技術系列

農業のスペシャリストへの近道となる学習

多様な技能

農業分野、地元企業等への就業を後押し



ビジネス系列

簿記や情報処理を通して就職や進学を目指す

職業技能

スキルを活かした進学、幅広い就職を実現



福祉教養系列

福祉・保育分野に係る知識・技術を習得する

実践学習

保育士、介護福祉士等への希望を後押し



令和6年度 教育課程

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
必修	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
選択	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
自由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
選択	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

必修科目

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
必修	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
選択	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
自由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
選択	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

学校の特徴 家庭クラブ6次化の取組



令和5年度ふくしま産業賞 学生銀賞受賞



地域で開店したレストランの様子



学校の特徴 そば打ちチームの取組



総合的な探究の時間(課題研究)の学習活動の一環として実施

学校の特徴 異文化交流・震災の発信

沖縄県立八重山農林高等学校との交流

2016(平成28)年友好交流協定締結



今年度は10月31日(木)～11月3日(日)に生徒10名が訪問



県立高等学校改革後期実施計画

令和4年1月発表

小野高等学校

令和8年度より船引高校と統合

県立高等学校改革懇談会

第1回 令和4年6・7月

第2回 令和4年12月

第3回 令和5年1月

教育内容の方向性を検討

小野高存続 強く求める

県教委計画に同意会取り組み継続



統合後の対応も協議

小野高等学校存続を強く求める。県教委が発表した統合計画に賛同し、取り組みを継続している。統合後の対応も協議中。

船引・小野統合高等学校 両校の魅力をベストミックス

総合学科の特色を生かし、生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた多様な科目群(系列)を設置することで生徒の学びを充実させ、地域を支える核となる人材を育成する学校として、キャリア指導推進校に位置づける。

- 総合学科
- 文理探究系列(仮称)
上級学校進学に対応する科目群
 - プロフェッショナル系列(仮称)
地域を支える職業人として必要な知識・技能を習得する科目群、デュアルシステムを導入
 - ① 食農や6次化を学ぶ分野
 - ② 情報(工業系)を学ぶ分野
 - ③ ビジネスを学ぶ分野
 - ④ 福祉・保育を学ぶ分野

校舎方式の採用

2校同時に一方の校舎に集約しない

生徒は卒業まで、これまで通りの環境で学習を継続

	統合校本校舎 (船引高校校舎)			統合校小野校舎 (小野高校校舎)		
統合前 (R7)	在校生 1年生	在校生 2年生	在校生 3年生	在校生 1年生	在校生 2年生	在校生 3年生
統合1年目 (R8)	統合校 1年生	在校生 2年生	在校生 3年生		在校生 2年生	在校生 3年生
統合2年目 (R9)	統合校 1年生	統合校 2年生	在校生 3年生			在校生 3年生
統合3年目 (R10)	統合校 1年生	統合校 2年生	統合校 3年生			

閉校舎

生徒の実態及び課題

生徒の状況

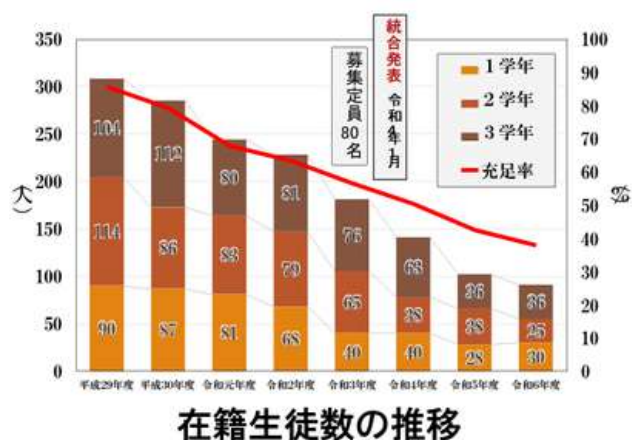
入学者数の減少

課題

開設できない科目発生(自由選択科目)
部活動が単独出場できない など

利点

少人数を好む生徒にとっては最適環境
中学まで不登校傾向
学習面で学び直しが必要
学習意欲が高い生徒が多い



在籍生徒数の推移

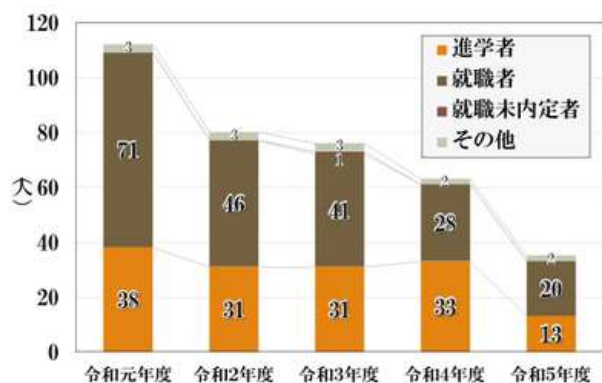
福島県高校生の内定率等の推移

図1 内定率等の推移 (各年6月末)

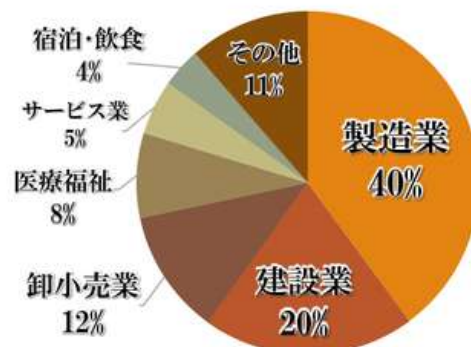


高い就職内定率を維持

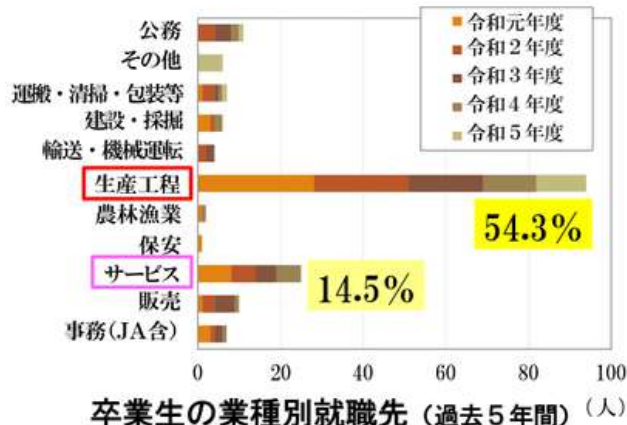
求人数の増加に反して、求職者数は減少



卒業生の進路状況



業種による求人の偏り (令和5年度)



進路実現に向けた地域理解

早い段階からの地域産業への理解

主体性を育む
進路指導の実践

社会人として必要となる力の育成



Grand Design
本校キャッチフレーズ
「夢をカタチに」
一人ひとりの進路実現

君はまだ知らない！
小野高校を

PRポスター

小野高校で育成する資質・能力ルーブリック

領域	資質・能力	育成する具体的な内容
知識・技能	基礎学力	基礎的な学力の向上、学習習慣の定着
	専門性	各教科・科目の学習を通じた専門性の育成
	応用性	知識・技能の応用能力の育成
	探究力	課題発見・解決能力の育成
思考力・判断力・表現力等	思考力	課題発見・解決能力の育成
	判断力	社会的基準や適切な根拠に基づいて判断する力の育成
	表現力	自らの考えを的確にまとめる力の育成
	探究力	課題発見・解決能力の育成
学びに向かう力・人間性等	主体性	積極的に自らの目標達成に向けて取り組む力の育成
	社会性	思いやりの心を持ち、コミュニケーションを大切に生きていく力の育成
	社会性	自らの役割を果たし、集団や社会に貢献する力の育成
	探究力	課題発見・解決能力の育成

小野高校で育成する資質・能力ルーブリック

社会人としての「生きる力」の完成



「産社」から「総探」への系統的な学び

1年次「産業社会と人間」

令和6年度 主な計画

前期	後期
オリエンテーション	職場体験学習
自分史づくり	ライフプラン作成
科目登録ガイダンス	ライフプラン発表会
職場見学会	
上級学校見学会	
2(・3)年次科目登録	
ビジネスマナー検定	

進路行事との連動

進路指導部・学年の連携
※進路行事は後述します

教科横断的な指導

ビジネスマナー
商業科
礼状指導(職場体験)
国語科





2年次「総合的な探究の時間」について

令和6年度 主な計画

前期	探究学習の基本演習
	進路希望別セミナー
	3年次 科目登録
	修学旅行ガイダンス
後期	修学旅行テーマ学習
	課題研究ガイダンス
	東日本大震災・原子力 災害伝承館視察見学
	ブレ課題研究

修学旅行の充実

異文化理解を掲げる
震災復興教育
グループ学習を重視

ブレ課題研究

探究学習の基礎基本
小野町からの支援
地域課題のテーマ学習

修学旅行テーマ学習

異文化理解 小野町との違いは何か？

STEP 1 課題の設定

分野・テーマの決定

STEP 2 情報の収集

旅行先と小野町の特徴を調査

STEP 3 整理・分析

特徴を比較し、違いの理由を考察

STEP 4 まとめ・表現

「修学旅行ガイドブック」を作成、発表

3つのテーマ
産業・食文化
歴史・観光
福祉・環境

外部講師活用 (一社)Bridge for Fukushima



震災後の人的支援の取組を紹介





3年次「課題研究(総探)」について

令和6年度 主な計画	
前期	課題研究のテーマ設定
	計画作成
	研究活動
	講座内中間発表会
後期	研究活動
	論文・プレゼン資料作成
	講座内代表者選考会
	課題研究発表会
発表要旨集作成	

グループから個へ

自らテーマを決定し、
計画立案する

自ら相談し行動する
自立した学習者へ

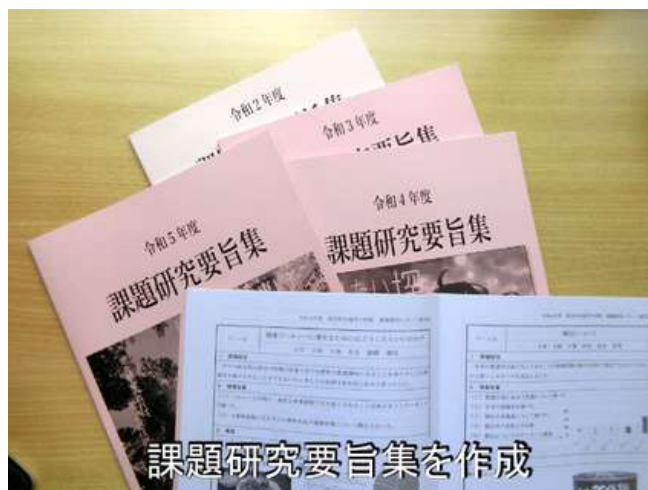
論文・プレゼン作成

育成したい資質・能力
が高まる機会

令和5年度の課題研究の主なテーマ

分野	探究テーマ
国語	魅力的な声について
国語	若者の読書率を上げるために私たちができることは何か
健康	笑いストレス解消についての関係性について
福祉	小野町のユニバーサルデザインとバリアフリーを進めるためには
観光	小野町の主要観光地のPR
観光	小野町の伝統芸能を伝えるためには
保育	こどもにとって遊ぶことの大切さとは
体育	体を動かすことの大切さ
スポーツ	弓道の魅力
環境	ボイ捨てを減らすためにはどうしたらよいのか
社会	小野町のPR力を高めるためにはどうすればよいのか
動物	ペットの殺処分について
そば打ち	そばの歴史とそば料理を広めるためには

3年生36名
12分野
1人1テーマ



- 上級学校見学会
(1年生対象)

FSGカレッジリーグ(郡山市)

様々な分野を網羅して
いる専門学校

上級学校進学相談会
(2、3年生対象)

進路指導部対応



1 学年	2 学年	3 学年
● 11月 職場体験学習 「産業社会と人間」	● 6月 小野町企業説明会 9社参加 ● 7月 企業見学会（県事業） 3社訪問	● 5月 進路ガイダンス 4社参加 ● 6月 小野町企業説明会 6社参加

[illegible][illegible]

企業との直接的な交流体験学習



企業との直接的な交流体験学習



企画 福島県

進路ガイダンス(業者委託)



業者委託 高校に企業が来校し、説明を直接受ける

福島軌道工業株式会社 (郡山市)
 株式会社トフコンオプトネクス (田村市大越町)
 パラマウント硝子工業株式会社 (須賀川市)
 福島交通株式会社 (福島市)
 福島さくら農業協同組合 (郡山市) など

県内から業種別に
企業に依頼

2, 3年次 小野町企業説明会



小野町主催 6月に2、3年生合同で参加

イハラ建成工業株式会社 (田村郡小野町)
 株式会社アブクマ本社小野工場 (田村郡小野町)
 株式会社フルカワ (田村郡小野町)
 東レ建材株式会社 (田村郡小野町)
 (社福) かがやき福祉会 (田村郡小野町) など

地元企業を中心に
興味関心を持たせる

2年次 企業見学会(県事業)



福島県ものづくり産業人材確保支援事業
 高校生に製造業への興味関心を持たせる

昨年7月3社を訪問

東レ建材株式会社 (田村郡小野町)
 株式会社トフコンオプトネクス (田村市大越町)
 三進金属工業株式会社 (石川郡平田村)

企業との直接的な交流体験学習



企業との直接的なコミュニケーションを重視した体験学習によって

- 企業側の熱意が伝わる。
- 企業の実際の業務や職場環境を知ること
で、働くことへの現実的な理解が深まる。
- 様々な業種から職業選択のヒントとなる
情報が得られる。
- 進路活動への意欲を自ら高める機会と
なる。



学習くらぶ



学習くらぶ



校内教員研修

小野高生に社会人として求められる職業観や対人スキルをしっかりと身に付けさせるために、我々はどのような指導を行うべきか。

テーマ設定の理由

本校を卒業し地元企業に就職した生徒の多くは、休むことなく、上司からも可愛がられ、企業から高い評価を受けている。

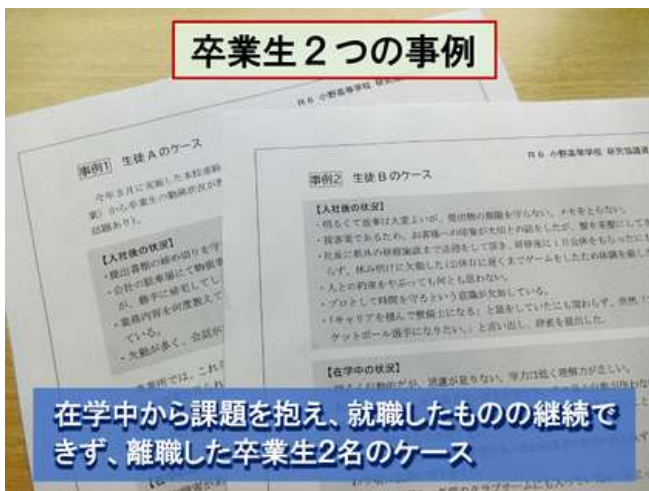
その一方で、一部の卒業生には、時間や約束を守れないなど**社会人として必要な素養を身に付けられないまま就職し、結果的に離職**してしまう生徒がいる。

このような生徒の多くは、**在学時から学力面、行動面で課題**を抱えている。

厚生労働省が令和4年に発表した平成31年3月の高卒生の3年以内離職率は、**35.9%**である。その主な理由は、「人間関係が合わなかった」「仕事や配属先が自分に合わなかった」「給料待遇が良くなかった」といったものである。

このことから、**未熟な対人スキルや仕事に対する理解、勤労観が醸成されていない**ことが、本校生徒の離職の要因として考えられる。

以上のことから、研究協議では、高校3年間を通じて、それぞれの学年、時期において、どのような指導をどのような場面で行っていくべきか、検討を行いたい。



卒業生2つの事例

在学中から課題を抱え、就職したものの継続できず、離職した卒業生2名のケース

協議内容

- 具体的な課題の掘り起し
- 個々の教員のあり方
- 組織体制のあり方
- 企業との連携の在り方

Google Jamboardによる意見の集約

4グループから意見が寄せられた

協議のまとめ

生徒の状況

- 幼い
- 甘え（学校行きたくない）
- 逃避、責任感が弱い
- 客観視できない
- （自己理解が弱い）
- 一般的常識がない

課題

指導体制

- 職業（職種）に対する教員、生徒の理解不足
- 生徒の進路希望とのギャップ（指導で埋めることが困難）
- 要支援の生徒への進路指導をどうすべきか、検討が必要
- ソーシャルスキルトレーニングへの理解不足、研修機会、校内体制づくり
- 保護者の協力、理解が得られない（療育手帳の取得等）

教員の在り方

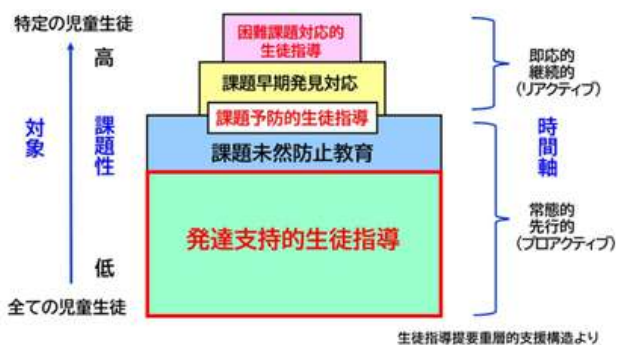
対応

組織体制

- 特別支援教育への理解
- 身に付けさせたいスキル（目標）の共有
- 生活習慣の確立を重視
 - ・ マナー、ルールを学ぶ機会
- 責任を持たせる指導
- 発達支持的生徒指導
 - ・ 自己決定を促す
 - ・ できることを見出す
 - ・ 自己有用感を持たせる
 - ・ わかりやすいことば
- 授業改善の視点

- 事業所の開拓
- 指導内容の共有
- 通級指導の検討
- 外部機関（人材）との連携
 - ・ 就労支援センター
 - ・ ハローワーク
 - ・ 進路AD、SSW、SC、SL
- 企業との連携のあり方
 - ・ 企業との情報交換

協議のまとめ



生徒指導要綱要重層的支持構造より

子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、児童生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識し、社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く資質・能力を育成することが求められている。

まとめ 小規模校のメリットを生かして、教育効果を最大化する

- 1年「産業社会と人間」から総合的な探究の時間へとつづく系統的な探究学習
- 進路ガイダンス等の企業との連携した体験的な進路行事の計画的な実践

誰ひとり置き去りにしない

「夢」をカタチに」できる **小野高校**へ

【第3分科会 発表1 質疑応答】

Q：富山県立上市高等学校

(1)スクールカウンセラーによる全員面談について、全校で100人程度、1学年30人ちょっとだと思えますけれども、配当時間とか県から配当される時間というのはどれぐらいあるものなのでしょうか。1学年30何人全員見るというのは相当の時間がかかるんじゃないかと思うんですけれども、どのように時間を取られるのでしょうか。

(2)ジャムボードなどを使って、企業の方と学校の職員の方で話し合っているような問題点が挙げられているということ、その中で「教員が企業のことを分かっていない」ということが挙げられていたと思うんですけれども、教員が企業のことを分かるというのは、正直あんまり考えられないことかなと思っています。教員のバックグラウンドから考えると、企業経験が少ない中で企業のことを分かるというのは、企業人しかできないことなのではないかと思っています。そう考えたときに、企業の方と色々な連携を模索されていると思うのですけれども、例えば地域と共にある学校ということで、学校運営協議会とか、コミュニティスクールのような形で、企業の方が学校の経営に直接関わられるような体制というのは、何か取られているのでしょうか。



A：発表者

(1)福島県では、スクールカウンセラーの配当はすべての学校にあるわけではなく、希望する学校や配慮が必要とされる生徒が多い学校に基本的に配当されています。1年間200時間という時間が決まっております。震災から10数年経っているんですけれども、震災後の心のケアの部分で、スクールカウンセラーが手厚く配置されているというのが今も続いています。毎週1回必ず、5時間ぐらいの勤務でカウンセラーが入っておりますので、1年生は入学してすぐ、1コマ50分に2人入るような形で、スクールカウンセラーの勤務日に必ず生徒を当てるようにしています。年度の初めに1学年だけ全員面談を行うというのは、やっぱり入学後の不安の部分。あとは担任には話がなかなかしにくい部分が、スクールカウンセラーには生徒が打ち明けてくれ、それが担任や学年につながり、生徒に対する指導の参考になるというような連携を図っているところで。教育相談というと、生徒にとっては少し敷居が高いといいますが、相談を受けることを周りに触れられるのを嫌がるような生徒も実はおまして、「何かあったのかな」なんて周りから悟られてしまうのをすごく嫌がるような生徒がおりますので、できるだけ早い段階から「教育相談やカウンセリングを受けることは敷居は高くない」という気持ちを生徒に持たせるため、1学年は年度の初めにすぐカウンセリングを行っております。その効果もあって気軽に相談できる雰囲気づくりが本校にはあると思っています。あとやはり、配慮が必要になる生徒がとても多い学校ですので、スクールカウンセラーとのやり取りというのは、すごく学校の中心になるコミュニケーションの部分になるんですけれども、家庭的、家庭側にもケアが必要な生徒も多くいますので、スクールソーシャルワーカーも学校に来校していただいて、学校側のケアと、あとは家庭側のケアというふうに、担当する方の分野に分かれて、連携を図りながら進めています。スクールカウンセラーに関しては、緊急にカウンセリングが必要な生徒が出てきたときには勤務時間外でも学校に来ていただくような体制をとっていて、来ていただいた部分に関しては、学校から補助するという体制をとっています。

(2)ジャムボードを活用した、教員と企業との関わりについてなんですけれども、先生がおっしゃる通り、なかなか企業側が意図することってというのが、教員側は経験していない部分があって、理解できないところがあるんですけれども。町はとにかく小野高校を応援してくれると、私はすごく感じていて、それで学校の先生方も町で何かがあったときには、先生方が全体で町の行事に参加したり、企業が何かというときには先生方が必ず足を運んだりして、企業の方と直接対話をする時間を大変多く持っている学校です。その中で企業が求める生徒像、こういうものを期待するというものを、進路指導部が主催し

た行事以外で、企業側と夜、時間を作って、いろいろ話をする機会を多く設けているんですが、その中で、今の小野高の生徒の現状を伝えたり、こういう部分を改善してほしい、こういう部分を育ててほしいというような、企業側からの要望を対話しながら確認し合うという時間が頻繁に設けられておりまして。月に2回ぐらいは、集まる機会はお酒を飲みながらっていう、気軽な雰囲気で行っております。私も何度か参加したことがあるんですが、そのような感じで、地元の企業から愛される生徒を作るところを、企業さんの声を直接聞きながら、学校の指導に活かすような体制を取っています。

Q：三重県立あけぼの学園高等学校

(1)近隣校との再編統合というお話の中、両校の強みというか、ベストミックスするような形での統合ということで、もう一つの学校さんは普通科で、小野高校さんは総合学科の学校ということで、それぞれの強みというか、特徴が異なるかと思うのですが、その中で総合学科としてのこだわりというか、小野高校さんが「こういったものは総合学科の強みとして、ぜひ新しい学校に継承していきたい」という、こだわりを持たれている部分があるようでしたら、お聞かせいただきたい。

(2)沖縄県の学校と学校間連携というか、交流されているということなんですけれども、国内や他県の学校さんと提携を結んだ経緯というか、どういうところからスタートして今現在も続いているのか、また、特徴的な取り組みで、もし、より詳しく教えていただけるものがあるようでしたら教えてください。

(3)「学習くらぶ」のお話を最後にいただきました。子供たちの学び直しの機会ということで、学習支援スタッフの力もお借りしてということなんです、学習くらぶを置くことになった経緯。保護者からの声だったのか。現場の教員の話の中で生まれてきたものなのかということ。それと、学習くらぶの中で学ばれているプログラムっていうのを、どうやって誰が決めているのでしょうか。

A：発表者

(1)統合における本校のこだわりといいますか、残したいと思う部分は、まさに総合的な探究の時間です。1年生から自分の将来を見据え、そして町と関わりを持ちながら自分探しを始め、2、3年とお世話になっている地元の課題について、高校生目線からいろいろ課題解決に向けた取り組みをするという、町の方との関わりの中で自分自身を見つけ、町に貢献できる自分自身はどうあるべきかという部分を、本校では3年間の探究の時間で力を入れて取り組んでいるので、町に関わりを持ちながら学習を進めていくという部分はそのまま統合校で残したいなという思いがあります。相手校も、本校に比べると進学する生徒の割合が多い学校ではあるんですけれども、地元の産業や製造業に就職する生徒もおりますので、少し、狙いとしては似ているところもあります。3年間の総合的な探究の時間で自分を探し、町に対して自分がどのように貢献できる人間になれるのかという部分を、統合した後、生徒たちには学んでほしいなというふうに考えています。

(2)沖縄と提携を結んだきっかけというのは、小野町は「発酵食品の町づくり」を目指しているんですけれど、90歳ぐらいになられる方で発酵食品の研究者がつながりを持っていて、石垣市の黒糖を使った食品作りについて協力をしたというのが、石垣市と小野町が結ばれたきっかけになっていると聞いています。その後、高校生の立場で交流をしましょうということで、どのくらい前から交流が始まったのか、そこまで知識としてなく申し訳ないんですけれども、八重山農林高校と交流が15年ぐらい続いているんでしょうかね。お互いの文化について勉強したりと、地元の特産品を使ってコラボレーションした食品を作って小野町でも販売し、石垣市でも販売し、それぞれの町をそれぞれPRする高校生の取り組みを披露する、というような機会を毎年設けています。遠い場所同士の交流ですのでオンラインで、頻繁に月に1回ぐらい交流はしております。今、ちょうど台風で荒れた天気の中、生徒20名が石垣市に交流に行っておりまして、明日帰ってこれるかなという。石垣市との結びつきはそのような感じです。

(3)学習くらぶは始まって12年、震災がきっかけっていうのがありますでしょうか。最初に「学び直しが必要」、「授業以外の時間が必要」だと思ったきっかけは私たちなんですけれども、どうしても上級学校を目指す生徒への課外学習で先生も手がいっぱいになってしまって、下の層の、学び直しの必要な生

徒へ手をかける時間がなかなか少ないという、始まってはみたものの色々な課題があることを町に相談したところ、「私たちもぜひ協力させてください」という、小野町在住の退職された先生方やボランティアで、「高校生と一緒にぜひ学習を進めたい」と名乗り出てくださった方4名ほどが、町から来てくださいました。町としては「上級学校を目指す生徒は先生方で指導をお願いします。学び直しが必要な生徒に対しては町が全面的に支援します」という体制を作って進めています。町の支援員さんの補助については、町が援助してくださっているような形で進めています。学ぶプログラムとしては、県から派遣された学習支援員が本校におりますので、その学習支援員が学習くらの中心になって、町の方と生徒の実態を加味しながら、プログラムを組んでおります。基本的には、「社会に関心を向ける内容は必ずしましょう」ということ、あとは生徒自身にどんな勉強をしたいかを聞いて、先ほどもお話ししましたが、自分が勉強したいものを持ち寄って、宿題をそこで行うなど。プログラムはそんなに形を作っているわけではないのですが、とにかく生徒が何を勉強したいか、あとは勉強に結びつく何か体験的な活動ができないかということで、映像でもご紹介しましたが、理科の実験的な学習を進めてみたい、あと町の方が外に連れて行ってくれて町の中を見ながらというような学習をする素材を使って、一緒に取り組むような活動をしています。

Q：青森県立尾上総合高等学校

卒業時に進路が未決定の生徒や、早期離職した生徒に対してのその後に関してサポートやフォローを学校として何か行っていることがあれば教えていただければと思います。

A：発表者

実は、未決定の生徒は今はいません。毎年おりません。ですが、早期離職する生徒に関しては、やはり引き続き学校でのサポートを行います。ただ、卒業してからの求人の窓口は学校ではないので、そちらの外の支援に、本校職員も付き添って次の就職先を見つけるということは、学校の方で支援します。

Q：大阪府立堺東高校

本校も、スクールミッションが「夢に向かってチャレンジする人物を育成する」というふうになりまして、御校の「夢を形に」というとき、その「夢」をどう定義されているのかなと、もしそういうのがあるのであれば教えていただきたい。

A：発表者

私自身が普段学校で生徒と関わっている中で心がけているというか、それが夢につながるいいなと感じながら生徒に接している部分をお話すると、本校に入学してくる生徒は、自分に自信のない生徒がとても多いです。スポットライトを浴びるような機会もなく、自分が認められるような機会は今までなかなかなかったような生徒が本校に入ってきます。私たちがすごく心がけているのは、とにかく自分自身に自信を持って、自己肯定感を持って学校生活が送ればいいなと感じながら生徒と接しているんですけれども、自分に自信が持てるようなきっかけが作れる活動を多く作るということを繰り返しながら、自分自身の「なりたい」という夢に気がつく機会をたくさん多く与えられるといいと思っています。外の企業見学ですとか学校ですとか、あとは今まで人生を送ってきた地元の方たちの話を多く聞いたりしながら、自分自身の「こうしたい」というきっかけが持てるような機会を本校では多く持っています。普段の学校の中でほんの小さな変化ですとか、出来事に対しても足を止め、やった行動に対して生徒を認めてあげて、うんと褒めるという、その繰り返しで自信をつけていながら、外の情報をたくさん吸収しながら自分を見つけるという、そういう気づきが学校の中でできればいいと考えております。それが「夢に向かって進んでいこう」という原動力といいますか、精神的な部分を育てていきたいなと思っています。

ミライの自分をつくる

～総合学科だからこそできるキャリア教育～

鳥取県立青谷高等学校 発表者 教諭 奥田 政治
3分科会「キャリア教育」「進路指導」の在り方について

おしながき

- 1 本校の概要
- 2 キャリア教育
- 3 産業社会と人間
- 4 総合的な探究の時間
- 5 地域連携
- 6 まとめ

1 本校の概要

(1) 沿革



1 本校の概要

(2) スクールミッション

- ・地域の自然・歴史・文化・産業などの資源を活用した探究的な学びをとおして、社会参画力を身に付け、豊かな人間性を育み、生涯学び続けながら、地域社会に貢献する人材の育成を目指します。

1 本校の概要

(3) スクールポリシー

グラデュエーション・ポリシー
(育成を目指す資質・能力に関する方針)
～自分らしさに誇りをもち、
社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成～

- ・特色ある授業、幅広い選択科目により、自己の進路実現を目指します。
- ・少人数指導や協働的学びを通して、基礎学力の定着をはかり、学習意欲の向上を目指します。
- ・地域連携を通して、人々と協働、協調する力、豊かな人間性や自己肯定感の育成を目指します。

1 本校の概要

(3) スクールポリシー

カリキュラム・ポリシー
(教育課程の編成及び実施に関する方針)
～ジブンを羅針盤、ミライのジブンを～

- ・系列選択で 学びたい科目を自分が選ぶ『総合学科』の利点を生かしたカリキュラム・マネジメントにより、生徒一人ひとりの得意をのびす教育に取り組み、進路実現100%を目指します。
- ・充実した 探究活動 地域に学ぶ「青谷学」を軸とし、教科を横断した探究的な学びを深め、課題発見・解決力、表現力、人間関係形成力を育成します。
- ・一人ひとりが 主人公の学び 少人数指導やチーム・ティーチング等により、わかる授業を目指します。また、体験学習などにより生徒が互いに学び合い、自己理解や他者理解を深め、主体的に学ぶ力を育成します。
- ・地域に愛され 必要とされる存在 創立以来の地域との連携・協働を基盤に、地域資源の学習や100名を超える社会人講師による授業や地域ボランティアを通して、公共心や自覚心を育成します。

1 本校の概要

(3) スクールポリシー

アドミッション・ポリシー
(入学者の受入れに関する方針)

- ・本校での学科の特色をよく理解し、意欲的に学習活動に取り組もうとする者
- ・進路実現に向けて、興味・関心がある分野をもっと深めたい者
- ・生徒会活動をはじめ、集団の中で中心となり主体的に活動しようとする者
- ・地域と連携した活動に関心を持ち、地域社会に貢献したいと思っている者

1 本校の概要

(4) スクールフォーカス

- ・ICT活動教育重点校
- ・地域連携重点校
- ・県外生徒募集重点校

2 キャリア教育

(1) 概要

- ・学校の中長期ビジョンを中心に
- ・進路指導部が主管となって

2 キャリア教育

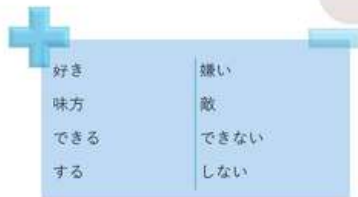
(3) 柱_概要

- ・「点」から「線」へ → キャリアパスポート
- ・生徒の変容 → いわゆる〇〇世代
- ・不易と流行 → 「学ぶことのプロ」

2 キャリア教育

(3) 柱 自分を知る_1

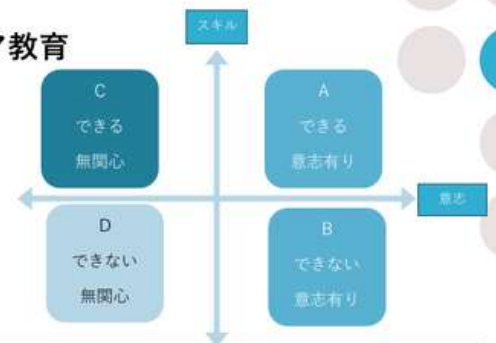
- ・二元論からの脱却
自分と他人との相違
人も人間関係もグラデーション



2 キャリア教育

(3) 柱 自分を知る_2

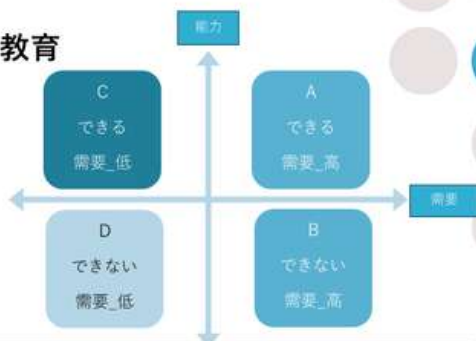
- ・意志と技量
A. 信じて見守る
B. やり方を指導する
C. ! ! !
D. 体験と学習



2 キャリア教育

(3) 柱 自分を知る_3

- ・社会的要請と自己
A. 信じて見守る
B. やり方を指導する
C. ! ! !
D. 体験と学習



2 キャリア教育

(3) 柱 社会を知る

- ・さまざまな大人にであう
→理解ある大人、支えてくれる大人
- ・自立の意味を知る
→すべてを自分でするのではない
→多くの人に支えられつつ生活すること
→協力、協働、助け合い、補い合うこと
自己責任の欺瞞？

2 キャリア教育

(3) 概要 地域の中での位置づけを知る

- ・高校生として
ボランティア体験
→有用感、地域の一員としての自覚の涵養
→俯瞰する力、客観視する力、未来を見通す力

2 キャリア教育

(4) 実績_1

- ・進学者と就職者とが半々で推移
→指導が4月早々から延々と続く
- ・進学も就職も県外は少ない
特にコロナ禍以降は県外進学が減少
→県内にほとんどの生徒が残る
→地元を支える貴重な人材

2 キャリア教育

(4) 実績_2

【進学】

- 進学受験方式の多様化
- 情報収集と情報提供
- *過去の経験だけに頼らない
(教員も保護者も)
- *志望理由の確かさ

2 キャリア教育

(4) 実績_3

【就職】

- ・近年は売り手市場
- *内定率100%とは言い切れない
- きめ細やかな企業研究と生徒指導
- ・キャリアアドバイザー（CA）の力
- 就職支援
- 内定率が向上し、離職率も低下

3 産業社会と人間

(1) 現状と課題_1

○本校のキャリア教育の根幹

- ・教科書のない科目
- 教職員ですら認知度が低い
- *教職員集団の共通理解の必要性

3 産業社会と人間

(1) 現状と課題_2

○本校のキャリア教育の根幹

- ・学校や地域の現状に精通する必要あり
- 担当者の負担増、安定感の欠如
- ・こまめなミーティングを開催
- 関係職員全員が主体となる授業展開
- *学校文化の継承

3 産業社会と人間

(1) 現状と課題_3

○本校のキャリア教育の根幹

- ・年次ごとに柔軟に運用
- 年度ごとに見直される学習計画
- 地域連携に関連する内容の増加
- 時流に合わせた内容の追加
- *3年間を見据えた授業展開をイメージ

3 産業社会と人間

(1) 現状と課題_4

○本校のキャリア教育の根幹

- ・事前、事後を含めたサイクルを意識
- ・常にグループ活動・情報の共有
- 集団としての力を高める
- 自己理解を深める

3 産業社会と人間

(1) 現状と課題_5

- 1 学期「自己を見つめる・地域を知る」
- ・コミュニケーションアクティビティ
 - ・海岸清掃
 - ・キャリアノート
 - ・SDGs 出前授業
 - ・エゴグラム
 - ・進路の選び方講演会

3 産業社会と人間

(1) 現状と課題_6

- 2 学期「社会と仕事について考える」
- ・卒業生講演会
 - ・「だっぴ」
 - ・職業調べ
 - ・企業の話聞く
 - ・企業訪問

3 産業社会と人間

- (1) 現状と課題_7 3学期「進路意識を高める、自分について深く知る」
- ・ライフプランニング講話
 - ・ライフプランニング作成
 - ・3年担任講話
 - ・青谷学に向けて講話

3 産業社会と人間

- (1) 現状と課題_8 〈50名程度の生徒数～少人数の強み〉
- ・特別な会場準備が不要
 - ・機器が整備された室での実施可
 - 整った環境での学習
 - 講師にも生徒にも快適、学習効果高

産業社会と人間_活動の様子

(1) SDGs 出前授業_20240502



産業社会と人間_活動の様子

(2) 海岸清掃_20240509



産業社会と人間_活動の様子

(3) 海岸清掃振り返り_20240509



(4) 基礎力診断テスト活かし方_20240530



産業社会と人間_活動の様子

(5) エゴグラム講演_20240613



産業社会と人間_活動の様子

(5) 卒業生講演会_20230826



(6) 3年担任に学ぶ講演会_20240215



3 産業社会と人間

- (1) 現状と課題_9 〈50名程度の生徒数～少人数の強み〉
- ・グループワークの一元化
 - 多くの教員による、複数の視点
 - 多様な生徒像の把握
 - 本校は担任と副担任が担当
 - 生徒理解が進み、年次運営に好影響

4 総合的な探究の時間

- (1) 現状
- ・進路指導部が主管
 - ・「進路実現のための基礎力養成」を中心に
→「サマーワーク」
インターンシップ、オープンキャンパス
 - 自己理解、自己表現活動
職業レディネス、職業人に学ぶ講演会等

4 総合的な探究の時間

- (2) 課題
- 【インターンシップ】
生徒面談による希望 → 企業と折衝
*適性理解、自己理解 → 3年次へ
 - 【オープンキャンパス】
・何度も参加する
・保護者にも参加してもらう

4 総合的な探究の時間

- (2) 課題
- ・3年次生徒の就職指導をしながら、同時に2年次生徒の活動支援している状態であるため、時期も含めて見直しの必要に迫られている。
 - ・2学期以降の活動が産業社会と人間との違いが明確になりきっていない。

4 インターンシップの様子



5 地域連携

- (1) 青谷学_1
- 本校教育を象徴
 - ・域連携活動、地域学習の高まり
→選択科目から全員履修（8年目）
*全校を挙げた取組へ
 - ・青谷学Ⅰ、青谷学Ⅱと名称変更（3年目）

5 地域連携

- (1) 青谷学_2
- 〈青谷学とは〉
青谷の自然、歴史、文化、産業、観光を調べる中で、課題に気づき、自分たちで調べたり体験したりして、解決の方法を見つけ、学習したことを駆使して地域の困りごとの解決につなげる。

5 地域連携

- (1) 青谷学_3
- 【青谷学Ⅰ】
 - ・青谷学Ⅱへのステップとして
 - ・地域の魅力と課題を
→具体的かつ体験的な活動を通して
 - ・五感を駆使した学び
「自然科学」「歴史と産業」「農林漁業」の3コース

5 地域連携

- (1) 青谷学_4
- 【青谷学Ⅱ】
 - ・2年次の学習内容をふまえて
 - ・具体的かつ体験的な活動を通して
 - ・五感を駆使して
 - ・主役はあくまでも地域と生徒
*テーマ決定に時間をかける

5 地域連携

(1) 青谷学_5

【青谷学Ⅱ】 通底すること

- 1 学びがあること
 - 2 体験的活動をともなうこと
 - 3 地域の課題を踏まえること
- ※ 総合学科の強み
→専門性のなさ
- ※ 小規模校であることの強み
→機動力の駆使

5 地域連携

(1) 青谷学_5

〈テーマ キーワード〉

- | | | | | |
|-------|-------|------|--------|------|
| ①調べる | 観察する | 聞く | 学ぶ | 確かめる |
| ②つくる | 育てる | 加工する | 開発する | 提案する |
| ③発信する | やってみる | 動画作成 | 応募する | |
| ④つながる | 他校県外と | 大人と | 子どもたちと | |

5 地域連携

(1) 青谷学_7_青谷学Ⅱのテーマ

2020 令和2年度 第1学期	青谷の自然 環境	青谷の植物 環境の学習	青谷の歴史 環境の学習	青谷の文化 環境の学習	青谷の産業 環境の学習	青谷の自然 環境の学習	青谷の自然 環境の学習
2021 令和2年度 第2学期	青谷の自然 環境の学習	青谷の植物 環境の学習	青谷の歴史 環境の学習	青谷の文化 環境の学習	青谷の産業 環境の学習	青谷の自然 環境の学習	青谷の自然 環境の学習
2022 令和3年度 第1学期	青谷の自然 環境の学習	青谷の植物 環境の学習	青谷の歴史 環境の学習	青谷の文化 環境の学習	青谷の産業 環境の学習	青谷の自然 環境の学習	青谷の自然 環境の学習
2023 令和3年度 第2学期	青谷の自然 環境の学習	青谷の植物 環境の学習	青谷の歴史 環境の学習	青谷の文化 環境の学習	青谷の産業 環境の学習	青谷の自然 環境の学習	青谷の自然 環境の学習

5 地域連携

(2) 青谷学の実践 青谷学Ⅱ_A1



A1 野菜をミキサーに



A1 試作された野菜和紙

5 地域連携

(2) 青谷学の実践 青谷学Ⅱ_A2



A2 サンドアート作成



A2 サンドアート完成品

5 地域連携

(2) 青谷学の実践 青谷学Ⅱ_B_1



B1 しらみ



B1 収穫の様子 (おぼろを掘って)

5 地域連携

(2) 青谷学の実践 青谷学Ⅱ_B_2



B2 研修生生活

(2) 青谷学の実践 青谷学Ⅱ_C_1



C1 水銀温度 (何本か)

5 地域連携

(2) 青谷学の実践 青谷学Ⅱ_C_2



C2 サイクリング



C2 釣り

5 地域連携

(2) 青谷学の実践 青谷学Ⅱ D_1



D1: 青谷の発展



D1: 青谷の発展



D1: 青谷の発展

5 地域連携

(2) 青谷学の実践 青谷学Ⅱ D_2



D2: ワールドによる授業



D2: ワールドによる授業



D2: ワールドによる授業

5 地域連携

(3) 特色のある授業 スポーツⅤ 3年次 選択授業

- ・外部講師の全面的な力を借りて
- ・初夏から晩秋にかけて20回実施
- ・メディアにも多く取り上げられる
- ・海まで徒歩5分という地の利
- * 自然と交わることでの学び
→「全く同じ波は来ない」
- * 五感を駆使した学習 人としての基本

5 地域連携

(3) 特色のある授業 スポーツⅤ 3年次 選択授業



5 地域連携

(3) 特色のある授業 弥生文化探究 2年次、3年次 選択授業

- ・世界的にも有名な「青谷上寺地遺跡」という地域資源
→最大限に活かした授業
専門家による講義、体験型授業
〈古代米の栽培、弥生土器再現、石包丁作製、
遺跡の発掘体験等〉、
- * 「アクティブラーニング」を体現
- * 全国のコンテストにも応募、入賞
- * 少人数のメリットを活かした機動力

5 地域連携

(3) 特色のある授業 弥生文化探究 2年次、3年次 選択授業



5 地域連携

(3) 特色のある授業 弥生文化探究 2年次、3年次 選択授業



5 地域連携

(4) 地域コーディネーター

ミライをつくる

R5.青高 シ・アクティブラーニングセンター

共通目標 マサのミライに挑戦 地域活性化へ!

主 体 青谷高校

担 当 地域コーディネーター・地域連携担当

取 組 学びを生かしたマサづくり 学びの発展

平日：授業 休日：様々な地域活動

・ポータルサイトの活用 (地域貢献活動支援)

青高インスタグラム

実践

学び (知識)

ふりかえり

深い学び 効果



ミライをつくる ⇒ 地域学校連携活動 ⇒ 地 域

5 地域連携

(4) 地域コーディネーター 令和5年度より

- ・地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）を委嘱
〈取組の内容〉
- 「**学び**を活かした**マチ**づくり **学びの**実践****」を柱に
 - ・地域のさまざまなボランティア活動の情報収集
 - ・青谷学等本校学習活動における地域課題の掘り起こし
 - ・学習活動への具体化
 - ・地域人材リストの作成
 - ・その他よろず相談

5 地域連携

(5) ICT活用・STEAMLab_1

- ・令和5年度に「STEAMLab」開設
- ・令和6年度「高等学校DX加速化推進事業採択校」
デジタル機器の整備事業が促進
- * ICT機器は道具
 - 練度を上げる必要がある
 - 目的を持って使うと熟達も速い
 - 課題解決を意識するとアイデアが浮かぶ

5 地域連携

(5) ICT活用・STEAMLab_2



5 地域連携

(5) ICT活用・STEAMLab_3

- 小規模校の弱みを一気に解決
 - ・ 距離の克服
 - ・ 多彩な人との交流（同世代）
- ・ 可能性のかたまり



本事業の趣旨

KATARIBA



小規模高校での**学びを最大限に引き出す**
オンラインネットワークをつくる

学校規模によるハンデを持つ小規模校（高校）を対象に、
「総合的な探究の時間」の授業や放課後の**オンライン複数校連携**を行います。

生徒の探究活動を学校横断ネットワークで相互支援するモデルをつくり、
全国の小規模校で「**誰もが行きたくなる**」教育環境を実現することを目指します。



© 2024 Katariba Consortium KATARIBA

5 地域連携

(5) ICT活用・STEAMLab_4

- ・ 変化を恐れないこと、変化にアジャストしていくこと
- ・ デジタルは決して万能ではない
- ・ 上手く使うことで問題解決に結びつく
- ・ 単なる機器の更新、新しいものの導入に終わらせない
- * 現状を見つめる契機としていく
 - 授業での問題点や困りごと
 - 生徒ひとり一人が抱える悩みや苦しみ
 - 地域課題・学校の課題→「困っていない」が一番困る

6 まとめと展望_1

(1) 総合学科はもっとも若い学科

〈時流〉

- ・ 「多様性の多様化」「グローバル」
- ・ 「教科横断的な学習」「地域連携」
- ・ 「キャリア教育の重要性」
- ・ 「インターンシップの充実」等々
- 総合学科の黎明期から取り組んできたこと
- * 時代が追いついてきたということ

6 まとめと展望_2

(2) 弱みを強みに変えて

〈強み〉 多様な選択科目

〈弱み〉 専門性の低さ（認知度の低さ）

○ 発想の逆転をして

- ・ 幅広く、さまざまな領域について学ぶ
- 知識を総動員して考える 教科横断の基本

6 まとめと展望_3

(3) 教職員集団の力が求められている_1

〈アクティブラーニング〉

- ・とにかくやってみる、行ってみる、見てみるの精神
- ・論理や理念は後からついてくる
- ・リアルな身体的な体験を伴って得た感覚や感情
- ・「学びの身体性」「五感で学ぶ」
 - 外部講師や地域人材の力
 - 教員の役割の変化

6 まとめと展望_4

(3) 教職員集団の力が求められている_2

・コーディネータ的役割

→ミーティング、ブリーフィング、調整連絡

* 時間の捻出や調整の必要頻度の高まり

* ICTの活用

「教員は教えることのプロフェッショナルであると同時に学ぶことのプロフェッショナルでなければならない」

6 まとめと展望_5

(3) キャリア教育

- ・自己認識の物語
- ・未来への不安と希望
- ・助け、助けられる関係作り

* ロールモデルとして

* コーディネーターとして

「生徒に夢を語らせる前に自分の夢を語れ」



ご静聴
ありがとう
ございました

鳥取県立青谷高等学校 発表者 教諭 奥田 寛治
3 分科会「キャリア教育」「進路指導」の在り方について

【第3分科会 発表2 質疑応答】

Q：長野県佐久平総合技術高等学校

地地域に生徒を出す時に一つ気がかりになってしまうのが、安全面と言いますか、教員がどこまで引率して行ったらいいかは、個人的に非常に悩ましいところで、そういったフィールドワーク、もしくは自転車でどこか行くという場合には安全管理でこういった指導をされているのでしょうか。

A(発表者1)：

自転車の整備ができたのは昨年度です。それまではバスを借りて現地へ行っていました。



A (発表者2)：

自転車で出かけるためのヘルメットも整備されています。私は海の担当なので、海岸線沿いに3.5キロほどウエットスーツを着たまま走っていきます。私も二回自転車で往復したのですが、なかなか大変です。「青谷学」少人数で編成されていますので中型のバスや場合によってはタクシーを活用していますし、そのための予算をつけていただいております。生徒を自家用車に乗せることはほとんどしていません。あとは公共の交通機関を活用します。自転車にはヘルメットをかぶるように指導しています。

A (発表者1)：

外出については学校に届けることはしていますが、自転車を活用する場面ではいままで以上に「ヒヤリハット」の起こる危険性は高いと思いますので、安全対策については、今後の検討課題にしていきたいです。

Q：富山県立上市高等学校

(1)地域コーディネーターのお話をされていたと思いますけれども、どのように探されたのですか。

(2)キャリアアドバイザーは週30時間で、離職率の低下に繋がっているというお話がありましたが、具体的に言うと、どんな感じで離職率の低下に繋がっているのでしょうか。

(3)インターンシップを、生徒面談を通して企業探しをしていらっしゃるというお話だったと思うのですが、そのプロセスをもう少し詳しく教えていただければありがたいと思います。

A (発表者1)：

(1)本当に偶然と言いますか必然と言いますか、教員を退職されて地元の公民館長になられた方が本校に挨拶にこられたのがきっかけです。管理職も「地域コーディネーター」を探しており、出来れば学校にくわしい方がいいとのことで、無理を承知でお願いしたところ快諾いただきました。公民館の業務は週20時間なので空き時間に週一度のペースで来ていただいています。本当に幸運なことです。他校では「地域コーディネーターになってもらったけど、うまくいかないこともある」というふうに聞くこともあります。本校の場合は本当にたまたま偶然とはいえずうまくいっていると思います。

A（発表者2）：

(2) キャリアアドバイザーは週に30時間の勤務です。就職に関する生徒との面接をする時間を主に放課後を利用してかなり取っています。生徒の考えを現実はどう落とし込んでくるかというところが上手なところで、自分のイメージしている職種と、生徒のイメージしている職種をうまく生徒から聞き出して、具体的にこの企業だったら、おそらくこの生徒がイメージしているところに合うのかな、というのを上手につなげています。本来は教員がやるのがいいと思うのですが、なかなかそのスキルアップができていないこともあって、そこをキャリアアドバイザーが補っている形になっています。あと、企業と生徒が接する前に何ができて何ができないのかという、得手不得手に関する情報についても、企業とかなり綿密なすり合わせをしています。

(3) インターンシップについては本校では2年生で行っています。「自分がどの企業に行きたいのか？」ということに関しては、とりあえず生徒の要望を全部聞きます。例えば「スポーツのインストラクターになりたい」とか。キャリアアドバイザーがまず電話をして「インターンシップで受けてくれませんか」と、話を進めていきます。まず生徒の希望を中心に据えてそこに当てはめることから始まります。

ただ丁寧にすり合わせることも大事なのですが、「今年度はちょっとそれも変えてみよう」ということで、6つぐらいの企業に生徒を割り当てて企業側の意見を聞くという風に変えています。先ほど奥田が申したように、夏の時期は、就職とインターンシップがかぶるので、進路の担当が疲弊してしまいがちになっているので、インターンシップの方は少しやり方を変えながら、3年次生徒の就職活動の方に力をしっかり入れていきたいと考えています。いずれにしてもキャリアアドバイザーはこのような「すりあわせる」という業務に関しては、上手だなと思っています。

（発表者1）：

一つ補足しますと、2年次インターンシップの場合は、先ほどの「スポーツインストラクターになりたい」生徒に対して「どう見てもあなたは向いてない」と思っている、あえて行かせるということをやります。「やっぱり向いてないな」と自分で気づくことをきっかけにして新しい道を考えさせるためです。

ただ、3年次でそれやってしまうと、もう間に合わなくなるので、2年次までが肝だろうと思います。実は1年次からやるように言われているのですが、教師にダメと言われるのではなくて、自分で気づくような方法を仕掛けていくのは難しいと思います。その辺は企業側との長い付き合いを前提にして「本当に失礼なことをしちゃうかもしれないけど、2年生なのでお許しくださいます」といったことまでやっています。薄氷を踏む思いなのですが。

Q：三重県立あけぼの学園高等学校

ふるさと留学、県外生徒募集重点校になっておられるということですが、入学者選抜というのはどんな形でされているのでしょうか。本校もこういう側面がある学校なんですけれども、「下宿先が見つからない限りエントリーすらできない」といった縛りがあったりするのかとか、そのあたり教えてください。

A：発表者

選抜に関して、以前は推薦入試がございましたが、鳥取県は3年目になる「特色入試」という形で、いわゆる総合型に近いエントリー制のものに変わっております。

その総合型の選抜においては、全国区となっていてどこからでも受けられる。ただ一定の枠・制限はあるのですが、「それでまず向かってください」という形になります。学科試験を5教科中から3教科選び、その中の上位2教科の得点を使うという形です。他校ではプレゼンテーションをしたり、自分でやってきたことを語ったりする形が多いのですが、本校では入試の形態にしているというようなことがございます。

下宿に関しては、県の方ではそういう縛りを設けておりません。いわゆる寮や下宿に関しては、下宿でも構わないとなっています。下宿を作る時には30万ぐらいを出していただいて、下宿先に対しても整えるためのお金を少しいただけるであるとか、鳥取市の方で、月1万の補助が出るであるとか、もうそれぐらいが精いっぱいです。これが市町村合併によって青谷町が単独の町から鳥取市の一部になったということによる困難さです。

鳥取市の中に高等学校がいくつかあって、その中の一つという上での未来留学になってしまう。実は鳥取県で未来留学をやっているところは、岩美町や智頭町といった単独の町の中の一つの学校です。単独の町の学校は動きがものすごくスピーディで、「空き家もうちの町のものを使おうか」、「送り迎えは」とかいうようなことから「誰々にご飯を作ってもらって」というのも全然スピード感が違ってきます。下宿に関して、その寮に関しても下宿でもどちらでも構わないというのが結論です。

【第3分科会 指導・助言】

兵庫県立有馬高等学校

校長 小川 秀雄

小野高校の渡辺先生、青谷高校の奥田先生、本当にありがとうございました。地域との連携、企業との連携など、特徴的な取り組みを発表していただきました。只今のご発表をざっと振り返ってみると、例えば、小野高校さんでは、「高校生レストラン」「そば打ち」「沖縄県の学校との交流」などの事例がありました。また、青谷高校さんでは、ICTを活用した取り組みが特徴的でした。先ほどの質問にも出ました県外の生徒への対応、それから下宿等の運営であったり、キャリアパスポートを使ったりした指導がありました。特徴的なところで言いますと、サーフィンとか石包丁の作製とか、地域コーディネーターの活用が挙げられます。両校とも地域との連携、それから企業との連携、もしくは市・町との連携が特色となります。こういったことが、一つの総合学科の強みであり、課題でもあります。私も実は、この4月から有馬高校で勤務していますが、その前も県北部の総合学科高校で校長を務めていました。そこは、本当に少子高齢化が進んでおり、朝来市というところにある学校でしたが、市も「高校生がいなくなると、街が非常に暗くなり寂しくなる」ということで、市の予算で地域コーディネーターを雇ってもらいました。丁度、朝来市に移住してきた方で、週に3日間学校で勤務をしていただき、市と学校とのパイプ的な役割を果たしていただきました。先ほどの質問にもありました「正しい大人」という表現は、なるほどと思いましたが、市や行政機関をある程度通しておけば、先ほどあったような「ややこしい大人」が学校現場に入ってくる可能性が低くなるのではないかと思います。生徒の企業見学先にも、もちろん最終的には教職員も同行しますが、まずはコーディネーターが予め調整をしていただき、円滑に実施することができました。また、通級による指導については、先生方の学校も総合学科ですから生徒の層や幅が広く、通級による指導が不可欠だと考える先生方も多いと思います。特性の強い生徒や離職率の話もありましたが、本校も今年度から「通級指導の拠点校」になりました。特別支援学校の特性の強い生徒を対応してきたプロパーの教員が、3年間、人事異動で本校に来てもらって通級による指導を開始しています。本校は定時制も併置していますが、全日制では5名の生徒が通級による指導を実施しています。また、定時制も3名の生徒が通級による指導を実施していますが、保護者からの評価も非常に高く、皆さんの都道府県でも、通級による指導が広く導入されるのではないかと思います。キャリアパスポートの話も出てきましたが、小・中学校までは、キャリアパスポートは確実に引き継がれ指導の一助となっていますが、高校では担任が一旦預かって、そのまま眠ってしまっているというケースが多いと感じます。そういうところを改善していく必要があると思います。特に、小・中学校の先生からは「高校の通級指導がなかなかわからない」「特別な支援が必要な生徒に対して、高校はどのように取り組んでいるのか」という声もあります。そのような中、地域、企業、それから市・町、あと小・中学校との連携が重要となります。丁度、本校の道挟んで前に、三田小学校がありますが、向こうの総合的な学習の時間に本校の教職員や生徒が参加して、小学生に勉強を教えました。そんなことを夏休みにやっていて、小学生への対応も生徒たちは学んだのではないかと思います。「将来、有馬高校に行ってみたいな」と思う小学生が増えることも期待できます。ここには校長先生方も数多くいらっしゃると思いますが、ある意味で、もうちょっと長いスパンで生徒募集や欠員数を少しでも削っていく努力をされればいいのではないかと思います。それから、小野高校さんも平成10年、青谷高校さんも平成11年、総合学科に改編されたということです。本日お集まりの先生方の学校も、丁度、その頃だと思っています。先ほど、奥田先生から「時代が総合学科に追いついてきた。産社とか総探とか、いわゆる探究活動が盛んとなり、時代が追いついてきた」と言われていましたが、私もそう思います。しかしながら、「うちの産社どうするんや？総探どうするんや？課題研究どうするんや？」と模索している総合学科高



校も数多くあります。また、普通科や職業学科から異動してきた先生方が、「産社や総探の時間は負担である」と感じているケースが結構あります。探究活動については、全ての高等学校で取り組まれているので、探究の負担は次第に薄れていくとは思いますが。そういう中で、今までの総合学科の取り組みの30年間で振り返る必要があると思います。平成5年2月12日にいわゆる「高等学校教育の改革の推進について第四次報告」が出ました。それに基づいて、文部省初等中等教育局長の通知が平成5年3月22日に出され、各都道府県で普通科、専門学科に並ぶ新たな学科として「総合学科」が設置されました。その通知文を見ると、「おっ」と感じるがあります。この場には、総合学科推進部長の先生方もいらっしゃると思いますので、是非、若い先生方にも伝えて欲しいのですが、その通知文の中に「総合学科を設置する意義」という項目があります。その中に「学力を単なる知識の量として捉えることから生じる、いわゆる偏差値を尺度とする高等学校間の序列意識を打破する契機となることが期待できる」「総合学科が今後、高等学校教育改革のパイオニア的役割を果たすことが期待される」などの表記があります。これらは、私たち総合学科の教職員にとって勇気づけられる力強い表現です。総合学科高校が取り組んできたことを後押ししてくれる本当に素晴らしい表現だと思います。さらに、「生徒一人ひとりに対し、自分の興味・関心や進路などに基づく主体的な学習を促し、それぞれの個性を最大限に伸長させるための選択の幅広い教育を推進していくことが大切である」などの表記もあります。停滞している総合学科高校の取り組みや新たな総合学科高校の取り組みを推進するにあたって、30年前の古い答申なんですが、是非、この答申に立ち返ってもらい、「私たちが取り組んでいる教育は、こういうことなのか」「本校がやっていることはこういうことなんだ」ということをわかっていただければ幸いです。

第4分科会 「総合学科としての特徴的な取組・特色ある取組について」

【発表1】香川県立観音寺総合高等学校 教諭 岩中 妙子

「地域で活躍できる人材育成を目指したESDの推進」

【発表2】北海道清水高等学校 教諭 餌取 和臣

「特色ある探究活動と地学協働を目指して」

【指導・助言】広島県立高陽東高等学校 校長 土屋 研



地域で活躍できる人材育成を目指したESDの推進
香川県立観音寺総合高等学校 教諭 岩中 妙子

目次

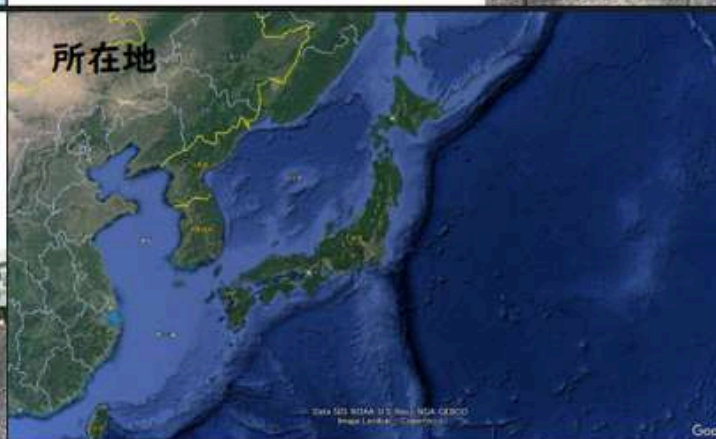
1. 本校の概要
2. ユネスコスクールとしての取組
校内の組織体制・環境整備
学校独自の取組
フィールドワークに重点をおいた探究活動と
それを生かした地域に愛着を持ち活躍できる
生徒育成への取組
3. 今後の課題



・ 本校の概要



所在地



1. 本校の沿革

【香川県立観音寺中央高等学校】

【香川県立三豊工業高等学校】

大正12年 観音寺町立観音寺商業学校創立
昭和19年 香川県立観音寺商業学校となる
23年 香川県立観音寺女子商業高等学校と統合し、
24年 香川県立観音寺第二高等学校となる
30年 香川県立観音寺商業高等学校と改称
32年 香川県立観音寺商業高等学校と改称
42年 食料科が調理師養成施設と指定される
平成 6年 香川県立観音寺中央高等学校と改称
普通科（国際文化類型を含む）、
19年 商業科、食料科の生徒募集停止
総合学科新設
24年 ユネスコスクールへの加盟が承認
29年 開校



【香川県立観音寺中央高等学校】

【香川県立三豊工業高等学校】

29. 4. 1 香川県立観音寺中央高等学校と
香川県立三豊工業高等学校とが統合して、
香川県立観音寺総合高等学校となる



特色と設置学科

工業科



機械科
電気科
電子科

総合学科

人文・国際系列
自然・環境系列
生活科学系列
商業系列
食物系列

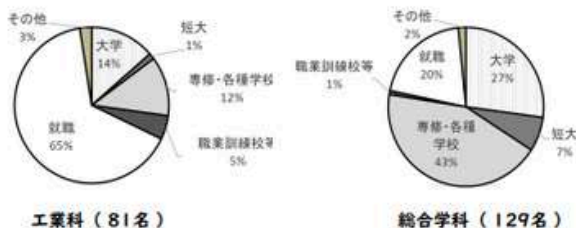


スクールポリシー

地域に貢献するものづくりスペシャリストの育成を
めざす工業科と将来の進路や自分の適性に応じた多様
な学習ニーズに対応できる総合学科の教育を融合し、
一人ひとりがお互いの個性を尊重しながら切磋琢磨す
ることで明日の社会の担い手として主体的に行動でき
る、心豊かでたくましい人間の育成をめざす。

進路状況

令和6年3月卒業生の進路状況



部活動

赤下線 R4～6年全国大会出場

<運動部>

硬式野球・陸上競技・新体操・バレーボール・バスケットボール
水泳・ソフトテニス・サッカー・ラグビー・卓球・バドミントン
柔道・剣道・弓道・登山・少林寺拳法

<文化部>

機械技術・電気技術・電子技術・メカトロ・邦楽・吹奏楽・演劇
放送・美術・写真・書道・手芸・文芸・茶華道・自然科学
ビジネススキル・新聞・応援



観音寺市の現状

内部環境	プラス要因	マイナス要因
	強み(Strengths) - 市内に点在する歴史的建造物や景観が比較的高い - 自然環境が豊か - 自然環境の保全が比較的進んでいる - 伝統的行事や祭りが盛んである - 近年、観光客の増加により観光資源が豊富 - アムステルダム等の国際的な文化 - 第一産業が盛ん - 観光資源の活用が積極的 - 市内各地等に歴史的建造物や景観が豊富 - 観光資源の活用が積極的	弱み(Weaknesses) - 市内で子どもたちが遊ぶ場所や施設が少ない - 観光客の増加により、交通渋滞や騒音が増えている - 観光客の増加により、環境汚染やゴミ問題が増えている - 観光客の増加により、地価が上昇している - 観光客の増加により、交通渋滞や騒音が増えている - 観光客の増加により、環境汚染やゴミ問題が増えている - 観光客の増加により、地価が上昇している
外部環境	機会(Opportunities)	脅威(Threats)
	機会(Opportunities) - 新型コロナウイルス感染症による社会・観光の転機 - 観光客の増加により、観光資源の活用が積極的 - 観光客の増加により、地価が上昇している - 観光客の増加により、交通渋滞や騒音が増えている - 観光客の増加により、環境汚染やゴミ問題が増えている - 観光客の増加により、地価が上昇している	脅威(Threats) - 人口減少・少子高齢化の進展 - 市内に点在する歴史的建造物や景観の保全が困難 - 観光客の増加により、交通渋滞や騒音が増えている - 観光客の増加により、環境汚染やゴミ問題が増えている - 観光客の増加により、地価が上昇している

2. ユネスコスクールとしての取組



ユネスコスクールとは？

01 知る	02 為す	03 人間として生きる	04 共に生きる
ことを学ぶ 伝統的な世界の知識と文化、将来の学習のための基礎を学ぶ	ことを学ぶ グローバルな社会や文化の理解を深め、多様な文化や価値観を尊重する	ことを学ぶ 個人や社会が平和的に共存するための知識とスキルを学ぶ	ことを学ぶ 個人や社会が平和的に共存するための知識とスキルを学ぶ

UNESCO, 1999. Learning: the treasure within に基づくACQ内容

ユネスコスクールの目的と活動テーマ

- ユネスコ憲章と国連憲章に基く理念として、基本的人権、人間の尊厳、ジェンダー平等、社会的進歩、自由、公正、民主主義、多様性の尊重、国際的な連帯などを推進すること。
- ユネスコの任務である教育・文化・科学・コミュニケーションの分野における平和のための国際協力に資する「アイディアの実験室」として、組織や人材の能力開発と政策やモデルの構築に貢献するために、国際間・地域間協力を進めること。
- 新設・創設的な教育手法を開拓し、グローバルな概念を学校レベルの実践に落とし込んで実践的機能を果たすことにより、教育制度や政策の変化を促すこと。
- 国際ネットワークの一員として、同じような志を持つ世界中の学校と知見を共有し、パートナーシップを育むこと。
- 国際社会の構成員であるという意識を持ち、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献すること。特に、SDGsの目標4（教育）に関連して、以下のテーマに重点的に取り組むこと。
 - 地球市民および平和と非暴力の文化
 - 持続可能な開発および持続可能なライフスタイル
 - 異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重



新学習指導要領 前文（初・小・中）

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を他者として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く、持続可能な社会の担い手となることができるようすることが求められる。出典：小学校 平成29年告示（文部科学省 2019）p.15

ESD

①学校内の体制・環境整備

各クラス2名ずつのESD委員による学校行事運営検討会議



①学校内の体制・環境整備

学年毎・全校生に向けた啓発



地域の歴史・文化講座



学年毎のオリエンテーション

②学校全体の取組

- ア “届けよう、服のチカラ” プロジェクト
- イ “Table For Two”
- ウ こども食堂応援プロジェクト
- エ S-MART

ア “届けよう、服のチカラ” プロジェクト



ESD委員からの呼びかけ



校外外に回収箱を設置



仕分け→箱詰め→配送

イ “Table For Two”

「二人のための食卓」…世界規模で起きている食の不均衡を解消



実習風景

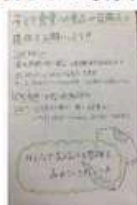


ランチの一例



ウ こども食堂応援プロジェクト

ESD委員が生徒に呼びかけ、家庭で不要になっている食料品や学用品の回収をして寄付する取組



ポスター制作



活動風景



エ S-MART



③フィールドワークに重点を置いた探究活動

ア 一年次「産業社会と人間」
(ア) 3つの学び

- a. 自己の在り方生き方の探求



③フィールドワークに重点を置いた探究活動

ア 一年次「産業社会と人間」
(ア) 3つの学び

- a. 自己の在り方生き方の探求
- b. 自己啓発にかかわる体験的な学習や活動



共育型インターンシップ

企業も学生も「共に育つ」
新しい学びの場を創出

③フィールドワークに重点を置いた探究活動

ア 一年次「産業社会と人間」
(ア)3つの学び

- 自己の在り方生き方の探求
- 自己啓発にかかわる体験的な学習や活動
- 進路学習の基礎を培う



③フィールドワークに重点を置いた探究活動

ア 一年次「産業社会と人間」
(イ)共育型インターンシップ (インタビューシップ)

説明会
グループ対話
対話後の発表



事前学習
マナー講習会
実習先調査



③フィールドワークに重点を置いた探究活動

ア 一年次「産業社会と人間」
(イ)共育型インターンシップ (インタビューシップ)



実習風景

③フィールドワークに重点を置いた探究活動

イ「総合的な探究の時間」
(ア)探究活動

発表風景



タブレットを用いての調べ学習

校外活動



③フィールドワークに重点を置いた探究活動

イ 2・3年次「総合的な探究の時間」
(イ)進路活動

- 2年次
適性検査による自己理解
職業別体験
- 3年次
4月 小論文指導
5月～6月 進路ガイダンス
(進路別に実施)
7月～ 面接指導



③フィールドワークに重点を置いた探究活動

ウ 外部機関との連携

(ア)地元の企業 (中小企業家同友会) との連携「包括連携協定」



(イ)地域の専門学校 (穴吹学園) との連携「高専連携協定」



③フィールドワークに重点を置いた探究活動

ウ 外部機関との連携

(ウ)観音寺市や地域の方々との連携



地域と連携した協同活動

(ア)「瀬戸内国際芸術祭2022伊吹島開催」参加

瀬戸芸とは？

島々の問題

- 急速に進む高齢化
 - 歴史的負の遺産
- 「海の復権」をテーマに
問題の解決策としての瀬戸芸



(ア)「瀬戸内国際芸術祭2022伊吹島開催」参加

瀬戸芸2019伊吹島秋会期参加での反省



盛り付けの補助、観光客の送迎
—もっと生徒が成長できる参加を—



今回は生徒のより主体的な取組を目指すことに

2021年4月～ 伊吹島訪問開始、
次年度の瀬戸芸に向けての取組開始

2021年度（開催1年前）の取組



しかし…

オフィシャルツアーへの参画はできないことに…

機械科とコラボしてくれるアーティストも
見つからないまま…
せっかく伊吹島ツアーについて探究してきた
生徒達の努力が水の泡に…

伊吹島の人たちや観音寺市に相談し、
穴吹学園の協力も得て、

学校と地元旅行会社とのツアー企画に変更！

2022
観音寺総合
高校
各科系列
と
取組



機械科

島の人たちの幸せを支える作品製作



商業系列

島の魅力と課題を学び
発信できるツアーの企画



食物系列

島の風土を活かした
食べて学べるお祭りの開催



教員

生徒の成長と地域貢献を支える

(ア)「瀬戸内国際芸術祭2022伊吹島開催」参加

(a)機械科の取組

- 卒業生のほとんどが 地元に残り地域を支える - 機械加工技術（主に金属 製品）の修練 地元を支える 若者を輩出	- 駅前商店街の行燈製作 - 地元五郎の墓の水車製作 - 綿繰り機の製作 - 看板製作 等 地域貢献活動	- 支援学校への支援機器製作 提供 - 野球部や陸上部の物品補修 改善 - 発明くふう展での受賞 - 金属椅子などの製作販売 課題研究での 作品 制作
---	--	---

活動内容

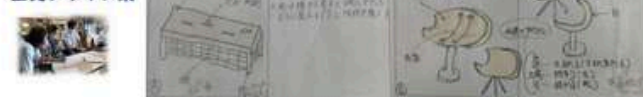
アーティストとのコラボで島の人たちの生活を支える作品制作

(a)機械科の取組

島の自治会長との懇談 KASAさんとのフィールドワーク



生徒デザイン案



イリコベンチ



船の安らぎ





感想

瀬戸内国際芸術祭に関わることができ、伊吹島の人や観光で訪れた人に喜んでもらえた

KASAさんや地域の方との交流などかけがえない経験ができた。

ものづくりに対しての考え方や協力する大切さを学んだ

伊吹島に今後も残る作品作りができた



(ア)「瀬戸内国際芸術祭2022伊吹島開催」参加

(b)総合学科食物系列の取組

- ・和洋中製菓をプロの講師より学ぶ
- ・フルコース制作、飾り切り等

プロの調理師を養成

- ・地域の食材をもとに「三島の宝（焼き菓子）」を開発
- ・山の幸・海の幸を使用した「毎月お弁当」でふるさとを表現し販売等

食の力を発信

- ・Table For Twoへの取り組み
- ・ローソンとのコラボ企画
- ・お魚さばき教室等

その他の取組

活動内容

島の風土を生かした食べて学べるお弁当の開発

レシピの開発（前年度より）

観音寺市・三豊市の季節の食材を生かした

海の幸

海の幸・山の幸弁当



二段弁当



一段弁当

分科会4
1-6

献立の変更例

海の幸弁当

ばら寿司



いりこめし



伊吹いりこを使用

課題解決に向けて

①弁当箱の工夫



経木折（きょうぎおり）

経木とは薄い木の板
主にスギやヒノキが用いられる

- ・ほのかな木の香り
- ・抗菌作用
- ・余分な水分を吸う

課題解決に向けて

②調理の工夫



料理の汁気をしっかり切る

課題解決に向けて

③盛り込みの工夫



- ・トレイに1人分ずつの料理を分ける。

生徒の手書きの説明

山の章



「山」の章
山は、自然の恵みと人間の営みの調和を象徴しています。山頂からは、美しい風景が一望できます。山は、私たちの生活に欠かせない存在です。

海の章



「海」の章
海は、私たちの生活に欠かせない存在です。海からは、新鮮な魚介類が獲れます。海は、私たちの生活に欠かせない存在です。

完成



(ア)「瀬戸内国際芸術祭2022伊吹島開催」参加

(c)総合学科商業系列の取組

- ・R4年度
- ・創立100周年
- ・全商簿記一級取得など専門分野での高い学び

地元から深い



- ・まち歩きツアー企画
- ・かがわツーリズム
- ・VRコンテスト受賞
- ・全国路地裏サミット参加

地域活性化の取り組み



- ・行政や企業と連携した自動販売機企画
- ・地元商店とコラボした商品開発販売

高校生企画を具現化



活動内容

島の魅力と課題を学び体験できるツアーの企画

フリーペーパー班

★



表紙



作者おすすめページ



手ぬぐい



旗



腕章



ガイド班



募集人数……………各日40人
日にち……………10/29(土), 11/5(土)

お客さんの感想

5. 今後作って欲しいコースなど、ご意見を聞かせてください!

「帰郷から大層な思い出です。また、企画はいいですね。」

5. 今後作って欲しいコースなど、ご意見を聞かせてください!

「今回のコースが良かったです。」

5. 今後作って欲しいコースなど、ご意見を聞かせてください!

「また、今日のように、高校生の存在が、いいですね。」

5. 今後作って欲しいコースなど、ご意見を聞かせてください!

「3年後の10月まで、こんな素晴らしい活動が、続くといいですね。」

「今回のコースが良かったです。」

「帰郷から大層な思い出です。また、企画はいいですね。」

「今回のコースが良かったです。」

「帰郷から大層な思い出です。また、企画はいいですね。」

「今回のコースが良かったです。」

「帰郷から大層な思い出です。また、企画はいいですね。」

「今回のコースが良かったです。」

「帰郷から大層な思い出です。また、企画はいいですね。」

「今回のコースが良かったです。」

「帰郷から大層な思い出です。また、企画はいいですね。」

「今回のコースが良かったです。」

「帰郷から大層な思い出です。また、企画はいいですね。」

「今回のコースが良かったです。」

「帰郷から大層な思い出です。また、企画はいいですね。」

「今回のコースが良かったです。」

エ 地域と連携した協同活動

(イ)「ONSENガストロノミーウォーキングin観音寺」への参画



パンフレット作成



打合せ風景



エ 地域と連携した協同活動

(ウ)ジモト×高校生×buzz



地元高校海洋水産科が開発したサヨリの調理実習風景 地元高校海洋水産科との意見交換

3. 今後の課題



①探究活動の継承・発展

ゴールの可視化、共通意識の醸成
→探究活動論文の蓄積

②「総合的な探究の時間」を軸とした カリキュラムマネジメント

「総合的な探究の時間」を中核とした
カリキュラムマネジメント

地域のESD拠点校として
組織的継続的に取り組める工夫



【第4分科会 発表1 質疑応答】

Q：北海道大空高等学校

2つ質問です。2つというのは、共育型インターンシップと、この瀬戸芸への参加について伺いたいと思います。いずれも新たに始められた取り組みだと思うのですが、誰かの思いから始まったというふうに拝察します。「これやろうよ」と。それがどう組織的に動けるようになっていったのか、実態としてそれぞれ何人ぐらいの先生がどのように関わりを持っているのか、授業内なのか授業課題なのか。こういったことについてそれぞれ教えてください。



A：発表者

瀬戸内国際芸術祭（以下、瀬戸芸）への参画が先なのですが、私はそこにまずボランティア係として生徒と参加しており、そこで「学校で専門的なことを学んでいるのだから、その学びを生かして生徒に主体的に取り組ませたい。言われたことをただやるだけでなく、生徒が考えたことをすることでやりがいを持てるようにしたい」と考えるようになりました。私は係として生徒を2か月間毎週土日に引率しているなかで、周りの先生方や行政の関係者、伊吹島の方々にその悩みを話してきました。この人なら聞いてくれそうだという方を直感的に選んで聞いてもらっていたように思います。伊吹島の自治会長さんや有識者の方々、瀬戸芸関係の行政の方、校内の商業系列や食物系列、機械科の先生方、校長先生や教頭先生。皆さんが「そうだよね、何とかならないかな」と親身になって聞いてくれました。そんな中、校長先生が「瀬戸芸の総合ディレクターとの意見交換の機会があるから一緒に行かないか」と誘って下さいました。そしてその会に参加し、本校でできること、生徒たちに世界的なイベントに参加させて成長させたいことなどを話しました。食物系列は調理師免許も取れるようなレベルの高い学びをさせていること、商業系列は元々街歩きイベントに参画したりするなどツアー企画の土壌が整っていること、機械科は様々な作品制作技術を持っていて世界的アーティストの方とコラボして地元に残せたら素敵じゃないかということなどです。そしてディレクターの方が興味を持ってくださり学校にお招きして各科長とも話をし「やってみよう」という話になりました。そこからは生徒たちに何ができるかを考えさせたり行政にプレゼンして予算取りをしたり、伊吹島の方々との交流を深めたり、地元専門学校との高専連携事業を始め専門的技術指導を仰いだり、ということを進めてきました。私の校内での立場も特別活動部のボランティア係から教育研究部の地域連携係に、そして教育研究部長と変わってきました。組織としても「こういうことをしたいからこういう人を入れてください」と管理職の方をお願いすることもできるようになってくるなど整ってきたと思います。

共育型インターンシップは、香川県立三木高等学校の取組に倣って、本校も今年度から取組を始めました。中小企業家同友会という県内には1,500の中小企業があるのですが、そこと連携をして、生徒が夏休みの間の数日間を会社の企業理念や会社の社会貢献事業等についてインタビューをしながら職業体験もさせてもらい、職業観や勤労観を醸成することをねらいとしています。企業の方も若手社員の育成であったり県内企業に高校生に興味を持ってもらったりというのがねらいのようです。

Q:

それでは、産社担当の先生が主体となって動いているということでしょうか？

A：

三木高校の発表を見に行き、すごく生徒が成長しているのを感じ、「やってみたいです」というのを校長先生に話し、それが去年のことで、じゃあやってみようかということで、三木高校からノウハウや資料をいただいて、産社担当の先生方と取り組んでいます。

Q:北海道清水高等学校

大変素晴らしい実践で、このように各系列が融合しながら、一つの行事を動かしていくのは、まさに教科横断的な取り組みなのではないでしょうか。そんな中ですね、瀬戸内国際芸術祭について、機械科及び食物系列、商業系列の生徒さんたちが、主体的に関わっているということが発表にありましたが、教育課程内、つまり授業のカリキュラムの中で、ある程度こういった催しを教科担任の指導の枠の中でやっているのか、もしくは、放課後にやっているのかという部分や、いろいろ作られたりすると当然費用がかかってくると思いますが、コストの部分、あるいは先生方が島に行かれる時、どのような運営体制だったのかを知りたいです。

A：発表者

これだけのことをするには資金がかなりかかります。ということで前年度初めから「こういうことをしたいです」と県推進室や市の方に予算をいただくための企画書を提出し生徒の活動の様子を報告したりしていました。伊吹島へのフェリー代、機械科とアーティストの方との作品制作費用など前年度の10月までにどのような目的でどのようなものが必要でどのくらいの金額がかかりそうなのか。また、予算が確定した3月頃から本格的に校内への理解協力も仰いでいきました。実践については、探究や課題研究などの授業内でも行いますが、メインは土日や生徒の休みの日です。フィールドワークをメインにしてもらいたいのので、土日やグループで都合を合わせて行うのだと生徒に言っています。生徒が「どこに相談したらいいかわからない」という時には「こういうような協力をしてくれる所があるし、専門的な情報を手に入れたいのであれば、ここに電話すればいいから、あとは頑張りなさい」というふうにしています。

Q：

予算は県費ですか。

A:

瀬戸芸については、県と市の推進室から出してもらいました。

Q:

課外を含めた指導は、総合学科長であったり、教育研究部の先生方が窓口となって指導されているのか、それとも系列で授業を持っている先生が指導されているのでしょうか。

A：

主に系列の先生方に任せています。初めて探究を担当される方は、フィールドワーク先を紹介したら自分もついて行かないといけないと負担に思われるようですが、生徒達だけで行ってもらって構わない、ただその橋渡し役はお願いしますと伝えています。

Q: (司会者)

テーマが地域で活躍できる人材育成ということですので、これまでの取り組みによって生徒の変容み
たいなものとして、何か具体的に感じられることはないでしょうか。

A: 発表者

瀬戸芸の取組をするまでは、探究の指導をどうすればよいのか我々教員の方の自信がなく私たちも楽しめていなかったような気がします。しかし瀬戸芸を通して生徒の成長と逞しさを実感し、探究の指導について再考させられました。それからは生徒に先輩たちの実践について説明しながら、「失敗してもいいからとにかくやってみよう」ということを伝えるようになりました。身の回りの課題に向かっていろんなことを試してみても自分たちなりの結論を出すこと、正解ではなく納得解を出していくことの大切さを伝えられたらと思っています。



本日の 発表資料

特色ある探究活動と 地学協働を目指して

北海道清水高等学校
教諭 鯉取 和臣

第29回全国高等学校総合教育研究大会北海道大会
第4分科会 総合学科としての特色ある探究活動
2024年11月1日

総合学科
北海道清水高等学

目次

- 1 地域と学校の概要
- 2 総合学科の取組
- 3 地域との連携と成果
- 4 育成する資質・能力
- 5 今後の展望と課題

北海道 十勝 清水町のご紹介

- 気候**
- 春 比較的温暖
 - 夏 カラッととした良い天気
 - 冬 マイナス20度
日高山脈で雪雲が遮られる
- 産業・文化**
- 酪農と農業の町
 - 漁業一筋ゆかりの地
 - アイスホッケーが盛ん



とかち晴れ

北海道の広さを実感できる最大の見学コース

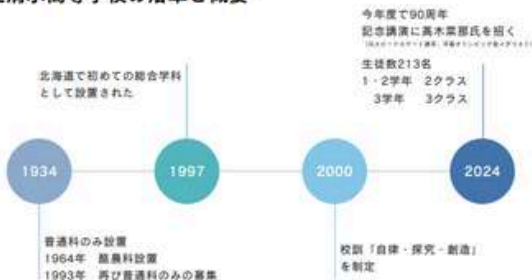


食材の宝庫

小麦、乳製品、小豆
ビート（甜菜）
肉、農産品、ワイン

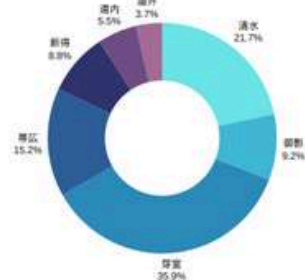


北海道清水高等学校の沿革と概要



出身中学校

- 清水町内から30.9%
- 厚岸町から35.9%
- その他から33.2%





総合学科の取組

令和7年度入学生教育課程

4つの系列

社会創造・科学技術 食品ビジネス・保健福祉

年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の国語	基礎文化	歴史総合	数学Ⅰ	数学Ⅱ	科学と人間生活	体育	保健	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ
2年	基礎英語	基礎英語	公共	化学基礎	体育	保健	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ
3年	基礎英語	基礎英語	公共	化学基礎	体育	保健	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ

各系列の詳細

社会創造

地域や社会創造の基礎を学び、人文的・社会的な視点から必要な知識と教養を身に付ける。

清水町議会への参加や観光協会の高校生理事としての活動など、地域課題の解決に向けた取組を行う。

食品ビジネス

食品産業や情報ビジネスの基礎を学び、職業人として必要な知識と教養を身に付ける。

各種コンテストへの出品や受賞経験があり、北海道・十勝の食材を活かしたプロジェクトを通じて地域貢献を目指している。農業（ビジネス）関連の資格取得や情報処理技術の習得も支援している。

科学技術系

自然界や実生活で働く原理や法則の基礎を学び、理科的・数学的な視点で物事を考える力を養う。

「地域資源活用」など、地域と連携した課題解決型の学習や、農業や工業科目を通して、社会人として必要なスキルを養う。

保健福祉

保健福祉への関心を高め、基礎的な学習を通して職業に必要な知識と教養を身に付ける。

地域の介護者との連携による学習や、健康・スポーツ教育を通じて総合的な生活力の育成も目指している。



地域との連携と成果

"ひと"と繋がる



清水町高校生模擬議会

清水町議会が議会活性化と市民の声を反映する場として、本校との協働を推進。令和7年度から始めた取組。真摯な議論と同様に、町長、副町長、教育長をはじめとする議員職の方々が審判を行っている。

毎年、生徒たちは地域の課題について話し合い、自分たちで解決できること、町や地域の協力が必要なことについて検討。令和6年度には、町の課題に即応を促す「公衆の意見の表明書」に取り組み。この結果をもとに、議会の一般質問では、議員の立場から重要な点や課題を明確に提示した。また、観光に関しては、SNSの利用拡大やマスコットキャラクターの有効活用を提案した。今年度は、高齢者の健康増進の方法や、町内の施設の整備などについて一般質問を行う予定である。



十勝清水町観光協会

高校模擬議会の取り組みが認知され、清水町観光協会会長と事務局を務める清水町観光協会からの要請で、令和5年度から本校生徒が清水町観光協会の理事として活動に参加している。

高校生視点からの能力を高めるため、クラウドファンディングを活用したオリジナルグッズの制作や、学校での観光協会店舗の出店、札幌での物産展、地元観光協会とのコラボ商品のコーディネート、駅前ビジョンマップの制作、観光協会HPの作成などに取り組んでいる。

これらの活動には、観光協会の職員や、商工会に所属する若手クリエイターなどが協賛に参加し、企画を直接大人に相談・提案する機会も設けられている。



地域資源活用

清水町の駅前や町道沿いの花壇に、生徒たちが栽培したサルビアやマリーゴールドなどの花を飾っている。

また、「しずく園芸」なども園芸の学びを深め、収穫イベントを通じて交流を深めている。生徒たちは農家の学びを深め、子どもたちにも伝える機会を。この園芸の学びを深め、子どもたちにも伝える機会を。この園芸の学びを深め、子どもたちにも伝える機会を。



食品製造

十勝清水町農産物協会ははじめとする十勝の各団体が主催する食に関するイベントに出店し、産果農家の場やマシメント実習の機会として積極的に参加している。さらに、学校側では一般来場者にビザを提供し、その利益を後日清水町へ寄付し、図書館入館などに充てている。



介護職員初任者研修

保健福祉系に所属する生徒は、介護に関する知識や技術を習得するため、介護職員初任者研修の課程を修了している。本校の福祉・家庭科教師に加え、地域の社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、理学療法士、看護士などの、約15名の専門家が講師として講義や演習を行い、実践的な学びを深めている。また、実習施設としては、社会福祉法人清水別山学園の「せせらぎサービスセンター」や「特別養護老人ホームせせらぎ荘」を利用させてもらっている。



育成する資質・能力

地域社会で実際に役立つ力を育み、将来の多様なキャリアに向けた基盤を築く



社会創造

農産物産出や観光協会との連携を通して、社会課題への探究力やコミュニケーション能力を育む。



科学技術

最先端技術を活用した研究や実習で持続可能な農業の知識と技術を習得し、問題解決能力と創造力を高める。



食品ビジネス

地域資源を活用した商品開発に取り組み、企画力やマネジメント能力を養う。



保健福祉

介護職員初任者研修を通して、実践的な福祉スキルと共に地域貢献の意識を深める。

北海道清水高等学校 Hokkaido Shimizu High School

今後の展望と課題

展望

地域とのさらなる連携により学びを深化させ、清水町と十勝地方の発展に寄与する教育を推進していく。

課題

生徒一人ひとりの学習進度に応じた指導のさらなる強化が必要。教員数の減少に伴う科目数の減少により、教育課程編成の幅が狭まっている。

対応策

フィールドワークを主体とした教科横断的な科目の設置や、系列の見直しが行われている。そのためにも生徒や地域のニーズを把握する。



北海道清水高等学校



〒089-0123
北海道十勝清水町北2条西2丁目2



0156-62-2156



www.shimizu.hokkaido-c.ed.jp



shimizu-jim@hokkaido-c.ed.jp
kazu3101@hokkaido-c.ed.jp

【第4分科会 発表2 質疑応答】

Q：北海道大空高等学校

2週に1回は役場の方が来てくださる、観光協会ですかね、町の方が来てくださる。それが同じ方が繰り返してこられるのか、それとも別人が来られるのでしょうか？その方への謝礼が発生しているのでしょうか。発生しないとしているならば、どこからそういう歴史ができていると文脈ができたというか、熱が高まったのか、その秘訣を教えてください。



A：発表者

先ほどの動画でも触れましたが、商工観光課が観光協会の事務局を担当しています。これはPTAのような役割です。観光協会は月に一度理事会を開いていますが、実際の活動は商工観光課の事務局が中心となって行っています。学校の授業に来ていただいているのではなく、授業内で観光協会の理事としての打ち合わせを行っているという形です。謝礼は発生していません。生徒が観光協会の理事を務めており、その場が学校であることをうまく活用しています。また、観光課の課長も「もっと高校生を活用したい」と考えており、双方の意見が一致したことで、今年度からこのような形が実現しました。

Q：(司会者)

学校の魅力を高める、その背景に、生徒の減少という面があって、魅力を高めて生徒を確保することがどの学校にもあると思います。そのためには、魅力的な取り組みをするだけで終わらずに、それをどうアピールしていくかということが大事かと。特に北海道という、そういうふうには学校の生き残りを図る取り組みの先進地域で、町立とかへの移管とか、あの全国にない取り組みをされているという。北海道、そういう先進的な取り組みをされているということで、これは面白い取り組みだなと地域のアピールということで、これは面白いというものを何か事例でも紹介していただけたらありがたいです。

A：発表者

清水町の広報について、毎月発行される広報誌で高校特集を組んでももらいました。町としても、高校が一校もなくなることの重要性に気づき始めています。人口が減少している中で、それぞれの生徒の取り組みを紹介することで、町民の関心も少しずつ深まってきたのではないかと思います。

過去には、地域の人々が清水高校に対して少し負のイメージを持っていたこともありましたが。今の保護者世代に対して、「そんなことはない、今の生徒たちは素晴らしい」とPRする必要があります。そのために、動画やビジュアルイメージを使って、中学生にアピールしていくことが重要です。実際、私たちの生徒はとても良い子たちです。十勝地方は穏やかで、知らない大人が来ても、みんな明るく「こんにちは」と元気に挨拶してくれます。このような雰囲気も、徐々に良くなってきていると感じています。

昨年度までの取り組みとして、高校生に広報を作成させる試みも行いました。本校の新聞局や生徒会が年に一度、町の広報の半分を使わせてもらい、地域に知ってもらうための活動の一環です。また、十勝帯広にはFMジャガというFM局があり、そこで取材を受けて放送してもらっています。観光協会の活動も同様です。

やはり、先生方一人一人が「つながろう」という気持ちを持つことが大切です。それが形になっていくことで、生徒にもその思いを伝えられるのだと思います。多くの先生がこの取り組みを行っており、それをどうつなげて、どうPRしていくかが今後の課題です。

【第4分科会 指導・助言】

広島県立高陽東高等学校

校長 土屋 研

自校用に作ったスライドを使いながら、まとめにさせていただきます。お二方の発表、まず観音寺総合高校の発表。先生自身がど真ん中に居座って、ボランティア活動から5年ぐらいの取り組みになりますかね。それがつながり、学校として全体で取り組めるようになったというお話でした。一方、北海道清水高校について、昨年度から町の方に評価され認知され、今から始まっていく取り組み、系列の点が線になり、これからのところが楽しみだなという感じで聞かせていただきました。昨日来、視学官の話もありましたけれども、こういった時代だからこそ、総合学科の強みを生かしていかなければいけないのではないかと思います。話は、広島県



の私が所属する学校のことになるんですけれども、昭和40年代に全国にニュータウンが、大阪に千里ニュータウンができ、次に多摩ニュータウンができ、その3つ目に中四国で最初にできたのが、本校のある高陽ニュータウンというところなんです。そこにある普通科高校ができます。高陽高校です。それから7、8年経ち、高陽東高校ができた。だいたい想像がつきますよね。高陽高校は進学校になりました。高陽東高校はやんちゃな学校。そして開校から12年経った時、これが総合学科ができ始めた翌年だったんですけれども、平成7年、総合学科になり、ちょうど野球も甲子園に出場したこともあり、志願倍率が倍ぐらいになる学校になって、今生徒も安定していますが、一方、総合的な探究の時間や産社であるとか、システムはできてるんだけど、ただこなしているだけというのが本校の課題なんです。広島県で最初の総合学科ですので、この高陽東高校になると県の事務局は、常に本校です。今年は中国ブロックの常務理事という形で私にこの役を受けているわけなんですけれども、本当に他校さんから学んでいるばかりでございまして。ですから、総合学科の強みである探究する力、これをいろんな体験でもってつけていくことが必要なのではないかなと思います。それぞれの学校にはミッションがあり、育てたい生徒像がある。それが例えば今日の特色的な取り組みであるとか、探究活動の中で、本当にその力が身についていっているのだろうか、という視点で検証する必要があるのではないかなと思います。よく言われる探究のプロセス。そこで気をつけていきたいと、私自身も今考えているのですが、今日はヒントをたくさんいただきました。先生が生徒にアドバイスをするとしたら、その下の欄の時間軸と学問軸とか、立場的な分析といったところをアドバイスしながら、課題の設定の充実を図りたいなとかですね。これも文部科学省の資料にあるんですけれども、改めて読み直してみると、「情報の収集」で生徒が陥りやすいところはどこか、といったところに視点を置いて教員がアドバイスをします。3点目の「整理分類」であれば、こここそ教員がいろんな引き出しを持っておいて、生徒に応じてアドバイスをしていくことであるとか。最後の「まとめ表現」。こういったことが書かれています。改めて、文部科学省の資料とか、学習指導要領の解説とか読み直すということは、大事だなと思ったところでございます。特に本校は小論文とかの取り組みをしておりますけれども、今、生成AI系で生徒が作っていくことが想像できますので、その生徒とのテーマの関連性とかいうところを丁寧に読み解いて、教員はアドバイスしていかないと、本当に生徒がネットから引っ張っていく、生成AIから作成してしまうものでごまかされてしまうということが危惧されます。次に今日来て一番良かったのは校内体制の整備といったところです。これも国の資料に書いてあるんですけれども、基本的な考え方とすると、まずは教職員が丸となることが示されています。そのあたりも今日の取り組みで、まずは1から始め、各科の主任を巻き込み、そして全体に広げ、組織的に動く。まさしくこの4つのことがすべてできているなあということを発表の中から見取ったところでございます。校内推進体制についてもこういったことが書かれています。2つ目の実践を支える運営体制として、ESD委員会というのが、これがまた生徒の組織であること、これが定期的に行われていること、これできっと教職員全体に広がり、一体感につながっているのではないかなと思いました。

昨日の池さんの言葉、すべて胸に刺さる言葉ばかりだったのですけれども、その中で私がメモをした1つがこれです。「どう捉える？どう工夫する？そして何から始める？」これは池さんの言葉通りではなかったかもしれませんが、そのように私はメモをしたのですけれども。これってまさしく探究なのかなと思いました。こういった視点で子どもたちを指導する、支援する。そしてそれができる学校づくりをし、これが総合学科の強みになって、できることを伸ばして行って、できないことができるようになる。池さんの言葉にあったことが多いのですけれども、そういったことが、総合学科だからこそできるのではないかなと思っています。ご質問の中にもありましたけれども、先生自身が主体的で協働的に動くというところが、総合学科校には求められてくると思いますので、元気を出して頑張ってください。指導助言になりませんが、以上でございます。ありがとうございました。

第5分科会 「総合学科の成果と課題について」

【発表1】 岐阜県立益田清風高等学校 教諭 横井 宏次

「『総合学科の成果と課題』～地域、学校、人がつながる教育実践からふるさtoを考える」

【発表2】 兵庫県立和田山高等学校 教諭 黒崎 真理子

「地域と連携した探究活動～地域とつながる『わだやマーケット』～」

【指導・助言】 長崎県立佐世保東翔高等学校 校長 峰 薫

岐阜県立益田清風 高等学校

総合学科の成果と課題
～地域、学校、人がつながる教育実践
からふさぎを考える～



本日の内容

- ①学校紹介
- ②産業社会と人間の取組
- ③各系列の実践
- ④総合的な探究の時間
- ⑤成果と課題
- ⑥今後に向けて

①学校紹介



益田清風高校が
目指す学校像

地域に学び

地域と育ち

地域に貢献する

総合学科の 課題

- ①教育課程上、選択できる科目が少ない
- ②情報共有が不十分
- ③地域に定着するための対策が必要

②産業社会と人間

- ・系列ガイダンス
- ・社会人講話
(飛騨小坂200滝、みなみこども園、
作業療法士、調理師)
- ・職業インタビュー
- ・系列体験講座
- ・学習成果発表会

社会人講話 NPO法人飛騨小坂200滝

滝めぐりの地、飛騨小坂とは？

標高3067mの御嶽山の麓にたずね飛騨小坂。約
6万年前の御嶽山の噴火によってできた溶岩流末端
の崩立（がんだて）をはじめ、御嶽山を起点とした
急峻な地形と、広大な森林が育む豊かな水によって
200以上の滝が形成されています。



社会人講話 NPO法人飛騨小坂200滝



社会人講話
NPO法人飛騨小坂200滝

滝めぐりの地、飛騨小坂とは？



観光とは → 光を観る
地域の宝！

《下呂市の宝》

温泉 **飛騨川** **鮎** **鶏ちゃん**
お米 **地域の人** **森**

地域の魅力を発見 🔍



学びの意欲
地域を思う気持ち

地域包括学習



観光文化系列

③各系列
の実践

観光文化系列

福祉系列

保育系列

食文化系列

- ・トウモロコシやトマトの栽培、収穫、商品開発
- ・天領朝市
- ・小坂なリバーベース（魚の養殖所）
- ・楽天との連携授業
 - 観光プランの提案
 - フィンガーフード開発&まち歩きマップ作製

9年前から
一緒に！



とうもろこし農家

桂川さん

と協力



トウモロコシ栽培



トマト栽培



天領朝市



天領朝市



小坂なリバーベース



楽天グループ連携授業



まち歩きマップ作成



まち歩きマップ作成



フィンガーフード開発



福祉系列

- ・清風サロン
- ・スマホ教室
- ・特別支援学校との交流（作業学習体験）
- ・介護技術交流会
- ・介護職員体験交流会
- ・認知症サポーター養成講座
- ・介護実習

清風サロン



特別新学校との交流





特支の生徒と清風の2・3年で「合同チーム」を作り対戦しました！

介護技術交流会



福祉を学ぶ他校の生徒と交流ができました！

介護職員体験交流会



保育系列

- 保育実習
- こども園との交流
- 森の宝島
- こどもみこしの作成

保育実習（職場体験）



保育実習



お楽しみ会 演劇



みなみこども園との交流



森の宝島



食文化系列

- おにぎりアクション
- スープ大作戦
- 食品ロス軽減（JAと連携）
- 地元食材レシピ開発
- 楽天との商品開発&食べ歩きマップ
- 朴葉寿司、味噌

10月食品ロス削減月間・・・「下呂ショッピングセンターぴあ」と
コラボレーションして啓発活動
→ ポスターの作成、掲示

家庭クラブ活動の一環として、各家庭へ掲示物の配布
食品ロス削減月間に対する**全校放送**



1. おにぎりアクション

「わたしたちの食を通じて、
ちょっとだけ世界をよくする」 1
0月16日は国連が制定した「世界食料デー」



#OnigiriAction
04 17
2023 10月

1枚の写真の投稿につき、
5食分の学校給食（100円）が
協賛パートナーの企業から提供されます



1. おにぎりアクション



調理実習でおにぎりを作り、
清風のInstagramに投稿し
おにぎりアクションに参加しました！！

2 スープ大作戦

冷蔵庫一掃！
スープ大作戦！！



実施方法

①週末の冷蔵庫の中身チェック → 余りがちな食材を調べる

②冷蔵庫の中にある食材を使ってスープを作る



3 食品ロス削減への取組

7月 標語の校内選考

↓
JA女性部による標語の選考 3作品に決定

↓
家庭クラブ委員によるポスター作成

8月 JA女性部によるポスターの選考 12作品の中から3作品へ
スターの印刷、マグネットの作成



余りがちな食材も
スープにすると食べやすい！！



食品ロスの削減



10月 地域の方へ啓発用マグネット配布



R5 10月31日(火) Aコープ萩原店、JA・シグマ前



うまいもん甲子園出場



④総合的な探究の時間

1年次 クエストエデュケーション

2年次 進路探究
地域探究(修学旅行) → 地域探求(個人テーマ)

3年次 進路探究
系列別探究活動

系列連携

観光文化

福祉

保育

食文化

- 保育 × 福祉 森の宝島、みなみこども園との交流
- 福祉 × 食文化 清風サロン
- 観光文化 × 食文化 レシピ開発

保育 × 福祉

森の宝島



学校探検



福祉 × 食文化 清風サロン



レシピ開発

観光文化 × 食文化



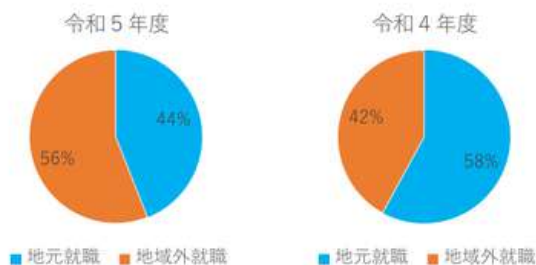
成果

- ①専門性の高い学習の充実
- ②地域との強いつながり（協力体制の構築）
- ③複数の視点からの学び（系列連携）

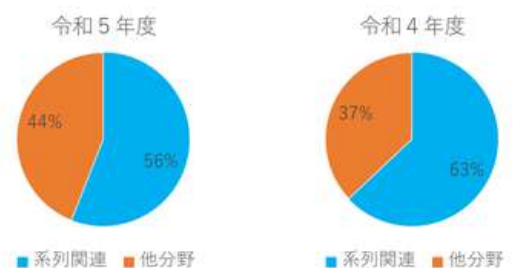
今後の課題

- ◆教育課程、科目選択の見直し
- ◆他系列との連携の拡充
- ◆地域とのつながりの持続性を確保
- ◆地元就職、Uターン

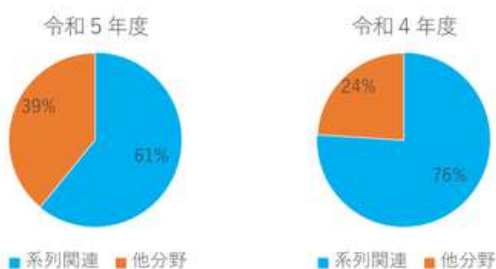
進路（就職）地域への就職者割合



進路（就職）系列に関する就職者の割合



進路（進学）系列に関する進学者の割合



地域包括学習



地域を大切に思う 気持ちの育成

【ふるさと】

生まれ育った土地

やすらぎ、親しみ、懐かしさを感じる場所
貢献、支援したいと思う場所

ご清聴
・。ありがとうございました。・。

【第5分科会 発表1 質疑応答】

Q：静岡県立小笠高等学校

今求められてる、横断的な総合的な学習ができないっていうことを理解した。系列間の連携が突破点ではないかなと思うんですが、普通科商業高校総合学科が三つ挙げられていた。それが最大の問題であるとやっぱり多様な選択を行うためには、ある程度人数必要なんですよ。多分総合学科だけだと思う。これ100人を超えると、まただいぶ違うんですよ。だから、商業科と連携する。あわよくば、商業系列にする。普通科なんかもういらんですよね、人文・自然系が参加者は110人ぐらい。ということで、系列間連携の次の段階として、普通が商業科と言えるっていうその流れはそんな感じですか。それをやりたいと思います。お願いします。



A：発表者

よろしくお願いします。今おっしゃられたように、学科間の連携という部分で、私もそこが必要だなということを感じておりまして、商業科との連携の部分を進めていると特に今回は発展グループとの取り組みではその商品開発をし、行ったら今度マーケティング的な視点での考え方とかそういったところを取り入れて、これからのことを考えていったりするときに、商業との連携というのが必要になってきますので、今ちょうどその楽天との取り組みっていうのを中心にやってるんですけども、その加工文化系列の主任を商業科の先生にやっていただいているので、そういう観点からの学びをいただきながら進めているところではありますが、ただ実際まだそこ学科間で連携した事業っていうのが、まだ具体的にできていないので、今おっしゃられたようにそこがこれからの大きな課題だなというところなんです。あと特に普通科はどうやって連携したらいいのかっていうのがなかなか案が出てこないところなので、もし何か良い取り組みがあれば、ぜひ教えていただきたいです。ありがとうございました。

Q：徳島県立鳴門渦潮高等学校

下呂温泉についての質問です。1つ目は温泉地はどれぐらい賑わってるのか町の雰囲気を知りたい。2つ目はたくさん地域貢献をやられてましたけども、町の人々のいろいろなそれぞれ声ですね、どんな声が上がってるのか。結果、行政がどんな努力するとか、お店屋さんはどうですか。そんな声を、あったらお聞かせいただきたいと思います。お願いします。

A：発表者

温泉街は今の状況といたしましては、人数的なところまではわからないんですけどそのコロナウイルス感染症が広がる前のように、かなり今賑わって特に海外からでも観光客の方がすごく多いという印象です。学習の中にそういった海外の方に対して、ちょっとインタビューをしてみようというような実践なんかしておりますので、観光客の方々にご協力いただき、授業の方を進めるということができている、ぐらい賑わっております。そのぐらい賑わっているのが、温泉街のみになるので、ちょっと離れる、学校があるのが萩原地域と言うんですけど、やっぱりそちらまで足を運んでもらうことができていないというのが現状です。そこで実は先ほどの楽天さんとの連携で、下呂の温泉街から萩原まで足を運んでいただくために、まち歩きマップとか、食べ歩きできるようなものを開発しようということで進んできたという経緯がありますので、温泉街はすごく賑わってます。それ以外がこれからもっと知っていただきたいなというところなんです。

それから地域の方々の声についてはですね、市内唯一の高等学校になるので、その地域にはもう本当にすごく多くの卒業生の方々がいらっしゃいまして、例えば何か学校からちょっとこういうことやりたいんですけどって話をしに行くと、すごく喜んで協力をしてくださいます。逆にこんなことができますよってことで、その地域の方々から協力をしたいですってすごく協力していただける体制があります。すごく期待されているんですけども、それに学校としても応えていかなきゃいけないなっていうところが、今の現状です。

Q：鹿児島県立鶴翔高等学校

今日は発表ありがとうございます。イベントが多い中、職員間の連携が非常に難しいと思います。これだけのイベントを令和4年度から先生も着手されているようですが、4月に教員全員で共通理解を持って関わることはとても難しいと思います。そのように職員間で連携するかとか、講義を受けてるのか、それとも先生のような方がたくさんいて回されているのか、何か学校で独自の工夫があれば教えていただきたい。お願いします。

A：発表者

職員間の連携というところがすごく大きな課題でして、昨年度までは、私がいざ動くような形で成り立ってきた部分があるんですけど、系列間の連携を行うようになってからは、その連携したその系列主任の先生たちも、やっぱり自分のこととしてすごく協力してくださるようになったので、そういう意味では仲間を作っていくことがすごく大事だなということを思いました。なかなかこっちからお願いしますということだけだと、教員が主体的になってところが難しくなるので、やっぱりその先生からいただいた意見をなるべく尊重しながら、その方と一緒に作っていくことができる仲間が増えていく実感が今年はありません。他の先生たちを巻き込むことができる連携っていうのも少しずつできていくのかなということを思いました。

ただ最初にお話したように、他の系列がどんなことをしてるかっていうのを知らない先生方も多くいらっしゃるの、まずはその情報共有しないと、と感じるところでして、そういった連絡には総合学科の会議が必要だと思うんですけど、やっぱり他の先生をやっぱり引き込んで仲間にしていくっていうところが大事だなってことを思っております。なのでちょっと答えになってないかもしれませんが。

Q：愛媛県立北条高等学校

仲間作りというところで何か仕掛けとか仕組みとされるのは工夫がございいますか。

A：発表者

そうですね。年度当初の総合学科の会議で、私の思いをお話をさせていただいて、何とかその系列の連携を今年は力を入れてやっていきたいということをいろんな先生方にお伝えをいたしまして、そうすることによって、考えてくださる先生ってのがやっぱりいらっしゃるの、そこを切り口にだんだん広がってきているっていうような感じがあるので、やっぱりまずは私なりにこんなことしたいとか、ビジョンとかをお伝えをするというところからスタートしてきたかなと思います。

Q：神奈川県座間総合高校

二つ質問をお伺いしたいことがあります。

1つ目なんですけど、私は下呂市について全く知識がなかったので、Googleマップ見ながら、本当に道が1本しかないですね。先ほどあった総合の高校がもう普通がなくせばいいじゃないかっていうところで言うと、普通科に通いたい子たちもいるわけですね。将来を考えて大学に行きたいから、隣の町に行ったりしちゃうんですか。

A：発表者

はいそうですね。もし、違う高校に行こうと思うと、大体電車で1時間ぐらいかければ別の高校に行くことができるので、中にはやっぱりそういった進学校へ行く生徒さんもいらっしゃいます。ただ、やっぱり通いやすかったりとか、普通科に通って進学ができるっていうところで、本校に来てくれる子が多いような感じですので、一部の違う学校には出ていってしまうんですけど、今のところ比較的本校に来てくれているという認識をしております。

Q：

2つ目なんですけども、私の学校では、第二外国語ってのがあって、スペイン語やドイツ語など。下呂温泉にいろんな外国人の方が来ると想像すると、中国人の方であるとか、台湾、香港、英語圏である国とか。そうなったときに、あの素晴らしい地図をせめて英語で作ってお客さんを呼び寄せる、温泉に来た方を交えて呼び寄せるっていうのは、将来必要なのかななどと思うので、バージョンアップ版がいっぱいできるならば、はい。そういうのがあるといいかなって思いました。

A：

大変いいアイデアをいただけたので、その観光客の方に対していろんな言語でチラシを作ることは、普通科の生徒にも協力してもらえるかなというのが今のイメージできたので、これはぜひ持ち帰らせていただきたいと思います。ありがとうございます。

Q：愛媛県立北条高等学校

総合学科として行政と繋がる意義や繋がるきっかけ、行政と繋がることで、生徒成長というところで、何かお聞かせいただけることができましたお願いします。

A：発表者1

本校の教育スクールミッションとして地域と連携した取り組みっていうのが特徴的です。やはり地域の方から外部講師にたくさん来ていただいて、その地域の良さを生徒たちが実感することができるっていう教育ができたらいいなというふうに考えておりますので、特に行政の方との繋がりというのは、そういった地域の何か農業をしていらっしゃるとか、地域で自分で企業を立ち上げた方とか、経営されてる方とかっていうふうな方を紹介していただいて、連携をすることができるっていうのが、よい取り組みになっています。

A：発表者2

行政との関わりとしては、行政の方と関わるのはすごく大きな意味があると思っていて、市の方は誰よりもその市の事を考えられてると思うので、そういった方々の思いを高校生が受け取り、それをどうやって形にしていくかっていうところを考えると、市の方と交流というか、市の方に関わっていただきながら、いろんな行事を進めていくのは早急にやって、そのときに実施するための費用的な面のサポートですと、かあとは市の方なのでいろんなところに繋げ思っておられるのでそういったところの調整をしていただいたりとかっていうことですごく広がりを作る。そういったところで行政の方と関わらせていただいております。

地域と連携した探究活動

～地域とつながる「わだやマーケット」～



兵庫県立和田山高等学校
総合学科推進部 黒崎 真理子



目次

- 01 はじめに
- 02 特徴的な取組
- 03 成果
- 04 課題
- 05 まとめ



01

はじめに



地域活性隊ASAGOLレンジャー
わだやまレッド

01 本校の概要～所在地～

所在地：兵庫県朝来市和田山町校田岡376-1
朝来市の人口：約28,676人（令和5年1月1日時点）
※65歳以上の高齢者は人口の約36%を占める



国史跡の竹田城跡



01 本校の概要～沿革～

- 1948年 開校
- 1952年 普通科に変更
- 1961年 商業科に変更
- 1965年 兵庫県立和田山商業高等学校に改称
- 1989年 情報科を設置
- 1999年 兵庫県立和田山高等学校に改称
総合学科を設置



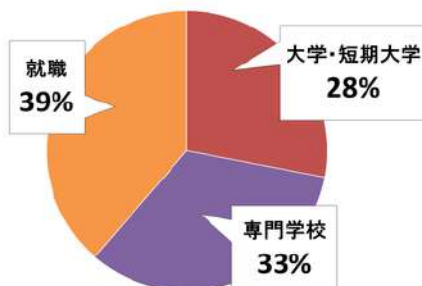
01 本校の概要 教育目標

【スクール・ミッション】
校訓「志学」の理念のもと、公共の精神や人権尊重の精神、豊かな人間性を備え、地域を愛し、地域に根づき、地域へ貢献できる人材を育成する。



「ゆるやかな上昇」
創立50周年記念碑

01 本校の概要 進路状況（令和5年度）



02

特徴的な取組



地域活性隊ASAGOLレンジャー
いくのブルー

02 「産業社会と人間」の実施内容 2単位



02 「総合的な探究の時間」(2年次)の実施内容 2単位



02 「総合的な探究の時間」(3年次)の実施内容 2単位



02 地域コーディネーターの役割

地域の外部講師の選定

- ・授業における外部講師の情報提供、連絡調整
- ・地域と学校をつなぐ橋渡し役

探究活動のアドバイス

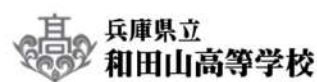
- ・授業計画等、教員へのアドバイス
- ・地域の目線で助言



自分力UP研究会の講師

- ・放課後に希望者を対象とした実践的な探究活動を実施
- ・「わだやマーケット」生徒運営委員の企画、運営のアドバイスも行う

02 地域に開かれた学校行事「わだやマーケット」



兵庫県立
和田山高等学校

成果

03



03 生徒の自己評価

過去3年間(令和3年度～令和5年度)に実施した全校生徒へのアンケート

周りの状況を見て、
与えられた役割を
果たすことができた

79%

何事にも自ら進んで
取り組むことができた

73%

03 「わだやマーケット」来校者数の推移



03 来校者アンケート

過去3年間（令和3年度～令和5年度）に実施した来校者へのアンケート



03 地域・保護者からの意見

説明がとてもわかりやすく、また来たいと思いました。
(30代女性)

生徒がいきいきとしていてよかったです。
(30代男性)

初めて来ましたが、うわさ通りとても良かったです。
(50代女性)

地域で生産されている商品について販売しているところには大変感心しました。
(40代男性)



03 ふるさと意識の醸成



令和5年度に実施した全校生徒223名へのアンケート



地域活性隊ASAGOLレンジャー
さんとうグリーン

課題

04

04 「自走できる生徒」の育成

受け身で、自分の意見を他者に伝えることが苦手

自ら考え、行動し、学び続ける力を持つ生徒の育成



05

まとめ



地域活性隊ASAGOLレンジャー
あさごピンク

05



地域の発展と生徒の成長のために・・・

第7回わだやマーケット
ポスター原画

ご清聴ありがとうございました



第8回わだやマーケット



令和6年11月16日（土）

ぜひお越しください！

【第5分科会 発表2 質疑応答】

Q：徳島県立鳴門渦潮高等学校

- (1)貴校の総合学科に関係する先生は何名いますか？
- (2)推進部の教員は何名ですか？
- (3)課長中心でいろんなことをやっていますか？
- (4)生徒推移なんですが、この2017年と2023年では、募集の生徒数とか全体の生徒数の数は、どうなんですか、変わりはないですか。



A：発表者

- (1)35名程度です。
- (2)教員は3名です。
- (3)はい。
- (4)ここ最近はずごく生徒数が減っています。2017年の頃はおそらく、定員120名のうち、その近くはいたと思います。ですが、近年は120名定員のところ、1年次生の入学が75名ですので、定員割れをしています。

Q：宮城県迫桜高等学校

質問が二つあります。一つ目はわだやマーケットのほかに文化祭をやっているのか。文化祭とわだやマーケットの棲み分けをどのようにやっているのか。二つ目はこのわだやマーケットが初めて始まったのは2017年のようですが、どういう経緯でわだやマーケットの企画を思いついて、実施に至ったのか、もしその実施経緯がありますと教えていただければと思います。

A：発表者

一つ目のご質問にあった文化祭についてですが、文化祭は6月に実施をしております。文化祭は生徒会が主体となって、生徒の思い出作りといえますか、文化部の発表も兼ねて行っています。また、クラスの団結を深めるという意味でも実施しています。わだやマーケットは、「総合的な探究の時間」や「産業社会と人間」の発表会になっていますので、学習発表会という位置づけで棲み分けを行っています。次に、二つ目のご質問のわだやマーケット実施の経緯ですが、実はその当時、立ち上げを行った先生が今年度、教頭先生として戻ってこられたので、その立ち上げ当初の経緯を少しお聞きしました。当時、市から人材創生プログラムという3年計画でキャリア教育の位置づけとして、市内の高校に支援をするという企画が決まったそうです。そのときに和田山高校として、何か大きなことができないかと考えたそうです。その当時いらっしゃった先生が、課題研究の中でわだやマーケットの原形になるような企画を考えておられ、この企画が実際に学校内でできたら面白いのではないかというような夢物語を考えておられたそうです。当初は単なる空想的な企画だったのですが、市の支援を受けることになり、いろいろな金銭的な補助もあり、このような大きなイベントができるようになったと聞いております。

Q：徳島県鳴門渦潮高校

たくさん人が集まってますね、素晴らしいですね。1000人集めるって大変だと思うんですけど、広報の仕方はどのようにやっているのかというのが一点目。二点目なんですけども、この冊子に若者の人口流出を防ぐ取り組みが中心ということで期待される。市の人口にかけていくのは大変だと思うんですけど。ちょっと実情を知らせていただきたいんです。

A：発表者

はい。ご質問ありがとうございます。まず広報の仕方ですが、こちらにありますチラシを2万2000部、今年度も印刷をしています。これを市内のこども園や小中学校、また地域の企業等にお配りしています。InstagramなどのSNSでも発信をしているのですが、やはりSNSは若い世代が見ることが多いので、どうしても地域の高齢者の方にも来校していただくためには、市の広報誌に折り込みをすることが効果的だと考えまして、少し多い数ですが、印刷して配付しています。次に若者の人口流出ですが、本校があります市は、近隣には専門学校や大学がありません。進学をする場合は、卒業後、地元を出ることになるので、18歳人口が減っています。Uターンで戻ってくる場合もあるとは思いますが、それを加味しても、人口流出に歯止めが効かない現状になっています。市としても課題と考えておられて、解決策を一緒に考えているところです。

【第5分科会 指導・助言】

長崎県立佐世保東翔高等学校

校長 峰 薫

先生方、本当にありがとうございました。今日の発表に関してこれから指導助言をさせていただきますが、私は総合学科の経験が浅いという状況にあります。校長になって初めて総合学科に赴任したという状況で、今一生懸命勉強しています。今回の助言や質問で、深かまるどころがあればと思います。

今日のお二人の発表は、総合学科の可能性を感じさせてくれるものだったと思います。

聞いてらっしゃる先生方も、自分の学校だったらどうアレンジして取り入れようかと考えられたのではないのでしょうか。それほど示唆的で、素晴らしい発表でした。2校に共通しているのは、地域との連携であるとか、協働であるとかということを取り入れていらっしゃるころなのですが、その地域というの、漠然とした地域ということではありません。発表の資料には「地域資源」と書いてありました。「地域資源」ということは、地域の「強み」ということだと思います。地域を分析し、その強みというものと、どう生徒があるいは学校が繋がっていくのかということについて、様々な提案をいただいたと考えております。

「産業と教育」という雑誌がありますが、9月号で筑波大学の藤田教授が「総合学科の現状と課題 今後の展望」というテーマで書いていらっしゃいます。その中で現在は、VUCAの時代であるとか、Society5.0とか、少子高齢化とかの様々な問題であるとか、特徴であるとかを持った時代であると言うのです。

このような時代において、OECD Education2030が示唆的ではないかと藤田先生はおっしゃっています。OECD Education2030なのですが、これはプロジェクト名です。社会は自分たちの手でより良く変えることができると信じ、未来を形成するために必要な力、それを三つの要素に分けて提示されています。その三つとは、一つ目が『新たな価値を創造する力』、二つ目が『対立やジレンマに対処する力』、三つ目が『責任ある行動を取る力』です。新たな価値を創造する力というのは、よりよい生活を形成するために革新を行い、これまでにない仕事やビジネス、サービスを生み出し、新たな知識や洞察、アイデア、技術戦略を開発し、それらを新旧の諸問題の解決に向けて応用する力とされています。対立やジレンマに対処する力というのは、一見矛盾しているように見えるアイデアや論理、立場の間の相互関係を考慮し、行動の結果を短期、長期の両面から考える力です。最後に、責任ある行動を取る力とは、自分の経験や、これまで受けてきた教育を踏まえ、かつ、自らの個人的、倫理的、社会的な目標を考慮しながら、自分の行動を省察、評価する力とされています。これは、「産業社会と人間」についての説明に使われているのですが、産社だけではなく、「総合的な探究の時間」に関しても言えることではないかと考えます。

それでは、それぞれの発表についてお話をしたいと思います。

益田清風高校の発表です。三つの大学科が設置された学校で、総合学科の地域包括学習が縦に横に斜めに繋がり、広がっているとことに感心しました。「斜め」というのは、近年のキーワードです。縦の繋がりというのは、先生と子どもとか、上司と部下という繋がり。横の繋がりというのが、同級生とか同期とかの繋がり。斜めの繋がりというのが、強制力であるとか、強い責任とかの発生しない繋がりということで、例えば生徒にとっては、親ではなく、おじさんとか地域の人とか、担任ではない先生とかとの繋がりです。そういうような斜めの関係というのが、実は教育の中で大きな役割を果たすのではないかと思います。逆に言うと、斜めの関係を排除してきた学校教育だから、今の頭打ちの状態ができるのではないかという意見も出ています。またこの斜めの繋がりという言葉は、ビジネスの面でもよく使われる言葉になっています。益田清風高校では地域と繋がるということで、この斜めの関係が上手に作られている。つまり、地域が生徒たちの成長に重要な役割を果たしていると感じました。



益田清風高校の取り組みで注目したいのが、他系列との連携した取り組みです。これは、同級生との繋がりですから、本来は横の関係なのですが、異なる専門性と視点を持った存在として認知されるということで、疑似的な斜めの繋がりという関係が出来上がっていると感じました。この他系列と繋がるということも、非常に教育効果の高い活動であると感じます。

続いて、総合的な探究の時間の設定についてです。一年次に、産社と別に総探が設定されています。産社だけしか入れてないという学校もあると思うのですが、産社と別に総探の時間が設定をされています。また1年次に「人生のミッションを受ける」という面白い発想がある。探究活動への取り組み方が生徒たちの中に、ストンと落とし込まれているから、2年生、3年生での探究がうまくいっているのではないかと感じました。2年次の個人テーマと選択テーマも大変気になりますが、様々に工夫されているのだと感じました。

国立教育政策研究所の教育課程研究センター、教育課程調査官の辻本先生、福祉が専門ですが、その先生が講演でおっしゃっていたことなのですが、「福祉を学ぶことで、介護福祉に関する専門的人材の育成を目指すことがこれまでの目標でした。この福祉科の特色、強みがかえって中学生や保護者に高校卒業後の進路が狭くなると感じさせているのではないかと、問題提起されていました。これからは福祉の学びを通じて自分の得意なこと、好きなことが活かせる多様な進路に対応できるということをPRすべきだ」というふうに福祉の会議でおっしゃっていました。その中で使われていたのが「〇〇×福祉」という考え方です。簡単に言うと、高校で福祉を学んで大学で住まいとか生活空間について学んで、就職はテーマパークでイベントを企画しているというように、「強み」をたくさん作ってこうということですね。まず、新たな価値を創造できるバリュークリエイターへというふうに辻本先生がおっしゃっていました。ですから、系列に関連する就職を選ばなければいけない（生徒が系列に関連した職業を選択したことが、評価の基準となる）と考える必要はないと、私も思っています。

和田山高校の「わだやマーケット」に、総合学科での学びが集約されているということは本当に素晴らしいと思いました。有機的に関わっているということだと思うのですが、3年次の講座と系列の関わり方はどうなっているのか興味がわきました。系列がいくつかあると書いてあるのですが、それと講座の数と中身が合わないのですが、自由に選んでいいのかどうかということも知りたいと思います。もちろん、系列での学びと講座での学び、地域人財からの学びが、生徒たちの強みを増やしていることは、よく伝わって来ました。先生方からの質問もあったように、多くの人を集客できて、本当に地域のためになっていると思います。どなたの言葉かは忘れましたが、「ふるさとのためになる人材というのは、ふるさとのために一生懸命になった経験がある子どもたちだ」という話をされていました。厳しい言い方をすれば、地域のために頑張った、一生懸命やった、地域に貢献できたという経験がない者が戻ってきても、それでは役に立たないということです。まさにこのわだやマーケットは、生徒のやって良かったという満足感だけでなく、あるいは地域を知ることができただけでなく、地域に貢献できた、地域のためになったという「地域の人財」になることができたという証ではないかと感じました。

共感型の学びというものもありますし、解決の糸口が一つだけではないような問いに対しても様々な取り組みをされていると思いました。特に講座方式は、非常にいいなと思います。先生主導というところに疑問があるかもしれませんが、やはり課題解決、新しい価値の創造のためには、「知識」とか「スキル」とかが必要だと思うのです。それと生徒たちの実践が、円環のように巡っていかねばいけないと考えます。ですから、レベルの高い知識があって、それを生かす場としてのフィールドがあるところが、和田山高校での学びの魅力だと思います。せっかくあるものをやめて0（ゼロ）にするのではなくて、うまく繋げるとか、あるいは新たな価値づけをするということで、繋げていただけたらいいのではないかと思います。

以上で、私からの指導助言を終えたいと思います。2名の先生の発表、ありがとうございました。